

始



# 電氣工作物規程

株式會社 才一ム社

特 219  
488

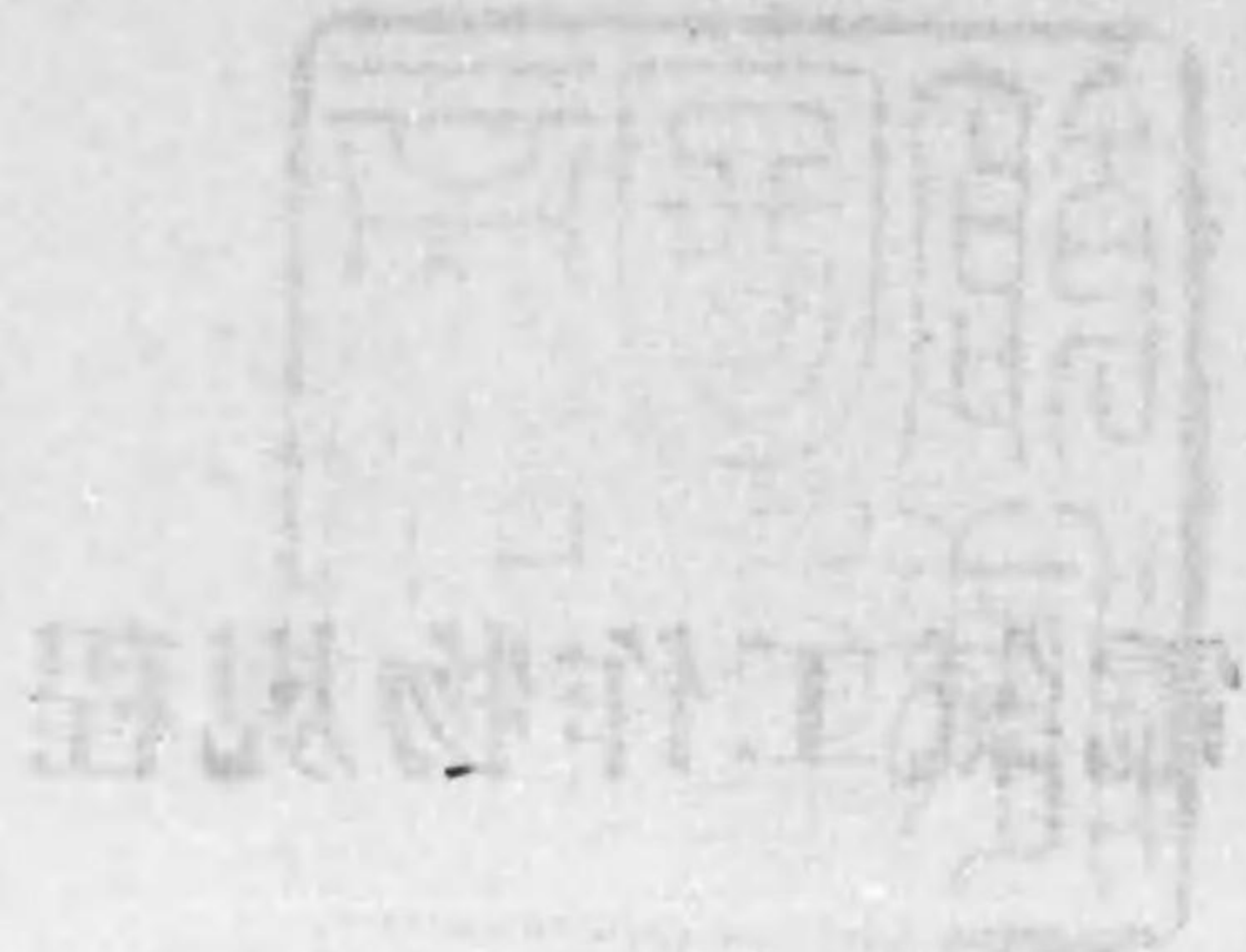


# 電氣工作物規程

大正八年十月十三日遞信省令第八十五號  
大正十三年三月三日遞信省令第三號  
大正十四年十一月十三日遞信省令第八十四號  
昭和七年十一月二十一日遞信省令第五十三號

株式會社 才一ム社





Faint text below the stamp on the left page.

Faint text below the stamp on the left page.



# 電氣工作物規程 目次

## 第一編 本 則

- 第一章 總 則 ..... 1
  - 第一節 通 則..... 1
  - 第二節 機械及器具..... 4
  - 第三節 電線、電路及附屬設備..... 10
- 第二章 送電線路、配電線路及饋電線路 ..... 16
  - 第一節 通 則..... 16
  - 第二節 低壓及高壓架空電線路..... 19
  - 第三節 特別高壓架空電線路..... 34
  - 第四節 地中電線路..... 46
  - 第五節 隧道其ノ他之ニ類スル場所ヲ通過スル電線路..... 51
  - 第六節 保安通信設備..... 52
- 第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事 ..... 56
  - 第一節 屋外工事..... 56
  - 第二節 屋内工事..... 62
  - 第三節 隧道、坑道其ノ他之ニ類スル場所ノ工事... 76
  - 第四節 臨時工事..... 80
- 第四章 電氣鐵道 ..... 83
  - 第一節 通 則..... 83
  - 第二節 電車線路及第三軌條..... 84

電氣工作物規程

第三節 歸 線..... 87  
第四節 電 車..... 91

第二編 細 則

第一章 總 則..... 93  
第一節 機械及器具..... 93  
第二節 電線、電路及附屬設備..... 97  
第二章 送電線路、配電線路及饋電線路..... 114  
第一節 通 則..... 114  
第二節 低壓及高壓架空電線路..... 124  
第三節 特別高壓架空電線路..... 131  
第四節 保安通信設備..... 146  
第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事..... 151  
第一節 屋外工事..... 151  
第二節 屋內工事..... 155  
第四章 電氣鐵道..... 168  
第一節 通 則..... 168  
第二節 電車線路及第三軌條..... 168  
第三節 歸 線..... 170  
附 則..... 172

電氣工作物規程

第一編 本 則

第一章 總 則

第一節 通 則

- 第一條 電氣工作物ノ施設及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害ヲ防止スルニ必要ナル施設ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル
- 一 發電所トハ發電機、原動機其ノ他ノ機械器具ヲ設備シ電氣ヲ發生スル所ヲ謂フ
  - 二 變電所トハ構外ヨリ送電セラルル電氣ヲ更ニ構外ニ送電又ハ配電スル爲構内ニ設備シタル變壓器、電動發電機、廻轉變流機其ノ他ノ機械器具ニ依リ變成スル所ヲ謂フ
  - 三 開閉所トハ發電所、變電所、需用場所以外ノ場所ニ於テ送電又ハ配電ノ爲構内ニ設備シタル開閉

電氣工作物規程

- 器其ノ他ノ装置ニ依リ電路ヲ開閉スル所ヲ謂フ
- 四 電線トハ強電流電氣傳送ニ用フル電氣導體ヲ謂フ
- 五 電線路トハ電線及之ヲ支持シ又ハ保藏スル工作物ヲ謂フ
- 六 送電線路トハ發電所又ハ變電所相互間ヲ連絡スル電線路ヲ謂フ
- 七 配電線路トハ發電所、變電所又ハ送電線路ヨリ他ノ發電所又ハ變電所ヲ經過セズシテ需用場所ニ至ル電線路ニシテ引込線以外ノモノヲ謂フ
- 八 引込線トハ配電線路ヨリ分岐シテ需用場所ノ引込口ニ至ル部分ノ電線ヲ謂フ
- 九 架空引込線トハ配電線路ノ支持物ヨリ他ノ支持物ヲ經過セズシテ需用場所ノ取付點ニ至ル架空電線ヲ謂フ
- 十 饋電線路トハ發電所又ハ變電所ヨリ他ノ發電所又ハ變電所ヲ經過セズシテ電車線又ハ第三軌條ニ至ル電線路ヲ謂フ
- 十一 電車線路トハ電車線及之ヲ支持スル工作物ヲ謂フ
- 十二 電車線トハ電車ニ其ノ動力タル電氣ヲ供給スルニ用フル架空接觸電線ヲ謂フ

第一章 總 則

- 十三 支持物トハ電線路ニ使用スル木柱、鐵柱、鐵塔及鐵筋「コンクリート」柱ヲ謂フ
- 十四 弱電流電線トハ電信線、電話線、電氣信號線其ノ他弱電流電氣傳送ニ用フル電氣導體ヲ謂フ
- 十五 地中管路トハ地中ニ施設シタル電線路、弱電流電線及之ヲ保藏スル管、瓦斯管、水道管、下水管、空氣管並ニ之ニ附屬スル地中函及接續函等ヲ謂フ
- 第三條 電壓ハ左ノ區別ニ依リ低壓、高壓及特別高壓ノ三種トス
- 一 低壓トハ直流ニ在リテハ六百ヴオルト、交流ニ在リテハ三百ヴオルトヲ超過セザルモノヲ謂フ
- 二 高壓トハ低壓ノ限度ヲ超過シ三千五百ヴオルトヲ超過セザルモノヲ謂フ
- 三 特別高壓トハ高壓ノ限度ヲ超過スルモノヲ謂フ
- 第四條 本令ニ明文ナキ施設ニ關シテハ其ノ設計ニ付遞信大臣ニ認可ヲ申請スベシ
- 第五條 本令ニ依リ遞信大臣又ハ遞信局長ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由、工事方法及關係圖面ヲ具シ申請スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ遞信大臣ニ認可ヲ申請スルモノナルトキハ申請書ノ副本ヲ所轄遞信局長ニ提出スベシ

第六條 電氣事業法施行規則ニ依リ逓信大臣又ハ逓信局長ニ認可ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ申請事項中本令ニ依リ逓信大臣又ハ逓信局長ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ施設シ得ザル事項又ハ之ニ關係スルモノアルトキハ其ノ申請書中ニ特ニ其ノ旨ヲ明記スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ本令ニ依リ別ニ認可ヲ受クルコトヲ要セズ但シ逓信局長ニ認可ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ申請事項中本令ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ施設シ得ザル事項又ハ之ニ關係スルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 電氣事業者ハ三年間本令ノ規定ニ依ル記録書類ヲ保存スルコトヲ要ス

第二節 機械及器具

第八條 發電機、電動機、調相機等ハ其ノ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ヲ以テ其ノ捲線ト大地トノ間ノ絶縁耐力ヲ試験シ十分間以上之ニ耐フルコトヲ要ス  
前項ノ機械ヲ一定限度ヲ超過セザル「インピーダンス」消弧線輪ノ類ヲ除クヲ通ジテ中性點ヲ接地シタル電路ニ接続スル場合ハ特別高壓ノモノニ限り前項ノ試験電壓ヲ最大使用電壓ノ一・二五倍迄ニ輕減スルコトヲ

得  
廻轉變流機ハ其ノ直流側ノ最大使用電壓ノ一倍ノ交流電壓ヲ以テ其ノ捲線ト大地トノ間ノ絶縁耐力ヲ試験シ十分間以上之ニ耐フルコトヲ要ス  
水銀整流器ハ其ノ直流側ノ最大使用電壓ノ二倍ノ交流電壓ヲ以テ主陽極ト外函トノ間ノ絶縁耐力ヲ試験シ且直流側ノ最大使用電壓ノ一倍ノ交流電壓ヲ以テ陰極及外函ト大地トノ間ノ絶縁耐力ヲ試験シ各十分間以上之ニ耐フルコトヲ要ス  
第一項、第三項及前項ノ試験電壓ハ最低五百ヴォルトトス

第九條 變壓器計器用變成器ヲ含マズハ特殊ノモノ(細則第五條参照以下細則参照ノ場合ハ細則何條ト記載ス)ヲ除ク外其ノ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル絶縁耐力試験ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

- 一 低壓ノモノニ在リテハ其ノ捲線ト他ノ捲線、鐵心及外函トノ間ノ絶縁耐力ヲ交流千ヴォルトニテ試験シ十分間以上之ニ耐フルコト但シ二十五ヴォルト以下ノ低壓ノモノニ在リテハ交流五百ヴォルトニテ試験スルモノトス
- 二 高壓ノモノニ在リテハ其ノ捲線ト他ノ捲線、鐵心及外函トノ間ノ絶縁耐力ヲ最大使用電壓ノ二倍ノ電壓ヲ以テ試験シ十分間以上之ニ耐フルコト但

電氣工作物規程

シ五百ヴォルト以下ノ高壓ノモノニ在リテハ交流  
千ヴォルトニテ試験スルモノトス

三 特別高壓ノモノニ在リテハ左ノ區別ニ依ル試験  
電壓ヲ以テ其ノ捲線ト他ノ捲線、鐵心及外函トノ  
間ノ絶縁耐カヲ試験シ十分間以上之ニ耐フルコト

最大使用電壓	試験電壓
(イ) 五千ヴォルト未満	最大使用電壓ノ二倍
(ロ) 五千ヴォルト以上 一萬ヴォルト未満	最大使用電壓ニ五千ヴォルトヲ加ヘタルモノ
(ハ) 一萬ヴォルト以上 五萬ヴォルト未満	最大使用電壓ノ一・五倍
(ニ) 五萬ヴォルト以上	最大使用電壓ニ二萬五千ヴォルトヲ加ヘタルモノ

特別高壓用變壓器ヲ一定限度ヲ超過セザル「イン  
ピーダンス」消弧線輪ノ類ヲ除クヲ通ジテ中性點ヲ接地シ  
タル電路ニ接続スル場合ハ前項第三號ノ試験電壓  
ヲ左ノ區別ニ依リ輕減スルコトヲ得

最大使用電壓	試験電壓
(イ) 五千ヴォルト未満	最大使用電壓ノ一・五倍
(ロ) 五千ヴォルト以上 一萬ヴォルト未満	最大使用電壓ニ二千五百ヴォルトヲ加ヘタルモノ
(ハ) 一萬ヴォルト以上 五萬ヴォルト未満	最大使用電壓ノ一・二五倍
(ニ) 五萬ヴォルト以上	最大使用電壓ニ一萬三千ヴォルトヲ加ヘタルモノ

第一章 總則

特殊ノ設計ニ依ル變壓器ニシテ逓信大臣ノ認可ヲ  
受ケタル場合ハ前二項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第十條 特別高壓用變壓器其ノ他ノ機械器具ハ別  
段ノ規定アル場合ヲ除クノ外發電所、變電所其ノ他  
之ニ準ズル場所ニシテ取扱者ノ外出入シ得ザル様設  
備シタル場所ニ裝置スルコトヲ要ス

第十一條 市街地外ニ於テ特別高壓電線路ニ接続ス  
ル配電變壓器ニシテ屋外ニ設置スルモノハ左ノ各號  
ニ依リ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス  
(細第六條)

一 一次電壓ハ三萬五千ヴォルト以下、二次電壓ハ  
高壓ナルコト但シ第十三條但書ノ規定ニ依ル場合  
ハ此ノ限ニ在ラズ

二 總出力ハ百五十キロヴォルトアムペア以下ナル  
コト但シ特殊ノ事由ニ依リ所轄逓信局長ノ認可ヲ  
受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

三 變壓器及特別高壓電氣ヲ以テ充電スル電線其ノ  
他ノ器具ハ地表上六米以上ノ高サニ施設スルコト  
但シ其ノ周圍ニ藩籬ヲ設ケ藩籬ノ高サ及藩籬ヨリ  
充電部分ニ至ル距離ノ和ヲ六米以上ニ保持スル場  
合ハ此ノ限ニ在ラズ

市街地ニ於テハ前項ノ配電變壓器ヲ施設スルコトヲ

得ズ但シ土地ノ狀況ニ依リ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

**第十二條** 高壓架空電線路ニ接続スル配電變壓器ニシテ屋外ニ設置スルモノハ地表上四・五米以上ノ高さニ於テ支持物ニ堅牢ニ取付クルコトヲ要ス

高壓地中電線路ニ接続スル配電變壓器ハ地中ニ適當ニ施設シ又ハ第三種地線工事ニ依リ接地シタル金屬製變壓塔内又ハ石造、煉瓦造若ハ「コンクリート」造ノ變壓塔内ニ裝置スルコトヲ要ス

危険ノ虞ナキ様適當ニ施設シタル場合（細第七條）又ハ特殊ノ設計ニ依リ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前二項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第十三條** 特別高壓ヲ直ニ低壓ニ變成スル變壓器ハ特殊ノ場合（細第八條第一項）又ハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ一萬五千ヴオルト以下ノモノニシテ危険ノ虞ナキ様適當ニ施設スル場合（細第八條第二項）ハ此ノ限ニ在ラズ

**第十四條** 發電機、電動機、廻轉變流機、調相機等ノ鐵臺及變壓器ノ外函（外函ナキ場合ハ鐵心）ハ左ノ各號ニ依リ接地スルコトヲ要ス但シ危険ノ虞ナキ様適當ノ施設ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ（細

第九條)

一 特別高壓及高壓ノモノ 第一種地線工事

二 低壓ノモノ 第三種地線工事

乾燥シタル場所ニ施設スル交流百五十ヴオルト、直流三百ヴオルト以下ノモノニ限リ前項ノ接地ハ之ヲ省略スルコトヲ得

**第十五條** 高壓又ハ特別高壓用開閉器、自動遮斷器、避雷器其ノ他之ニ類シ弧光ヲ發スル器具ト木製ノ壁、天井其ノ他ノ可燃質物トハ高壓用ノモノニ在リテハ一米以上、特別高壓用ノモノニ在リテハ二米以上離隔スルコトヲ要ス但シ耐火質物ヲ以テ兩者間ヲ離隔シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

**第十六條** 高壓又ハ特別高壓電氣ヲ以テ充電スル器具及電線ハ人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ様適當ニ裝置スルコトヲ要ス但シ取扱者ノ外出入シ得ザル様設備シタル場所ニ裝置スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

**第十七條** 非包裝可熔片ハ定格電流ノ一・二五倍ノ電流ニ耐ヘ一定時間内ニ一定電流ニ依リ確實ニ熔斷スルモノナルコトヲ要ス（細第十條）

非包裝可熔片ハ特殊ノモノ（細第十一條）ヲ除クノ外硬キ金屬製ノ端片ヲ附着シタルモノヲ使用スルコトヲ要ス



第 三 節 電 線、電 路 及 附 屬 設 備

第十八條 絶縁電線ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク  
ノ外使用ノ目的ニ依リ第一種絶縁電線、第二種絶縁  
電線、第三種絶縁電線又ハ第四種絶縁電線ヲ使用ス  
ルコトヲ要ス（細第十二條乃至第十六條）但シ逓信  
大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 可撓紐線ニハ使用ノ目的ニ依リ第一種可  
撓紐線、第二種可撓紐線、第三種甲可撓紐線、第三  
種乙可撓紐線又ハ第四種可撓紐線ヲ使用スルコトヲ  
要ス（細第十七條乃至第二十二條）但シ逓信大臣ノ  
認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 絶縁電線及可撓紐線ハ使用電流ニ因ル温  
度上昇ノ爲絶縁物ヲ損傷セザルモノナルコトヲ要ス  
（細第二十三條）

第二十一條 電路中必要ナル箇所ニハ別段ノ規定アル  
場合ヲ除クノ外其ノ各極ニ適當ナル開閉器ヲ装置ス  
ルコトヲ要ス

第二十二條 機械器具及電線ヲ保護スル爲電路中必要  
ナル箇所ニ適當ナル自動遮断器ヲ装置スルコトヲ要  
ス  
地線工事ノ接地線、多線式電路ノ中性線及變壓器ノ

低壓側ノ一端子ヲ接地シタル場合ニ於ケル接地側ノ  
低壓架空電線ニハ自動遮断器ヲ装置スルコトヲ得ズ

第二十三條 高壓及一萬五千ヴオルト以下ノ特別高壓  
電路中必要ナル箇所ニハ適當ナル檢漏器ヲ装置スル  
コトヲ要ス（細第二十五條）

第二十四條 高壓及特別高壓電路中必要ナル箇所（細  
第二十六條）ニハ避雷器ヲ適當ニ装置スルコトヲ要  
ス  
避雷器ノ接地ハ第一種地線工事ニ依リ之ヲ爲スコト  
ヲ要ス

第二十五條 電路ニ装置シタル開閉器、自動遮断器、  
誘導調整器、計器用變成器等ノ器具ハ其ノ最大使用  
電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル電壓ヲ以テ其ノ電氣ヲ通  
ズル部分ト大地トノ間ノ絶縁耐力ヲ試験シ十分間以  
上之ニ耐フルコトヲ要ス

最大使用電壓 試 驗 電 壓

- |            |                             |
|------------|-----------------------------|
| 一 五萬ヴオルト未満 | 最大使用電壓ノ一・五倍但<br>シ最低五百ヴオルトトス |
| 二 五萬ヴオルト以上 | 最大使用電壓ニ二萬五千<br>ヴオルトヲ加ヘタルモノ  |

前項ノ器具ヲ一定限度ヲ超過セザル「インピーダン  
ス」類ヲ除ク消弧線輪ノヲ通ジテ中性點ヲ接地シタル電路ニ  
接続スル場合ハ特別高壓ノモノニ限り前項ノ試験電

最大使用電壓	試験電壓
一 五萬ヴォルト未満	最大使用電壓ノ一・二五倍
二 五萬ヴォルト以上	最大使用電壓ニ一萬三千 ヴォルトヲ加ヘタルモノ

發電所、變電所又ハ開閉所内ニ施設シタル機械器具ノ接續線及母線ノ絶縁耐力ニ關シテハ前二項ノ規定ヲ準用ス但シ多心電纜ニ在リテハ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶縁耐力ヲモ試験スルモノトス  
特殊ノ設計ニ依ル器具ニシテ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ第一項及第二項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第二十六條** 變壓器ニ依リ高壓電路ニ結合セラルル低壓電路ニハ其ノ變壓器ノ中性點ニ於テ第二種地線工事ヲ施スコトヲ要ス但シ變壓器ノ構造又ハ配電方法ニ依リ其ノ中性點ヲ接地シ難キトキハ低壓側ノ電壓二百五十ヴォルト以下ノモノニ限り其ノ一端子ヲ接地スルコトヲ得（細第二十七條）

特殊ノ場合（細第二十八條）又ハ特ニ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得  
第一項ノ地線工事ノ接地線ト大地トノ間ノ電氣抵抗ハ毎年一回以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス

高壓計器用變成器ノ二次側電路ニハ第三種地線工事ヲ施スコトヲ要ス

**第二十七條** 變壓器ニ依リ特別高壓電路ニ結合セラルル高壓電路ニハ特殊ノ場合（細第二十九條）ヲ除クノ外變壓器ノ端子ニ近ク其ノ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ電壓ヲ以テ放電スベキ適當ナル裝置ヲ一極ニ施スコトヲ要ス

最大使用電壓	放電電壓
一 千ヴォルト未満	最大使用電壓ノ約二倍以下
二 千ヴォルト以上 千四百ヴォルト未満	約二千ヴォルト以下
三 千四百ヴォルト以上	最大使用電壓ノ約一・五倍以下

變壓器ニ依リ特別高壓電路ニ結合セラルル低壓電路ニハ特殊ノ場合（細第二十八條）ヲ除クノ外前條第一項ノ場合ニ準ジ其ノ變壓器ノ中性點又ハ一端子ニ於テ第二種地線工事ヲ施スコトヲ要ス但シ接地線ト大地トノ間ノ電氣抵抗ハ十オームヲ超過セシムルコトヲ得ズ

前項ノ地線工事ノ接地線ト大地トノ間ノ電氣抵抗ハ毎年一回以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス

特別高壓計器用變成器ノ二次側電路ニハ第一種地線工事ヲ施スコトヲ要ス

**第二十八條** 電路ハ左ノ部分ヲ除クノ外其ノ全部ヲ充分大地ヨリ絶縁スルコトヲ要ス但シ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

- 一 前二條ノ規定ニ依リ變壓器ノ低壓側ヲ接地スル場合ニ於ケル接地點
- 二 電路ノ保安ノ目的ヲ以テ其ノ中性點ヲ接地スル場合ニ於ケル接地點
- 三 特殊ノ事由ニ依リ電路ノ一部ヲ大地ヨリ絶縁ザル場合(細第三十條)ニ於ケル不絶縁部分

**第二十九條** 特別高壓電路ニ於テ保安ノ目的ヲ以テ其ノ中性點ヲ接地スル爲使用スル抵抗器又ハ「リアクトル」ハ地絡電流ヲ安全ニ通ジ得ルモノナルコトヲ要ス

高壓電路ノ保安ノ目的ヲ以テ其ノ中性點ヲ接地スル場合ニ於テハ其ノ接地點ハ一箇ニ限り且該電路ノ一部ニ地氣ヲ生ジタルトキ中性點ヨリ大地ニ通ズル電流ハ五百ミリアムペア以下ナルコトヲ要ス但シ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第三十條** 地線工事ハ左ノ三種トシ適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第三十一條)

- 一 第一種地線工事 接地線ト大地トノ間ノ電氣抵

抗ヲ十オーム以下ニ保持スルモノ

- 二 第二種地線工事 接地線ト大地トノ間ノ電氣抵抗ヲ其ノオーム數ニ變壓器一次側ニ於ケル自動遮斷器ノ動作電流非包裝可熔片ニ在リテノアムペアハ其ノ定格電流ノ二倍數ヲ乗ジタル積ガ百五十以下ナル様保持スルモノ但シ接地線ト大地トノ間ノ電氣抵抗ハ五オーム以下ナルコトヲ要セス

- 三 第三種地線工事 接地線ト大地トノ間ノ電氣抵抗ヲ百オーム以下ニ保持スルモノ
- 地線工事ヲ施スベキ場合ニ於テ工事上已ムヲ得ザルトキハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ本條ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

## 第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

### 第一節 通 則

第三十一條 架空電線路ノ支持物ハ他ノ架空電線路又ハ架空弱電流電線路ニ屬スル電線ノ間ヲ貫通シテ之ヲ建設スルコトヲ得ズ

架空電線ハ添架ノ場合ヲ除ク外他ノ架空電線路電車線路又ハ架空弱電流電線路ニ屬スル支持物ヲ挾ミテ之ヲ架渉スルコトヲ得ズ

第三十二條 架空電線ノ分岐ハ其ノ電線ノ支持點ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 架空電線路用支持物強度ノ計算ニ適用スベキ風壓荷重ハ甲種風壓荷重、乙種風壓荷重及丙種風壓荷重ノ三種トス

一 甲種風壓荷重 風壓ヲ垂直面ニ對シ一平方米ニ付二百疋、圓壻面ニ對シ其ノ垂直投影面積一平方米ニ付電線其ノ他ノ架渉線ニ在リテハ百疋、支持物ニ在リテハ百二十疋トシテ計算シタルモノ

二 乙種風壓荷重 電線其ノ他ノ架渉線ノ周圍ニ厚

## 第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

サ六耗比重〇・九ノ氷雪附着シタルトキ風壓ヲ前號ノ二分ノ一トシテ計算シタルモノ

三 丙種風壓荷重 風壓ヲ第一號ノ二分ノ一トシテ計算シタルモノ

前項各號ノ風壓ハ支持物ノ種類ニ依リ左ノ如ク加ハルモノトシテ計算スルモノトス

一 木柱、鐵柱及鐵筋「コンクリート」柱 特殊ノモノヲ除ク外電線路ト直角ノ方向ニ於テ架渉線及支持物ニ前項風壓ノ一倍

二 鐵塔 左記ノ場合ヲ各別ニ計算スルモノトス

(イ) 電線路ト直角ノ方向ニ於テ架渉線ニハ前項風壓ノ一倍、鐵塔ニハ其ノ前面ニ前項風壓ノ一・五倍

(ロ) 電線路ノ方向ニ於テ鐵塔<sup>可撓鐵塔</sup>ヲ除クニハ其ノ前面ニ前項風壓ノ一・五倍

第三十四條 架空電線路ニ用フル鐵柱、鐵塔及鐵筋「コンクリート」柱ノ強度ハ甲種風壓荷重及乙種風壓荷

重<sup>氷雪多キ地方(細第三ノ執レニ對シテモ適當ニ計算十二條)ノ場合ニ限ル</sup>

シタルモノナルコトヲ要ス但シ人家連檐ノ場所ニ施設スル低壓若ハ高壓架空電線路ノ支持物ニ在リテハ丙種風壓荷重ニ依リ計算スルコトヲ得(細第三十三條、第三十四條及第三十五條)

前項ノ場合ニ於テ支持物基礎ノ強度ハ安全係數ヲ二

以上トシテ計算シタルモノナルコトヲ要ス

**第三十五條** 木柱、鐵柱及鐵筋「コンクリート」柱ニ在リテハ支線ヲ用ヒテ其ノ強度ノ一部ヲ分擔セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ支線ニハ四耗以上ノ亞鉛鍍鐵線五條以上ヨリ成ルモノヲ使用シ且其ノ強度ハ安全係數ヲ三以上トシテ計算シタルモノナルコトヲ要ス（細第三十三條、第三十六條及第三十八條）

**第三十六條** 架空電線路ノ支持物ニハ事業者名又ハ略稱、支持物番號及建設年月ヲ表示スルコトヲ要ス高壓又ハ特別高壓架空電線路饋電線路ヲ除クニハ公衆ヲシテ注意ヲ爲サシムル爲適當ナル表示ヲ爲スコトヲ要ス（細第三十九條）

**第三十七條** 架空電線ヲ他ノ架空電線電車線ヲ含ム若ハ架空弱電流電線ト交叉シ又ハ二・五米以內ノ距離ニ接近シテ施設セントスル場合又ハ地中電線路ヲ他ノ地中電線路若ハ地中管路ト交叉シ又ハ二米以內ノ距離ニ接近シテ施設セントスル場合ハ其ノ工事着手ノ前日迄ニ建設ノ場所及日時ヲ關係管理者ニ通知シ立會ヲ求ムベシ其ノ既ニ施設シタルモノヲ修理又ハ撤去セントスルトキ亦同ジ但シ關係管理者ニ於テ豫定ノ日時ニ立會ヲ爲サザルトキハ直ニ工事ヲ施行スルコトヲ得

第二節 低壓及高壓架空電線路

**第三十八條** 市街地ノ道路ニハ二箇以上ノ架空電線路ヲ建設スルコトヲ得ズ

土地ノ狀況ニ依リ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第三十九條** 市街地ニ於テ道路ニ沿ヒ道路外ニ架空電線路ヲ建設スルトキハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス但シ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一 道路ノ一側ニ架空弱電流電線路アルトキハ其ノ側ニ於テ道路ヨリ二・五米以內ニ接近シテ建設セザルコト

二 道路及其ノ兩外側二・五米ヲ含ム地帶内ニ道路ニ竝行スル架空電線路アルトキハ其ノ地帶内ニ建設セザルコト

**第四十條** 市街地ノ道路上ニ電線ヲ架設スル架空電線路ハ左ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス但シ工事ノ上若ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ザルトキ又ハ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得（細第四十一條）

一 架空弱電流電線路トノ交叉數ヲ最小ナラシムル

コト

二 道路ノ兩側ニ跨ラズシテ其ノ一側ノミニ施設スルコト但シ交通ニ支障ナキ様施設シタル水平支線ハ此ノ限ニ在ラズ

三 道路ノ一側ニ架空弱電流電線路アルトキハ他ノ一側ニ施設スルコト

四 電線ハ道路<sup>交通頻繁ナラザル道路</sup>ノ交叉點以外ノ場所ニ於テ道路ヲ横斷セザルコト但シ左ニ掲グルモノハ此ノ限ニ在ラズ

(イ) 道路上ニ於ケル配電線路ヨリ分岐シテノ需用場所ノ構外ニ於ケル支持物ヲ經過セズシテ其ノ構内専用配電線路ニ達スル一徑間ノ電線

(ロ) 低壓架空電線ノ架空引込線ニ隣接スル部分(細第四十二條第一項第二號)ガ道路上ニ於ケル配電線路ニ達スル場合ニ於テ其ノ線路ヨリ分岐スル一徑間ノ電線

五 一電線路ノ幅員<sup>幅員ニハ支線、支柱ヲ含マズ以下之ニ同ジ</sup>ハ二・七米ヲ超過セシメザルコト

六 支持物ハ八十度以下ニ傾斜セシメザルコト  
前項第四號但書(ロ)ノ場合ニ於テハ道路ノ對側ニ於テ道路上ニ支持物ヲ建設スルコトヲ得ズ

第四十一條 架空電線路ト架空弱電流電線路<sup>單線式電話線路ヲ</sup>

除クト並行スル場合ハ誘導作用ニ因ル通信上ノ障害ヲ及ボサザル様電線相互間ノ距離ヲ左ノ各號ニ依リ離隔スルコトヲ要ス

一 交流ノ低壓若ハ高壓電線又ハ直流複線式饋電線ニ在リテハ二米以上

二 直流單線式饋電線ニ在リテハ四米以上  
弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ前項ノ離隔距離ヲ六十種迄ニ短縮スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ施設スルモ猶既設架空弱電流電線路ニ對シ障害ヲ及ボス虞アルトキハ更ニ適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第四十三條及第九十一條)

第四十二條 架空電線ニハ其ノ使用電壓ニ從ヒ左ノ電線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ要ス(細第三十三條)但シ低壓架空電線ノ架空引込線ニ隣接スル部分(細第四十二條)ニシテ徑間二十米以下ナル場合ニ限リ二耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ得

使用電壓 電線

- 一 低 壓 二・六耗ノ硬銅線
- 二 高 壓 四耗ノ硬銅線

前項ノ電線ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ

## 電氣工作物規程

使用電壓ニ從ヒ左ニ掲グル絶縁電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ要ス

使用電壓	絶縁電線
一 三百ヴォルト以下	第一種絶縁電線
二 三百ヴォルトヲ超過スル直流低壓	第二種絶縁電線
三 高 壓	第三種絶縁電線

**第四十三條** 架空電線ノ地表上ノ高さ及造營物トノ間隔ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ場合ハ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

- 一 道路ヲ横斷スル場合ニ於テハ地表上六米以上
- 二 鐵道又ハ軌道ヲ横斷スル場合ニ於テハ軌條面上六米以上
- 三 前二號以外ノ場合ニ於テハ地表上五米以上
- 四 造營物ノ側面ニ於テハ造營物ト電線トノ距離一・二米以上
- 五 造營物ノ上部ニ於テハ造營物ト電線トノ距離二米以上

低壓架空電線ノ架空引込線ニ隣接スル部分（細第四十二條）ニシテ其ノ徑間二十米以下ナル場合ハ前項第三號ノ制限ヲ四米迄ニ短縮スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ電線ヲ人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ様施設スル

## 第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

キハ第一項第四號ノ制限ヲモ六十纏迄ニ短縮スルコトヲ得

橋梁ノ下部其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スル低壓架空饋電線ハ工事上已ムヲ得ザル場合ニ限り第一項第三號ノ制限ヲ三・五米迄ニ短縮スルコトヲ得

**第四十四條** 同一支持物ニ高壓架空電線ト低壓架空電線トヲ併架スルトキハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ様取付ケタル電線ハ此ノ限ニ在ラズ（細第四十四條）

- 一 高壓電線ヲ低壓電線ノ上部ト爲シ別箇ノ腕木ニ架設スルコト
- 二 高壓電線ト低壓電線トハ五十纏以上離隔スルコト

特殊ノ設計ニ依リ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第四十五條** 支持物ヲ共用スルニ事業者以上ノ架空電線路ハ前條及左ノ各號ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス但シ特殊ノ設計ニ依ルモノハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

- 一 高壓、低壓毎ニ各所屬ノ腕木ヲ區劃シ色別其ノ他ノ方法ヲ以テ其ノ所有者ヲ明ニスルコト
- 二 一ノ支持物ヨリ一事業者ノミ引込線ヲ分岐スル

コト

第四十六條 高壓架空電線ガ道路ト交叉スル場合又ハ他ノ低壓若ハ高壓架空電線ト其ノ上部ニ於テ交叉スル場合ニ於テハ其ノ支持物ハ左ノ各號ニ依リ施設シ且堅牢ニ建設スルコトヲ要ス(細第四十五條)

一 木柱、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ノ場合ニ在リテハ其ノ徑間ヲ百米以下ト爲スコト

二 木柱ノ強度ハ人家連擔ノ場所ニ在リテハ丙種風壓荷重、其ノ他ノ場所ニ在リテハ甲種風壓荷重ニ對シ安全係數ヲ四以上トシテ計算シタルモノナルコト(細第三十八條)但シ木柱ノ太サハ左ノ制限ニ依ルコト

徑 間 末 口

(イ)五十米以下ナル場合 {十五纏以上(單柱)  
{十二纏以上(H柱、A柱)

(ロ)五十米ヲ超過シ  
百米以下ナル場合 {十八纏以上(單柱)  
{十五纏以上(H柱、A柱)

高壓架空電線ガ鐵道若ハ軌道ト交叉スル場合又ハ架空弱電流電線ト其ノ上部ニ於テ交叉スル場合ニ於テハ其ノ支持物ハ左ノ各號ニ依リ施設シ且堅牢ニ建設スルコトヲ要ス(細第四十五條)

一 木柱ノ場合ニ在リテハ其ノ徑間ヲ五十米以下ト爲シ前項第二號ニ依ルコト

二 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ノ場合ニ在リテハ其ノ徑間ヲ百米以下ト爲スコト

前二項ノ場合ニ於テ徑間ガ其ノ制限ヲ超過スルトキハ支持物ハ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第四十七條 高壓架空電線路ガ川越、谷越其ノ他特殊ノ事由ニ依リ徑間百米ヲ超過スル場合ハ其ノ部分ニ限り五耗ノ硬鋼線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用シ其ノ弛度ヲ第六十四條ノ規定ニ適合セシメ且支持物ノ強度ハ左ノ各號ニ適合セシムルコトヲ要ス(細第三十八條)

一 木柱ノ強度ハ其ノ徑間三百米以下ナルトキハ甲種風壓荷重及乙種風壓荷重<sup>氷雪多キ地方(細第三十二條)</sup>ノ場合ニ限ル孰レニ對シテモ安全係數ヲ四以上トシテ計算シタルモノナルコト但シ木柱ノ太サハ單柱ニ在リテハ末口十八纏以上、H柱A柱ニ在リテハ十五纏以上ト爲スコト

二 徑間百米ヲ超過シ百五十米以下ナル場合ニ於ケル木柱ニハ全架渉線ニ生ズル最大張力ノ和ノ三分ノ一ニ等シキ不平均張力ニ耐フル支線ヲ設クルコト但シ四耗以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ルモノナルコト



- 三 徑間百五十米ヲ超過シ三百米以下ナル場合ニ於ケル木柱ニハ全架渉線ニ生ズル最大張力ノ和ノ三分ノ二ニ等シキ不平均張力ニ耐フル支線ヲ設クルコト但シ四耗以上ノ鐵線七條以上ヨリ成ルモノナルコト
- 四 徑間百五十米ヲ超過シ三百米以下ナル場合ニ於ケル鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニハ第二號ノ不平均張力ニ耐フル設計ノモノヲ使用シ又ハ之ニ第二號ニ準ズル支線ヲ設クルコト
- 五 徑間三百米ヲ超過シ五百米以下ナル場合ニ於ケル鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニハ第三號ノ不平均張力ニ耐フル設計ノモノヲ使用シ又ハ之ニ第三號ニ準ズル支線ヲ設クルコト
- 六 徑間五百米ヲ超過スル場合ニ於ケル鐵塔ニハ一  
架渉線ニ生ズル最大張力ノ二分ノ一ニ等シキ不平均張力ニ耐フルモノヲ使用スルコト此ノ場合ニ於テハ不平均張力ハ鐵塔ノ各部材ニ最大應力ヲ生ズベキ架渉線ノ取付點ニ加ハルモノトシ之ニ因ル水平力及捻力ヲ加算シタルモノナルコト
- 前項第二號乃至第五號ノ支線ノ強度ハ安全係數ヲ三以上トシテ計算シタルモノナルコトヲ要ス（細第三十三條及第三十六條）

- 高壓架空電線路ノ徑間ガ第一項ノ制限ヲ超過スルトキハ其ノ支持物ハ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス
- 第四十八條** 架空電線路ガ他ノ低壓又ハ高壓架空電線路電車線路ヲ含ムト交叉、接近又ハ並行スル場合ニ於テハ電線相互ノ離隔距離ヲ一米以上ト爲シ且電線相互ノ混觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲適當ニ施設スルコトヲ要ス（細第四十六條）
- 前項ノ離隔距離ハ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テハ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケテ之ヲ五十糎迄ニ短縮スルコトヲ得
- 第四十九條** 架空電線ト架空弱電流電線トガ交叉シ又ハ接近スル場合ニ於テハ其ノ離隔距離ヲ一米以上ト爲スコトヲ要ス但シ弱電流電線ニ第四種絶緣電線ヲ使用シタルトキ又ハ其ノ管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ之ヲ六十糎迄ニ短縮スルコトヲ得
- 第五十條** 高壓架空電線ト架空弱電流電線トガ交叉、接近又ハ並行スル部分ニ於テハ高壓電線ヲ上部ト爲スコトヲ要ス但シ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テ弱電流電線トノ混觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲適當ノ施設（細第四十七條）ヲ爲ストキハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第五十一條** 架空電線ガ他ノ低壓若ハ高壓架空電線路電車線路又ハ架空弱電流電線路ノ支持物ト接近スルトキハ其ノ間隔ヲ三十糎以上ニ保持スルコトヲ要ス但シ接觸ノ虞ナキ様適當ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

架空電線ト植物トノ間隔ハ三十糎以上ニ保持スルコトヲ要ス但シ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テ逡信大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ施設ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

**第五十二條** 高壓架空電線ガ煙突、放送聴取無線電話用空中線其ノ他之ニ類スル工作物ト其ノ地表上ノ高サニ相當スル距離以內ニ接近スルトキハ接觸ニ因リ生ズル危險ヲ防止スル爲左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 高壓電線ト工作物又ハ其ノ支線トハ一・二米以上、放送聴取無線電話用空中線トハ水平距離一・二米以上ヲ離隔スルコト

二 金屬製工作物又ハ工作物ノ支線ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

高壓架空電線路ニ用フル支線ニシテ高壓電線ト接觸ノ虞アルモノニハ其ノ上部ニ碍子ヲ挿入スルコトヲ要ス

**第五十三條** 市街地ニ於ケル高壓架空電線路電氣鐵道地内ニ施設スル饋電線路ヲ除クニハ其ノ互長一軒以下毎ニ開閉器ヲ設置シ電路ヲ遮斷スルニ便ナラシムルコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ所轄逡信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

前項ノ開閉器ヲ設置シタル場所ニハ之ニ接近シ且之ヲ取扱フニ便ナラシムル様適當ナル設備ヲ施スコトヲ要ス

**第五十四條** 第四十二條第二項ノ規定ニ依ラズシテ高壓架空電線ニ第一種若ハ第二種絶緣電線ヲ使用シ又ハ三百ヴオルトヲ超過スル直流低壓架空電線ニ第一種絶緣電線ヲ使用スルトキハ左ノ各號ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 市街地ニ施設スルモノ又ハ道路、鐵道、軌道、他ノ低壓若ハ高壓架空電線、架空弱電流電線又ハ建造物ノ住居又ハ看守スルモノト交叉シ若ハ其ノ架空電線ノ支持物地表上ノ高サニ相當スル水平距離以內ニ接近スル箇所ニ施設スルモノハ電線ニ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト

二 低壓架空電線ト架空弱電流電線トガ交叉、接近又ハ並行スル場合ニ於テハ低壓架空電線ヲ上部ト

爲スコト但シ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テ弱電  
流電線トノ混觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲適當  
ノ施設(細第四十七條)ヲ爲ストキハ此ノ制限ニ  
依ラザルコトヲ得

**第五十五條** 市街地外ニ於テ低壓又ハ高壓架空電線ニ  
裸電線ヲ使用スルトキハ左ノ各號ノ制限ニ依リ施設  
スルコトヲ要ス

一 道路、鐵道、軌道、他ノ低壓若ハ高壓架空電線、  
架空弱電流電線若ハ建造物ト交叉シ又ハ其ノ架空  
電線ノ支持物地表上ノ高サニ相當スル水平距離以  
内ニ接近スル箇所ニ於テハ電線ニ五耗ノ硬銅撚線  
又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル撚線ヲ使  
用シ其ノ弛度ヲ第六十四條ノ規定ニ適合セシムル  
コト

二 前號ノ場合ニ於テハ木柱ノ強度ハ甲種風壓荷重  
及乙種風壓荷重氷雪多キ地方(細第三  
十二條)ノ場合ニ限ルノ孰レニ對シ  
テモ安全係數ヲ四以上トシテ計算シタルモノナル  
コト(細第三十八條)但シ木柱ノ太サハ左ノ制限  
ニ依ルコト

徑間

末口

(イ)五十米以下ナル場合 十五徑以上  
(ロ)五十米ヲ超過スル場合 {十八徑以上(單柱)  
十五徑以上(H柱、A柱)}

三 第一號ノ場合ニ於テ支持物ハ堅牢ニ建設スルコ

ト(細第四十五條)

四 高壓裸電線ガ他ノ高壓架空被覆電線ト交叉スル  
箇所又ハ低壓裸電線ガ他ノ低壓架空被覆電線ト交  
叉スル箇所ニ於テハ工事上已ムヲ得ザル場合ヲ除  
クノ外裸電線ヲ上部ト爲スコト

五 架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ裸電線  
ヲ上部ト爲シ且危險ヲ生ゼシメザル様適當ノ施設  
ヲ爲スコト(細第五十條)但シ工事上已ムヲ得ザ  
ル場合ニ於テ弱電流電線トノ混觸ヨリ生ズル危險  
ヲ防止スル爲適當ノ施設(細第四十七條)ヲ爲ス  
トキハ裸電線ヲ下部ト爲スコトヲ得

土地ノ狀況又ハ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ所轄  
遞信局長ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコト  
ヲ得

**第五十六條** 市街地ニ於テ高壓架空電線ニ裸電線ヲ使  
用スルトキハ左ノ各號ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ  
要ス

一 道路ニ沿ヒ道路上ニ建設スル場合ハ幅員五米以  
上ノ道路ニ之ヲ建設スルコト

二 電線ニハ五耗ノ硬銅撚線又ハ之ト同等以上ノ強  
サ及太サヲ有スル撚線ヲ使用シ其ノ弛度ヲ第六十  
四條ノ規定ニ適合セシムルコト

電 氣 工 作 物 規 程

- 三 電線相互ノ間隔ハ特殊ノ場合(細第五十一條)  
ヲ除クノ外徑間ガ五十米以下ナル場合ハ四十五種  
以上、五十米ヲ超過スル場合ハ六十種以上ト爲ス  
コト
- 四 木柱ノ強度ハ甲種風壓荷重及乙種風壓荷重氷雪多キ  
地方(細第三十二條)ノ場合ニ限ルノ孰レニ對シテモ安全係數ヲ四  
以上トシテ計算シタルモノナルコト(細第三十八  
條)但シ木柱ノ太サハ左ノ制限ニ依ルコト
- 徑 間 末 口
- (イ)五十米以下ナル場合 十五種以上  
(ロ)五十米ヲ超過シ六十 }十八種以上(單柱)  
米以下ナル場合 }十五種以上(H柱、A柱)
- 五 支持物ハ堅牢ニ建設スルコト(細第四十五條)
- 六 徑間ハ木柱ニ在リテハ五十米以下、鐵柱、鐵塔  
又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニ在リテハ百米以下ト  
爲スコト但シ木柱ニ依ル場合ニシテ工事上又ハ土  
地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ電線路  
ノ一部ニ限リ徑間ヲ六十米迄ニ延長スルコトヲ得
- 七 裸電線ト架空弱電流電線トハ交叉スル場合ヲ除  
クノ外水平距離一・五米以上ヲ離隔スルコト但シ  
弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ之ヲ一  
米迄ニ短縮スルコトヲ得
- 八 架空弱電流電線「ケーブル」ト交叉スル箇所ニ於  
テ線ヲ除ク

第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

- テハ危險ヲ生ゼシメザル様適當ノ施設ヲ爲スコト  
(細第五十條)
- 土地ノ狀況又ハ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ所轄  
遞信局長ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコト  
ヲ得
- 第五十七條 市街地ニ於テハ土地ノ狀況又ハ特殊ノ事  
由ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外  
低壓架空電線ニ裸電線ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ電  
氣鐵道ノ専用敷地内ニ施設スル低壓架空饋電線ニシ  
テ前條第一項ノ規定ニ準ジ施設スルモノハ此ノ限ニ  
在ラズ
- 第五十八條 高壓架空被覆電線又ハ低壓若ハ高壓架空  
裸電線ガ同一電氣事業者ニ屬スル左ニ掲グル架空電  
線又ハ架空弱電流電線ト交叉シ又ハ接近スル場合ハ  
第四十六條、第五十四條及第五十五條ノ制限ニ依ラ  
ザルコトヲ得
- 一 電路ノ一部ヲ接地シタル低壓架空電線
  - 二 單線式電氣鐵道ノ架空饋電線又ハ電車線
  - 三 電車線路ニ添架シタル弱電流電線
  - 四 特別高壓架空電線路ニ添架シタル電話線又ハ直  
接之ト接続スル電話線
- 第五十九條 架空電線路ハ引込線ヲ併セ左ノ絕緣抵抗

又ハ絶縁耐力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

- 一 低壓電線路ノ絶縁部分ト大地トノ間ノ絶縁抵抗ハ回線ノ全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ千分ノ一ヲ超過セシメザル様保持スルコト
- 二 高壓電線路ト大地トノ間ノ絶縁耐力ハ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ヲ以テ試験シ十分間以上之ニ耐フルコト

### 第三節 特別高壓架空電線路

**第六十條** 特別高壓架空電線路ハ市街地其ノ他人家ノ稠密ナル地ニ建設スルコトヲ得ズ但シ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第六十一條** 特別高壓架空電線路ハ特ニ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合又ハ弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タル場合ヲ除クノ外既設架空弱電流電線路單線式電話線ヲ對シ誘導作用ニ因ル通信上ノ障害ヲ及ボサザル様離隔シ且適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第五十二條及第五十三條)

前項ノ規定ニ依リ施設スルモ猶既設弱電流電線路ニ對シ障害ヲ及ボス虞アルトキハ更ニ適當ナル方法ヲ

施スコトヲ要ス

**第六十二條** 特別高壓架空電線ニハ五耗ノ裸硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル裸電線ヲ使用スルコトヲ要ス(細第三十三條)

**第六十三條** 特別高壓架空電線ノ地表上ノ高サハ六米以上トス但シ特殊ノ場所ニ限り逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第六十四條** 特別高壓架空電線ノ弛度ノ計算ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス(細第三十三條及第五十四條)

一 氷雪多カラザル地方ニ在リテハ其ノ地方ノ最低溫度ニ於テ安全係數ヲ二以上トシ電線ノ重量ト電線ノ投影面積一平方米ニ付百疋ノ水平風壓トノ合成荷重ヲ支持シ得ル様計算シタルモノナルコト但シ最大使用電壓六萬ヴオルト以上ニシテ且電線ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ百二十平方耗以上、鋼心「アルミニウム」線ニ在リテハ百五十平方耗以上ノ場合ハ安全係數ヲ二・五以上ト爲スコト

二 氷雪多キ地方(細第三十二條)ニ在リテハ前號ニ依ルノ外更ニ其ノ地方ノ最低溫度ニ於テ安全係數ヲ二以上トシ電線ノ周圍ニ厚サ六耗比重〇・九ノ氷雪附着シタルトキ電線及氷雪ノ重量ト被氷電線ノ投影面積一平方米ニ付五十疋ノ水平風壓トノ

合成荷重ヲ支持シ得ル様計算シタルモノナルコト  
但シ最大使用電壓六萬ヴオルト以上ニシテ且電線  
ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ百二十平方耗以上、  
鋼心「アルミニウム」線ニ在リテハ百五十平方耗  
以上ノ場合ハ安全係數ヲ二・五以上ト爲スコト  
特殊ノ構造又ハ強度ヲ有スル電線ヲ使用スル場合ニ  
於テハ電線ノ弛度ハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊  
ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

**第六十五條** 木柱ニ依ル特別高壓架空電線路ニ用フル  
支持物ハ左ノ各號ニ依リ且堅牢ニ建設スルコトヲ要  
ス（細第三十七條、第三十八條及第五十五條）

一 木柱ノ強度ハ第六十八條乃至第七十條ノ規定ニ  
依ル場合ヲ除クノ外甲種風壓荷重及乙種風壓荷重  
氷雪多キ地方（細第三十二條）ノ場合ニ限ルノ孰レニ對シテモ安全係數ヲ  
左ノ制限ニ依リ計算シタルモノナルコト

電 壓 安全係數

- (イ) 一萬五千ヴオルト以下ノモノ 四以上
- (ロ) 一萬五千ヴオルトヲ超過スルモノ { 四以上(注入柱)  
五以上(不注入柱)

二 木柱ノ太サハ左ノ制限ニ依ルコト

徑 間 末 口

- (イ) 五十米以下ナル場合 十五種以上

- (ロ) 五十米ヲ超過スル場合 { 十八種以上(單柱)  
十五種以上(H柱、A柱)

三 標準徑間ハ百米以下ナルコト

**第六十六條** 特別高壓架空電線路ニ用フル鐵柱、鐵塔  
及鐵筋「コンクリート」柱ノ強度ノ計算ニハ左ノ區  
別（細第五十六條）ニ依リ不平均張力ニ因ル水平荷  
重ヲモ加算スルコトヲ要ス

一 標準型及角度型

(イ) 鐵塔ニ在リテハ一架構線ニ生ズル最大張力ノ  
二分ノ一ニ等シキ不平均張力ガ鐵塔ノ各部材ニ最  
大應力ヲ生ズベキ架構線ノ取付點ニ加ハルモノト  
シ之ニ因ル水平力及捻力ヲ加算スルコト但シ不平  
均張力ハ最大使用電壓六萬ヴオルト以上ノ電線路  
ニシテ電線ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ百二十平  
方耗以上、鋼心「アルミニウム」線ニ在リテハ百  
五十平方耗以上ノモノニ付テハ耐張碍子ヲ用フル  
場合ハ架構線ニ生ズル最大張力ノ一倍以上、「ピ  
ン」型又ハ懸垂碍子ヲ用フル場合ハ架構線ニ生ズ  
ル最大張力ノ十分ノ六以上トス

(ロ) 鐵柱、可撓鐵塔又ハ鐵筋「コンクリート」柱  
ニ在リテハ(イ)ノ不平均張力ヲ考慮スルヲ要セズ

二 耐張型 左ノ不平均張力ガ各架構線ノ取付點ニ

加ハルモノトスルコト

- (イ)第一種耐張型 各架渉線=生ズル最大張力ノ三分ノ一=等シキ不平均張力
- (ロ)第二種耐張型 各架渉線=生ズル最大張力ノ三分ノ二=等シキ不平均張力
- (ハ)第三種耐張型 各架渉線=生ズル最大張力=等シキ不平均張力

三 引留型 各架渉線=生ズル最大張力=等シキ不平均張力ガ其ノ取付點=加ハルモノトスルコト

標準鐵柱及標準鐵筋「コンクリート」柱ノ徑間ハ百米以下ナルコトヲ要ス但シ特殊ノ設計=依リ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ヲ百五十米迄=延長スルコトヲ得

**第六十七條** 特別高壓架空電線路ガ川越、谷越其ノ他特殊ノ事由=依リ徑間百米ヲ超過スル場合ハ其ノ部分=限リ支持物ノ強度ハ左ノ各號=適合セシムルコトヲ要ス

一 徑間百米ヲ超過シ百五十米以下ナル場合=於ケル木柱=ハ全架渉線=生ズル最大張力ノ和ノ三分ノ一=等シキ不平均張力=耐フル支線ヲ設クルコト但シ四耗以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ルモノナルコト

二 徑間百五十米ヲ超過シ三百米以下ナル場合=於

ケル木柱=ハ全架渉線=生ズル最大張力ノ和ノ三分ノ二=等シキ不平均張力=耐フル支線ヲ設クルコト但シ四耗以上ノ鐵線七條以上ヨリ成ルモノナルコト

三 徑間百五十米ヲ超過シ三百米以下ナル場合=於ケル鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱=ハ第一號ノ不平均張力=耐フル設計ノモノヲ使用シ又ハ之=第一號=準ズル支線ヲ設クルコト

四 徑間三百米ヲ超過シ五百米以下ナル場合=於ケル鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱=ハ第二號ノ不平均張力=耐フル設計ノモノヲ使用シ又ハ之=第二號=準ズル支線ヲ設クルコト

五 徑間五百米ヲ超過スル場合=於ケル鐵塔 <sup>最大使用電壓</sup>六萬ヴォルト以上、電線ノ切斷面積硬銅線=在リテハ百二十平方耗以上、鋼心「アルミニウム」線=在リテハ百五十平方耗以上 =ハ第二種耐張鐵塔ヲ使用スルコト但シ土地ノ狀況=依リ當該徑間=隣接スル箇所

=第二種耐張鐵塔ヲ建設シ本鐵塔ハ標準型=準ジ計算シタルモノト爲スコトヲ得

前項第一號乃至第四號ノ支線ノ強度ハ安全係數ヲ三以上トシテ計算シタルモノナルコトヲ要ス(細第三十三條及第三十六條)

電 氣 工 作 物 規 程

特別高壓架空電線路ノ徑間ガ第一項第二號又ハ第四號ノ制限ヲ超過スルトキハ其ノ支持物ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

**第六十八條** 特別高壓架空電線ト建造物、道路、鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線トガ水平距離ニ於テ其ノ特別高壓電線路ノ支持物地表上ノ高サニ相當スル距離乃至三米迄ニ接近スル部分ニ於テハ左ノ各號ニ依リ施設シ且適當ニ建設（細第五十八條）スルコトヲ要ス

- 一 特別高壓架空電線ニハ燃線ヲ使用スルコト
- 二 木柱、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ハ其ノ徑間ヲ百米以下ト爲スコト
- 三 木柱ノ強度ハ甲種風壓荷重及乙種風壓荷重氷雪多キ地方（細第三十二條）ノ場合ニ限ルノ孰レニ對シテモ安全係數ヲ左ノ制限ニ依リ計算シタルモノナルコト

電 壓	安全係數
(イ)一萬五千ヴオルト以下	六
(ロ)一萬五千ヴオルトヲ超過スルモノ	(六 (注入柱) 七・五 (不注入柱))
四 一萬五千ヴオルトヲ超過スル電線ト建造物トノ離隔距離ハ五米以上ニ保持スルコト	

前項ノ場合ニ於テ徑間ガ百米ヲ超過スルトキハ逓信

第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

**第六十九條** 二萬五千ヴオルト以下ノ特別高壓架空電線ト建造物、鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線トガ水平距離三米以內ニ接近スルトキ又ハ一萬五千ヴオルト以下ノ特別高壓架空電線ト道路トガ水平距離三米以內ニ接近スルトキハ前條第一項第一號及第三號ニ依リ施設シ且危險ヲ生ゼシメザル様適當ニ施設（細第五十九條）スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ徑間ハ木柱ニアリテハ五十米以下、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニ在リテハ百米以下、鐵塔ニ在リテハ百五十米以下ト爲スコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ザル場合ハ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得第一項ノ電壓ヲ超過スル特別高壓架空電線ト建造物、道路、鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線トガ水平距離三米以內ニ接近スルトキハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

**第七十條** 特別高壓架空電線ガ道路、鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線電車線ヲ含ム又ハ架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ左ノ各號ニ依リ施設シ且危險



ヲ防止スル爲適當ニ施設(細第六十條)スルコトヲ要ス

- 一 特別高壓架空電線ニハ撚線ヲ使用スルコト
- 二 木柱ハ其ノ徑間ヲ鐵道、軌道又ハ架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ在リテハ五十米以下、道路又ハ低壓若ハ高壓架空電線ト交叉スル箇所ニ在リテハ百米以下トシ且其ノ強度ハ第六十八條第一項第三號ニ依ルコト

三 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ハ其ノ徑間ヲ百米以下ト爲スコト

四 低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ特別高壓電線ヲ上部ト爲シ且電線相互間ノ垂直距離ハ常ニ左ノ制限ニ依ルコト

- (イ) 六萬ヴォルト以下ノモノハ二米以上
- (ロ) 六萬ヴォルトヲ超過スルモノハ超過分一萬ヴォルト又ハ其ノ端數毎ニ二十種ヲ加フ

特殊ノ設計ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第七十一條** 特別高壓架空電線ト他ノ特別高壓架空電線トガ水平距離ニ於テ其ノ電線路ノ支持物地表上ノ高サニ相當スル距離以內ニ接近スル部分及特別高壓架空電線ガ他ノ特別高壓架空電線ノ上部ニ於テ之ト

交叉スル部分ニ於テハ撚線ヲ使用シ左ノ各號ニ依リ施設シ且危險ヲ防止スル爲適當ニ施設(細第六十條)スルコトヲ要ス

一 木柱ハ其ノ徑間ヲ百米以下トシ且其ノ強度ハ第六十八條第一項第三號ニ依ルコト

二 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ハ其ノ徑間ヲ百米以下ト爲スコト

三 電線相互間ノ離隔距離ハ常ニ左ノ制限ニ依ルコト

- (イ) 六萬ヴォルト以下ノモノハ二米以上
- (ロ) 六萬ヴォルトヲ超過スルモノハ超過分一萬ヴォルト又ハ其ノ端數毎ニ二十種ヲ加フ

四 下部ノ特別高壓架空電線路ニ架空地線アル場合ハ電線ト架空地線トノ離隔距離ハ前號ニ依ルコト特殊ノ設計ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第七十二條** 特別高壓架空電線ガ同一電氣事業者ニ屬スル左ニ掲グル架空電線又ハ架空弱電流電線ト交叉シ又ハ接近スル場合ハ第六十八條乃至第七十條<sup>第一項</sup>第四號ヲノ制限ニ依ラザルコトヲ得

- 一 電路ノ一部ヲ接地シタル低壓架空電線
- 二 單線式電氣鐵道ノ饋電線又ハ電車線

三 電車線路ニ添架シタル弱電流電線

四 特別高壓架空電線路ニ添架シタル電話線又ハ直接之ト接続スル電話線

特別高壓架空電線ガ同一事業者ニ屬スル鐵道若ハ軌道ト交叉シ又ハ其ノ特別高壓電線ノ支持物地表上ノ高サニ相當スル距離以內ニ接近スル場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ第六十八條及第七十條ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第七十三條** 特別高壓架空電線ト低壓又ハ高壓架空電線トハ同一支持物ニ添架スルコトヲ得ズ但シ一萬五千ヴォルト以下ノ特別高壓架空電線ト同一事業者ニ屬スル低壓又ハ高壓架空電線トノ場合ニシテ電線相互ノ混觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲適當ニ施設(細第六十一條)スルトキハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

特殊ノ設計ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第七十四條** 特別高壓架空電線ト植物トノ間隔ハ風雪其ノ他如何ナル場合ニ於テモ左ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス

- 一 六萬ヴォルト以下ノモノハ二米以上
- 二 六萬ヴォルトヲ超過スルモノハ超過分一萬ヴォ

ルト又ハ其ノ端數毎ニ三十種ヲ加フ

**第七十五條** 特別高壓架空電線ト他ノ架空電線路電車線路ヲ含ム又ハ架空弱電流電線路ノ支持物トハ常ニ左ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス

- 一 六萬ヴォルト以下ノモノハ二米以上
- 二 六萬ヴォルトヲ超過スルモノハ超過分一萬ヴォルト又ハ其ノ端數毎ニ三十種ヲ加フ

特殊ノ設計ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第七十六條** 特別高壓架空電線ガ煙突其ノ他之ニ類スル工作物ト其ノ地表上ノ高サニ相當スル水平距離以內ニ接近スルトキハ接觸ニ因リ生ズル危險ヲ防止スル爲左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 特別高壓架空電線ト工作物又ハ其ノ支線トハ常ニ左ノ間隔ヲ保持スルコト
  - (イ) 六萬ヴォルト以下ノモノハ二米以上
  - (ロ) 六萬ヴォルトヲ超過スルモノハ超過分一萬ヴォルト又ハ其ノ端數毎ニ三十種ヲ加フ
- 二 金屬製工作物又ハ工作物ノ支線ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

**第七十七條** 特別高壓架空電線路ト大地トノ間ノ絶縁耐力ハ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル電壓ヲ以

電氣工作物規程

テ試験シ十分間以上之ニ耐フルモノナルコトヲ要ス

最大使用電壓 試験電壓

- 一 五萬ヴォルト未満 最大使用電壓ノ一・五倍
- 二 五萬ヴォルト以上 最大使用電壓ニ二萬五千ヴォルトヲ加ヘタルモノ

特別高壓架空電線路ニシテ電路ノ中性點ヲ一定限度ヲ超過セザル「インピーダンス」消弧線輪ノヲ通ジテ接地シタル場合ニ限り前項ノ試験電壓ヲ左ノ區別ニ依リ輕減スルコトヲ得

最大使用電壓 試験電壓

- 一 五萬ヴォルト未満 最大使用電壓ノ一・二五倍
- 二 五萬ヴォルト以上 最大使用電壓ニ一萬三千ヴォルトヲ加ヘタルモノ

第四節 地中電線路

**第七十八條** 道路ニ施設スル地中電線路ハ左ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス但シ工事上巴ムヲ得ザルトキ又ハ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

- 一 道路ヲ横斷スルモノヲ除クノ外道路ノ兩側ニ跨ラズシテ其ノ一側ノミニ施設スルコト
- 二 道路ノ一側ニ地中弱電流電線路アルトキハ其ノ同一側ニ施設セザルコト

第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

三 道路ノ一側ニ地中電線路アルトキハ其ノ同一側ニ施設スルコト

前項ノ規定ハ地中引込線及屋外照明用地中電線路ニ之ヲ適用セズ

**第七十九條** 地中電線ヲ藏ムル暗渠、管又ハ管路ハ堅牢ニシテ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力ニ耐ヘ且瓦斯又ハ水ノ成ルベク浸入セザル様築造スルコトヲ要ス地中電線ヲ直接埋設式ニ依リ敷設スルトキハ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力ヲ受クル處アル場所ニ於テハ土冠ヲ一・二米以上、其ノ他ノ場所ニ於テハ土冠ヲ六十糎以上ト爲シ石又ハ樋ノ類ヲ以テ電線ノ上部及側面ヲ掩ヒ他動的損傷ヲ防止スルコトヲ要ス但シ低壓電線ヲ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力ヲ受クル處ナキ場所ニ敷設スル場合ハ幅二十糎以上ノ堅牢ナル石又ハ木板ノ類ヲ以テ電線ノ上部ノミヲ掩ヒテ施設スルコトヲ得

**第八十條** 地中電線ニハ引入式又ハ暗渠式ニ依ル場合ハ鉛被電纜又ハ鍍裝電纜、直接埋設式ニ依ル場合ハ鍍裝電纜ヲ使用スルコトヲ要ス但シ前條第二項但書ノ場合ハ左ノ電線ヲ使用スルコトヲ得

- 一 切斷面積五平方糎以下ノモノ 鉛被電線
- 二 切斷面積五平方糎ヲ超過シ十五平方糎以下ノモノ 「ヂユート」捲鉛被電纜

土地ノ狀況又ハ特殊ノ設計ニ依リ逡信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第八十一條** 地中電線路ハ漏洩電流又ハ誘導作用ニ因リ既設地中弱電流電線ニ對シ通信上ノ障害ヲ及ボサザル様離隔シ又ハ其ノ他ノ適當ナル防止方法ヲ施スコトヲ要ス

**第八十二條** 地中電線ト地中弱電流電線トガ交叉シ又ハ接近スル場合ニ於テ其ノ間隔ガ低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ三十糎以下、特別高壓電線ニ在リテハ六十糎以下ナルトキハ成ルベク其ノ部分ヲ短縮シ且相互間ニ堅牢ナル耐火質ノ隔壁ヲ設クルコトヲ要ス

**第八十三條** 高壓地中電線ト低壓地中電線トハ相互間ニ堅牢ナル耐火質ノ隔壁アル場合ヲ除クノ外三十糎以上離隔スルコトヲ要ス但シ地中函内ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

特別高壓地中電線ト低壓又ハ高壓地中電線トノ場合亦前項ニ同ジ

**第八十四條** 地中電線ヲ藏ムル金屬製ノ暗渠、管、電線接續函及地中電線ノ被覆ニ用フル金屬體ハ電氣的接續ヲ爲シ且之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス

**第八十五條** 地中函ハ電氣事業専用ノモノトシ且二以

上ノ事業者之ヲ共用スルコトヲ得ズ但シ特殊ノ設計ニ依リ逡信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

**第八十六條** 地中函ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 地中函ハ堅牢ニシテ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力ニ耐フル様築造スルコト

二 地中函ニハ水ノ浸入ヲ防止シ又ハ函内ノ滯水ヲ排除スル裝置ヲ施スコト

三 爆發性又ハ燃燒性瓦斯ノ侵入スル虞アル場所ニ設クル地中函ニシテ其ノ大サ一立方米以上ノモノニハ之ヲ放散セシムベキ通風其ノ他ノ裝置ヲ施スコト

四 地中函ノ蓋ニハ事業者ノ外容易ニ開披シ能ハザル設備ヲ施スコト

五 地中函ノ蓋ニハ事業者名又ハ其ノ記號ヲ表示スルコト

地中函ハ時々點檢シ瓦斯ノ存在ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ放散セシメ且其ノ旨ヲ瓦斯管ノ管理者ニ通知スルコトヲ要ス

**第八十七條** 地中電線路ハ左ノ絶緣抵抗又ハ絶緣耐力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

電氣工作物規程

一 低壓電線路ニ在リテハ其ノ絶縁部分ト大地トノ間ノ絶縁抵抗ハ回線ノ全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ千分ノ一ヲ超過セシメザル様保持スルコト

二 高壓電線路ニ在リテハ其ノ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶縁耐力ハ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ヲ以テ試験シ十分間以上之ニ耐フルコト

三 特別高壓電線路ニ在リテハ其ノ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶縁耐力ハ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル交流電壓又ハ直流電壓ヲ以テ試験シ十分間以上之ニ耐フルコト

	最大使用電壓	交流試験電壓	直流試験電壓
(イ) 二萬ヴォルト未満	最大使用電壓ノ一・五倍	最大使用電壓ノ三・五倍	最大使用電壓ノ三・五倍
(ロ) 二萬ヴォルト以上 五萬ヴォルト未満	最大使用電壓ノ一・五倍	最大使用電壓ノ二倍ニ三萬ヴォルトヲ加ヘタルモノ	最大使用電壓ノ二倍ニ三萬ヴォルトヲ加ヘタルモノ
(ハ) 五萬ヴォルト以上	最大使用電壓ニ二萬五千ヴォルトヲ加ヘタルモノ	最大使用電壓ノ一・五倍ニ五萬五千ヴォルトヲ加ヘタルモノ	最大使用電壓ノ一・五倍ニ五萬五千ヴォルトヲ加ヘタルモノ

電路ノ中性點ヲ一定限度ヲ超過セザル「インピーダンス」消弧線輪ノヲ通ジテ接地シタル場合ニ限り前類ヲ除ク

第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

項第三號ノ試験電壓ヲ左ノ區別ニ依リ輕減スルコトヲ得

	最大使用電壓	交流試験電壓	直流試験電壓
(イ) 二萬ヴォルト未満	最大使用電壓ノ一・二五倍	最大使用電壓ノ一・二五倍	最大使用電壓ノ三倍
(ロ) 二萬ヴォルト以上 五萬ヴォルト未満	最大使用電壓ノ一・二五倍	最大使用電壓ノ一・二五倍	最大使用電壓ノ二倍ニ二萬ヴォルトヲ加ヘタルモノ
(ハ) 五萬ヴォルト以上	最大使用電壓ニ一萬三千ヴォルトヲ加ヘタルモノ	最大使用電壓ニ一萬三千ヴォルトヲ加ヘタルモノ	最大使用電壓ノ一・五倍ニ四萬五千ヴォルトヲ加ヘタルモノ

第五節 隧道其ノ他之ニ類スル

場所ヲ通過スル電線路

第八十八條 鐵道又ハ軌道ノ専用隧道内ノ電線路ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス但シ特殊ノ設計ニ依リ逡信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 低壓電線ニハ二・六耗ノ第二種絶縁硬銅線若ハ五耗ノ裸硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ軌條面上二・五米以上ノ高サニ保持スルコト

二 高壓電線ハ左記(イ)又ハ(ロ)ニ依リ施設スルコト

ト

(イ) 鎧裝電纜ヲ使用スルコト但シ他動的損傷ヲ防止スル装置ヲ施ストキハ鉛被電纜ヲ使用スルコトヲ得

(ロ) 四耗ノ第三種絶縁硬銅線若ハ五耗ノ裸硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ軌條面上三米以上ノ高サニ保持スルコト

三 特別高壓電線ニハ鎧裝電纜ヲ使用スルコト但シ他動的損傷ヲ防止スル装置ヲ施ストキハ鉛被電纜ヲ使用スルコトヲ得

**第八十九條** 人ノ常ニ通行スル隧道内ノ電線路ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 低壓電線ハ第百三十四條第一號ノ規定ニ準ジ施設スルコト

二 高壓電線ニハ鎧裝電纜ヲ使用シ且人ノ觸ル虞アル箇所ニ施設スルモノニハ他動的損傷ヲ防止スル装置ヲ施スコト

**第九十條** 前二條ノ電線路ノ絶縁抵抗又ハ絶縁耐力ニ關シテハ第五十九條又ハ第八十七條ノ規定ヲ準用ス

### 第六節 保安通信設備

**第九十一條** 送電ノ連絡ヲ有スル發電所及變電所相互

間ニハ保安通信用電話ヲ施設スルコトヲ要ス

左ニ掲グル箇所相互間ニ於テモ保安上必要ト認ムルトキハ保安通信用電話ノ施設ヲ爲スベシ

一 發電所及其ノ水路

二 同一送電系統ニ屬スル發電所、變電所、蓄電所、開閉所及技術員駐在所

特別高壓架空電線路ニ依リ送電スル場合ニ在リテハ

携帯電話機ニ依リ通話スル設備ヲ爲シ且電話線ヲ架

空電線路ニ添架スル場合ハ電線路ノ互長約四杆毎ニ

携帯電話機接續箇所又ハ電話機設置箇所ヲ設クルコ

トヲ要ス

**第九十二條** 架空電線路ニ添架スル保安通信用電話線

以下單ニ電ニハ特殊ノ場合(細第六十二條)ヲ除クノ

外ニ六耗ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ

有スルモノヲ使用スルコトヲ要ス

**第九十三條** 架空電線路ニ添架スル電話線ハ架空電線

ノ下部ニ架設シ電線ト電話線トノ垂直距離ハ左ノ制

限ニ依ルコトヲ要ス

一 架空電線ガ低壓又ハ高壓電線ナルトキハ六十纏以上

二 架空電線ガ特別高壓電線ナルトキハ一・二米以上

**第九十四條** 特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線ノ地表上ノ高サハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

一 鐵道又ハ軌道ヲ横斷スル場合ニ於テハ軌條面上六米以上

二 前號以外ノ場合ニ於テハ地表上五米以上

**第九十五條** 特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線ガ道路、鐵道、軌道、架空電線又ハ他ノ架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 道路、鐵道又ハ軌道ト交叉スル箇所ニ於テハ四耗ノ第三種絕緣硬銅線若ハ五耗ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト

二 他ノ特別高壓架空電線ト交叉スル箇所ニ於テハ特殊ノ設計ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除ク外其ノ下部ニ架設シ且危險ヲ防止スル爲適當ニ施設スルコト（細第六十三條）

三 低壓架空電線又ハ他ノ架空弱電流電線 特別高壓電線路ニ添架スル保安通信用電話線ヲ除クト交叉スル箇所ニ在リテハ其ノ上部ニ施設シ四耗ノ第三種絕緣硬銅線若ハ五耗ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テ低壓電線若ハ他ノ弱電流電線ニ第四種絕緣電線

若ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スル場合ハ電話線ヲ下部ト爲スコトヲ得

四 電話線ト他ノ架空弱電流電線トノ垂直距離ヲ一米以上ト爲スコト

**第九十六條** 特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線及之ニ接續スル電話線ハ之ヲ市街地ニ施設スル電話線ト接續スルコトヲ得ズ但シ特殊ノ施設（細第六十四條）ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

**第九十七條** 特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線ニ直接接續スル電話線ハ第九十二條、第九十四條及第九十五條ノ規定ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

**第九十八條** 架空電線路ニ添架スル電話線及直接之ニ接續スル電話線ニ接續スル屋内電話機ノ設置箇所ニハ其ノ架空電線ノ最大使用電壓ニ從ヒ適當ナル保安裝置（細第六十五條）ヲ施スコトヲ要ス

二萬五千ヴオルト以上ノ特別高壓電線路ニ添架スル電話線ニ接續スル屋外電話機ノ接續箇所ニハ適當ナル保安裝置（細第六十六條）ヲ施スコトヲ要ス

**第九十九條** 保安通信用ニ供スル電信線其ノ他ノ弱電流電線ノ工事ニ關シテハ第九十二條乃至前條ノ規定ヲ準用ス

第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事

第一節 屋外工事

第百條 低壓架空引込線ハ第三十二條、第四十八條及第五十一條ノ規定ニ準ジ且左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 電線ニハ二・六耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ徑間二十米以下ノ場合ニ限リ二耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ得
- 二 電線ニハ第四號(ロ)、第七號及第八號ノ場合ヲ除クノ外使用電壓三百ヴオルト以下ナルトキハ第一種絶緣電線、三百ヴオルトヲ超過スル直流低壓ニ在リテハ第二種絶緣電線ヲ使用スルコト
- 三 電線地表上ノ高サハ左ノ制限ニ依ルコト
  - (イ) 道路ヲ横斷スル場合ハ地表上六米以上但シ市街地外ニ於テハ交通ニ支障ナキ様施設シタルモノニ限リ地表上五米以上
  - (ロ) 鐵道、軌道ヲ横斷スル場合ハ軌條面上六米以上
  - (ハ) (イ)(ロ)以外ノ場合ハ地表上五米以上但シ第四十

第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事

三條第二項ニ依ル電線ノ支持物ヨリ分岐スル場合ハ地表上四米以上

四 工事上已ムヲ得ザル場合ハ需用場所ノ取付點ニ於テ前號(イ)及(ハ)ノ制限ヲ交通ニ支障ナキ限リ左ノ高サ迄ニ輕減スルコトヲ得但シ此ノ場合ハ配電線路ニ取付クル點ノ高サハ前項ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

使用電壓 取付點ノ高サ 電線ノ種類

- (イ) 交流百五十ヴオルト  
 以下 中性點ヲ接地シタル場  
 合ハ二百五十又ハ  
 ヴオルト以下  
 直流三百ヴオルト  
 以下 二・五米 第一種絶緣電線
- (ロ) (イ)以外ノモノ
 

{	二・五米	第三種又ハ第四種絶緣電線
{	三・五米	第一種又ハ第二種絶緣電線

五 電線ト造營物トノ間隔ハ左ノ制限ニ依ルコト

- (イ) 造營物ノ側面ニ於テハ一・二米以上
  - (ロ) 造營物ノ上部ニ於テハ二米以上
- 工事上已ムヲ得ザル場合ニシテ危險ノ虞ナク且人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ様施設スルトキハ電線ヲ直接引込ミタル造營物ニ付テハ(イ)(ロ)ノ制限、



其ノ他ノ造營物ニ付テハ(イ)ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

六 電線ト架空弱電流電線トガ交叉シ又ハ接近スル場合ニ於テハ其ノ離隔距離ヲ一米以上ト爲スコト但シ弱電流電線ニ第四種絶縁電線ヲ使用シタルトキ、弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ工事上已ムヲ得ザルトキハ之ヲ六十糎迄ニ短縮スルコトヲ得

七 使用電壓交流百五十ヴオルト、直流三百ヴオルトヲ超過スル電線ガ架空弱電流電線ト交叉シ又ハ水平距離一米以内ニ於テ接近スル場合ニ於テハ左ノ電線ヲ使用スルコト

(イ) 電線ガ弱電流電線ノ上部ニアル場合ハ第三種若ハ第四種絶縁電線又ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノ

(ロ) 電線ガ弱電流電線ノ下部ニアル場合ハ第三種若ハ第四種絶縁電線

使用電壓交流二百五十ヴオルト以下ニシテ中性點ヲ接地シタル場合ハ本號ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

八 配電線路又ハ他ノ引込線ヨリ分岐シテ直ニ百五十ヴオルト以下ノ屋外電燈ニ至ル電線ヲ金屬線ニ依リ吊架スル場合ハ第四種絶縁電線ヲ使用シ

且第四百條第一項第六號ニ準ジ施設スルコト  
 連接引込線ハ屋内ヲ通過セズ且引込線ヨリ分岐スル點ヨリ六十米ヲ超ユル地域ニ互リ施設スルコトヲ得ズ

連接引込線ハ道路ヲ横斷セズ且第百二條ノ規定ニ依リ施設スル場合ヲ除クノ外第一項ニ準ジ之ヲ施設スルコトヲ要ス

高壓架空引込線ニハ四耗ノ第三種絶縁硬銅線若ハ五耗ノ第一種絶縁硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及効力ヲ有スル電線ヲ使用シ且第三十二條、第四十三條及第四十八條乃至第五十二條ノ規定ニ準ジ施設スルコトヲ要ス但シ第四十三條第一項第四號及第五號ノ制限ハ危險ノ虞ナク且工事上已ムヲ得ザル場合ニ限り引込線ト之ヲ直接引込メル造營物ニ付之ヲ適用セズ

第百一條 屋外電燈ノ引下線ニシテ地表上ノ高サ二・五米未滿ノ部分ニハ電纜工事ニ依リ施設スル場合ヲ除クノ外第四種絶縁電線ヲ使用シ且人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル場合ハ他動的損傷ヲ防止スル爲適當ニ施設スルコトヲ要ス

第百二條 軒下其ノ他家屋ノ外面ニ沿ヒ引込線、連接引込線其ノ他ノ低壓電線ヲ施設スル場合又ハ家屋

ノ外側ニ低壓電線ヲ露出セズシテ施設スル場合ハ  
 一・六耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ  
 有スル電線ヲ使用シ之ヲ碍子引工事 人ノ容易ニ觸ル  
 タル場所及點檢シ得ル掩蔽 金屬管工事又ハ電纜工事ニ  
 場所(細第七十六條)ニ限ル 依リ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス  
 (細第六十七條)

前項ノ屋外工事ガ看板燈其ノ他家屋ノ外面ニ於ケル  
 電氣使用ヲ目的トスルモノナルトキハ該電路ノ電線  
 相互間及全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ノ絶  
 縁抵抗ハ電球及附屬物ヲ含ミ使用電壓ニ對スル漏洩  
 電流ヲシテ最大供給電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシメ  
 ザルコトヲ要ス但シ白熱電燈ノミニ電氣ヲ供給スル  
 回路ニ在リテハ電球承口一箇ニ對シメグオーム以  
 上ヲラシムルコトヲ要ス

**第百三條** 「ネオン」管燈其ノ他之ニ類スル放電管燈  
 ハ左ノ各號ニ依リ且人ノ觸ルル虞ナキ場所ニ危險ノ  
 虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第六十八條)  
 一 管燈回路ニ使用スル變壓器ハ二次無負荷電壓一  
 萬五千ヴオルト以下ニシテ二次短絡電流五十ミリ  
 アムペア以下ノモノナルコト  
 二 管燈回路ニ使用スル電線ニハ管極間ノ短小ナル  
 接續線ヲ除ク外特殊ノ絶縁耐力ヲ有スル一・六

耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力  
 ヲ有スル電線ヲ使用スルコト

**第百四條** 電壓百五十ヴオルト以下ノ屋外照明用架  
 空電線路ハ第三十二條、第四十九條、第五十一條及  
 左ノ各號ニ依リ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設(細第  
 六十九條)スルコトヲ要ス

一 他ノ配電線路又ハ引込線ヲ分岐セザルコト

二 他ノ架空電線路又ハ架空弱電流電線路トノ交叉  
 數ヲ最小ナラシムルコト

三 市街地ノ道路上ニ施設スル場合ハ幅員二十米ヲ  
 超過スル道路ニ施設セザルコト但シ道路ノ中央ニ  
 電燈列ヲ架設スル場合ハ幅員十米ヲ超過スル道路  
 ニ施設セザルコト

四 電線ニハ二・六耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ  
 強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ電線  
 ヲ金屬線ニテ吊架スル場合又ハ道路外ニシテ人ノ  
 容易ニ立入ラザル場所ニ三十米以下ノ徑間ヲ以テ  
 施設スル場合ハ二耗ノ硬銅線ヲ使用スルコトヲ得

五 電線ニハ左ニ掲グル絶縁電線ヲ使用スルコト

(イ) 金屬線ニテ吊架シタル電線 第四種絶縁電線

(ロ) 道路上ニ於テ地表上五米未満  
 ノ高サニ施設シタル架空電線 第三種絶縁電線

(イ)及(ロ)以外ノ  
(ハ) 場合ニ於ケル電線 第一種絶縁電線

六 電線地表上ノ高サハ五米以上ト爲スコト但シ道路ノ一側又ハ兩側ニ於テ道路ヲ横斷セズ且交通ニ支障ナキ様施設シタルモノ及道路外ニシテ人ノ容易ニ立入ラザル場所ニ施設シタルモノニ限リ三米以上ト爲スコトヲ得

土地ノ狀況ニ依リ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第百五條 弧光電燈用ノ架空電線ハ往復線ヲ同一支持物ニ竝行シテ架設スルコトヲ要ス但シ他ニ障害ヲ及ボス虞ナキ場合ニ於テハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第二節 屋内工事

第百六條 屋内ニ供給スル電壓ハ特殊ノ工事方法(細第七十條)ニ依ル場合又ハ特ニ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外直流ニ在リテハ五百ヴォルト、交流ニ在リテハ二百五十ヴォルト以下トス但シ乾燥シタル場所ニ限リ此ノ制限以上ノ低壓ニ依リ供給スルコトヲ得

白熱電燈及家庭用電氣器具 電氣扇、電熱器、小型電動機其ノ他之ニ類スル屋内電

氣機械器具ヲ謂ニ供給スル電路ニ在リテハ電線ノ大フ以下之ニ同ジ  
地ニ對スル電壓ハ特殊ノ場合(細第七十一條)ヲ除クノ外百五十ヴォルト以下ト爲スコトヲ要ス

「ネオン」管燈其ノ他之ニ類スル放電管燈ヲ第百三條ノ規定ニ準ジ施設スル場合又ハ特殊ノ事由ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第百七條 屋内配線 電球線及移動シテ使用スル電線ヲ除ク以下之ニ同ジニハ鍍装電纜、鉛被電線又ハ金屬管、金屬線樋若ハ木製線樋内ニ藏メタル電線ヲ使用スル場合ヲ除クノ外耐火耐水質ノ碍子ヲ用ヒ人ノ容易ニ觸レザル様施設スルコトヲ要ス

第百八條 屋内ニ施設スル低壓電線ニハ技術上已ムヲ得ザルモノ(細第七十二條)ヲ除クノ外裸電線ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ特殊ノ設計ニ依リ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第百九條 低壓屋内配線ニハ一・六耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ要ス但シ特殊ノ場合(細第七十三條)ハ此ノ限ニ在ラズ

第百十條 屋内ニ施設スル低壓用電纜及鉛被電線ハ

第四種絶縁電線ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノナル  
コトヲ要ス

屋内ニ於テ他動的損傷ヲ受クル虞アル場所ニ施設ス  
ル電纜ニハ鍍装電纜ヲ使用スル場合ヲ除クノ外適當  
ナル防護装置ヲ施スコトヲ要ス

第百十一條 屋内ニ施設スル電纜ノ被覆ニ用フル金屬  
體及鉛被電線ノ鉛被ハ第三種地線工事ニ依リ接地ス  
ルコトヲ要ス

第百十二條 屋内ニ施設スル低壓電線ニハ引込口ニ近  
キ場所ニ開閉器及自動遮斷器ヲ各極ニ裝置スルコト  
ヲ要ス

前項ノ開閉器ハ容易ニ電路ヲ遮斷シ得ル様施設スル  
コトヲ要ス

第百十三條 屋内ニ施設スル低壓電線ハ左ノ各號ニ依  
リ分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路ニ開  
閉器及自動遮斷器ヲ裝置スルコトヲ要ス但シ特殊ノ  
事由アルモノハ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制  
限ニ依ラザルコトヲ得

一 白熱電燈用電線ハ一キロワット以下毎ニ分岐ス  
ルコト但シ一回路ノ承口ノ總數十五箇ヲ超過セザ  
ル場合ニ限り此ノ制限ヲ三キロワットト爲スコト  
ヲ得

二 白熱電燈ト家庭用電氣器具トニ併セ供給スル電  
線ハ三キロワット以下毎ニ分岐スルコト但シ一回  
路ノ承口ノ總數十五箇ヲ超過スル場合ハ白熱電燈  
ノ總ワット數ヲ一キロワット以下ト爲スコト

三 家庭用電氣器具其ノ他ノ屋内電氣機械器具用電  
線ハ三キロワット以下毎ニ分岐スルコト但シ一回  
路ノ承口ノ總數三箇ヲ超過セザル場合ニ限り此ノ  
制限ヲ五キロワットト爲スコトヲ得

四 一箇ノ容量五キロワットヲ超過スル家庭用電氣  
器具其ノ他ノ屋内電氣機械器具用電線ハ各機械器  
具毎ニ分岐スルコト

前項ノ場合ニ於テ二箇以上ノ分岐回路ノ總ワット數  
ガ前項第一號乃至第三號ノ制限ヲ超過セザルトキハ  
之等各回路ニ共同ノ開閉器及自動遮斷器ヲ使用スル  
コトヲ得

前二項ノ開閉器及自動遮斷器ハ特殊ノ場合（細第七  
十五條）ヲ除クノ外各極ニ之ヲ裝置スルコトヲ要ス

第百十四條 屋内ニ施設スル低壓用ノ開閉器及自動遮  
斷器ハ前二條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外一キロワ  
ット以下ノ低壓二線式屋内電路ニ使用スルモノニ限  
リ單極ニ之ヲ裝置スルコトヲ得

第百十五條 低壓屋内配線ハ其ノ施設場所ニ從ヒ左ニ

電 氣 工 作 物 規 程

掲ぐる工事ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 展開シタル場所

(イ) 碍子引露出工事 以下單ニ露出  
工事ト稱ス

(ロ) 木製線樋工事及金屬線樋工事 乾燥シタル  
場所ニ限ル

(ハ) 金屬管工事及電纜工事

二 點檢シ得ル掩蔽場所 (細第七十六條)

(イ) 碍子引隱蔽工事 以下單ニ隱蔽  
工事ト稱ス

(ロ) 木製線樋工事及金屬線樋工事 乾燥シタル戸棚又  
ハ押入内ニ限ル

(ハ) 金屬管工事及電纜工事

三 點檢シ能ハザル掩蔽場所 (細第七十六條)

(イ) 隱蔽工事 乾燥シタル  
場所ニ限ル

(ロ) 金屬管工事及電纜工事

金屬管工事又ハ電纜工事ヲ施スベキ場合ニ於テ他動的損傷ヲ受クル虞ナキ場所ニ限リ工事上已ムヲ得ザルトキハ鉛被電線ヲ使用シテ施設スルコトヲ得

第百十六條 屋内ニ於テ低壓電線ガ造營材ヲ貫通スル部分ニ於テハ金屬管工事ニ依ル場合ヲ除クノ外之ヲ碍管内ニ藏ムルコトヲ要ス但シ乾燥シタル場所ニ限リ工事上已ムヲ得ザルトキハ「ゴム」管又ハ「ゴム

第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事

「テープ」ヲ以テ碍管ニ代用スルコトヲ得 (細第七十七條)

第百十七條 露出工事ニ依ル低壓屋内配線ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 電線ニハ第二種絶緣電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テ人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ニハ第三種絶緣電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノヲ使用スルコト

二 電線相互間ハ三種以上ヲ離隔スルコト

三 電線ト造營材トハ六耗以上ヲ離隔スルコト

第百十八條 隱蔽工事ニ依ル低壓屋内配線ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 電線ニハ第二種絶緣電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ點檢シ能ハザル掩蔽場所 (細第七十六條)ニ施設スル電線ニハ第三種絶緣電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノヲ使用スルコト

二 工事上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外電線ヲ造營材ノ側面又ハ下面ニ取付クルコト

三 造營材ノ面ニ沿ヒテ電線ヲ取付クルトキハ電線支持點間ノ距離ヲ一米以下ト爲スコト

電氣工作物規程

四 電線相互間ノ距離及電線ト造管材トノ距離ハ左記ニ依ルコト

	電線相互間ノ距離	電線ト造管材トノ距離
(イ) 第二種絶縁電線ヲ造管材ノ側面又ハ下面ニ取付クルトキ	十二種以上	三種以上
(ロ) 第二種絶縁電線ヲ造管材ノ上部ニ取付クルトキ	十二種以上	十種以上
(ハ) 第三種絶縁電線又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スル電線ヲ使用スルトキ	六種以上	三種以上

第百十九條 木製線樋工事ニ依ル低壓屋内配線ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス(細第七十八條)

- 一 電線ニハ第四種絶縁電線ヲ使用スルコト
- 二 電線相互間ハ十二種以上、電線ト線樋ヲ取付クル造管材トハ六種以上及電線ト線樋ヲ取付クル木「ネジ」トハ六種以上ノ距離ヲ離隔スルコト

三 線樋内ニ於テハ電線ニ接続點ヲ設ケザルコト

第百二十條 金屬管工事(細第七十九條)及金屬線樋工事(細第八十條)ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 電線ニハ第四種絶縁電線ヲ使用スルコト
- 二 電線ニハ燃線ヲ使用スルコト但シ短小ナル管若

第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事

ハ樋内ニ藏ムルモノ又ハ二耗以下ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

- 三 管又ハ樋ノ接続ハ電氣的完全ナラシムルコト
- 四 管又ハ樋ハ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト但シ短小ナル管又ハ樋ニシテ乾燥シタル場所ニ施設シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 五 管又ハ樋内ニ於テハ電線ニ接続點ヲ設ケザルコト

第百二十一條 同一ノ屋内ニ施設スル二箇以上ノ低壓屋内配線ガ之ニ供給スル事業者ヲ異ニスルトキハ各回路ニ屬スル電線相互間ノ距離ヲ左ノ區別ニ依リ離隔スルコトヲ要ス

工事方法	離隔距離			
一 各回路ノ電線ガ隠蔽工事ニ依ル場合	一・二米以上			
二 各回路ノ電線ガ露出工事ニ依ル場合	<table border="0"> <tr> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">(隔壁アルトキ 隔壁ナキトキ)</td> <td>十五種以上</td> </tr> <tr> <td>三十種以上</td> </tr> </table>	(隔壁アルトキ 隔壁ナキトキ)	十五種以上	三十種以上
(隔壁アルトキ 隔壁ナキトキ)	十五種以上			
	三十種以上			
三 隠蔽工事ニ依ル電線ト露出工事ニ依ル電線トノ場合	十五種以上			
四 碍子引工事ニ依ル電線ト線樋工事、金屬管工事又ハ電纜工事ニ依ル電線トノ場合	十五種以上			

前項第二號又ハ第四號ノ場合ニ於テ碍子引工事ニ依リ施設シタル一方ノ回路ノ電線ヲ充分ナル長サノ碍

管ニ藏ムルトキハ工事上已ムヲ得ザル場合ニ限リ前項ノ距離以内ニ於テ交叉スルコトヲ得

**第二百二十二條** 屋内ニ施設スル低壓電線ト弱電流電線、水管、瓦斯管共ノ他ノ金屬體トハ十五種以上ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス但シ第三種地線工事ニ依リ接地シタル金屬管工事若ハ金屬線樋工事又ハ鎧裝電纜ヲ用フル電纜工事ニ依リ施設スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ金屬管、金屬線樋又ハ電纜ハ弱電流電線又ハ瓦斯管ニ直接接觸セザル様施設スルコトヲ要ス

碍子引工事ニ依ル電線ガ弱電流電線、水管、瓦斯管共ノ他ノ金屬體ト工事上已ムヲ得ズ十五種以内ニ於テ交叉シ又ハ接近スルトキハ相互間ニ堅固ニ取付ケタル絶縁性ノ隔壁ヲ設ケ又ハ電線ヲ充分ナル長サノ碍管内ニ藏ムルコトヲ要ス

**第二百二十三條** 電球線又ハ移動シテ使用スル低壓電線移動シテ使用スル家庭用電氣器具ニ附屬スル電線ノ類ヲ謂フ以下之ニ同ジニハ其ノ施設場所又ハ使用方法ニ從ヒ左ニ掲グル電線又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ要ス

一 乾燥シタル場所ニ施設スル場合

(イ) 電球線ニハ第二種可撓紐線ヲ使用スルコト

但シ長サ床面ニ達セザル電球線ニシテ移動セザルモノニ在リテハ第一種可撓紐線、長サ床上二米以下ニ達セザルモノ又ハ電球ヲ移動セザル場合ノモノニ在リテハ一耗以上ノ第四種絶縁軟銅撚線ヲ使用スルコトヲ得

(ロ) 移動シテ使用スル電線ニハ第二種可撓紐線ヲ使用スルコト但シ輕小ナル家庭用電氣器具ニ取付クル場合ニ限リ第四種可撓紐線ヲ使用スルコトヲ得

二 濕氣アル場所(細第八十三條)ニ施設スル場合

(イ) 電球線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但シ長サ床面ニ達セザル電球線ニシテ移動セザルモノニ在リテハ第三種甲可撓紐線、長サ床上二米以下ニ達セザルモノ又ハ電球ヲ移動セザル場合ノモノニ在リテハ一耗以上ノ第四種絶縁軟銅撚線ヲ使用スルコトヲ得

(ロ) 移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト

**第二百二十四條** 電球線及移動シテ使用スル低壓電線ノ接続ハ危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第八十一條)

**第二百五條** 濕氣アル場所(細第八十三條) 魚屋、八百屋

### 電 氣 工 作 物 規 程

等ノ水ヲ取扱フ土間又ハニ施設スル低壓電氣工作物ハ  
洗場ノ如キ場所ヲ除ク

左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 碍子引工事ニ依ルトキハ第四種絶縁電線ヲ使用  
シ電線相互間六極以上、電線ト造營材トノ間三極  
以上ヲ離隔スルコト

二 開閉器、自動遮斷器、電球承口、紐線接續器其  
ノ他ノ器具ニハ適當ナル防濕装置ヲ施スコト

**第二百二十六條** 塵埃アル場所（細第八十四條）ニ施設  
スル低壓電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ且危險ノ虞ナ  
キ様適當ニ施設（細第八十五條）スルコトヲ要ス

一 配線ハ碍子引工事、金屬管工事又ハ電纜工事ニ  
依ルコト

二 碍子引工事ニ依ルトキハ第三種絶縁電線ヲ使用  
シ電線相互間六極以上、電線ト造營材トノ間三極  
以上ヲ離隔スルコト

三 開閉器、自動遮斷器、紐線吊其ノ他ノ器具ニハ  
適當ナル防塵装置ヲ施スコト

四 電球承口ニハ無鍵承口ヲ使用スルコト

**第二百二十七條** 腐蝕性瓦斯若ハ溶液ノ發散スル場所  
（細第八十六條）ニ施設スル低壓電氣工作物ハ瓦斯若  
ハ溶液ノ爲侵サレザル様適當ノ塗料ヲ施シ又ハ他ノ  
適當ナル豫防方法ヲ施スコトヲ要ス

### 第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事

絶縁物ヲ害スル瓦斯又ハ溶液ノ發散スル場所ニ於テ  
低壓裸電線ヲ使用スルトキハ展開シタル場所ニ於テ  
操業者ノ外人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ様施設スルコト  
ヲ要ス

**第二百二十八條** 爆發又ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發  
生、製造又ハ貯藏スル場所（細第八十七條）ニ施設  
スル低壓電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ且危險ノ虞ナ  
キ様適當ニ施設（細第八十八條）スルコトヲ要ス

一 配線ハ金屬線樋工事、金屬管工事又ハ鐵裝電纜  
ヲ用フル電纜工事ニ依リ施設スルコト

二 移動シテ使用スル電線ハ之ヲ可撓金屬管ニ藏メ  
又ハ之ニ強韌ナル外裝ヲ施ス場合ヲ除クノ外之ト  
同等以上ノ効力ヲ有スル特殊ノ電線ヲ使用スルコ  
ト

三 自動遮斷器、開閉器、點滅器、紐線接續器、抵  
抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ溫度過昇ノ虞アル器具  
ハ之ヲ場内ニ施設セザルコト但シ堅牢ナル氣密函  
又ハ油中ニ藏ムル如キ方法ニ依リ保安裝置ヲ施シ  
タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

四 電球承口ニハ無鍵承口ヲ使用スルコト

**第二百二十九條** 火藥ヲ製造スル建物内ニ施設スル電氣  
工作物ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依



電氣工作物規程

ルコトヲ要ス

第百三十條 興行場、劇場、映畫館其ノ他之ニ類スルニ施設スル低壓電氣工作物ハ危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス（細第八十九條）

第百三十一條 屋内ニ使用スル家庭用電氣器具ハ適當ノ構造ノモノトシ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス（細第九十條）

第百三十二條 屋内ニ施設スル低壓電線ノ絶縁抵抗ハ第百十三條ノ分岐回路ニ付左ノ各號ニ適合セシムルコトヲ要ス

一 白熱電燈ノミニ供給スル場合

電線相互間及全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ノ絶縁抵抗ハ電球及附屬物ヲ含ミ電球承口一箇ニ付二メグオーム以上ナルコト

二 白熱電燈ト家庭用電氣器具トニ併セ供給スル場合

(イ) 電線相互間及全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ノ絶縁抵抗ハ電氣器具ヲ除キタルトキ電球及附屬物ヲ含ミ電球及電氣器具承口一箇ニ付二メグオーム以上ナルコト

(ロ) 電線ニ電氣器具瞬時溫水器ノ如ク大地ヨリ絶縁セズシテ使用スルモノヲ除クヲモ接続シタルトキ其ノ絶縁抵抗ハ全電線ヲ

第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事

一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ電球及電氣器具承口一箇ニ付一メグオーム以上ナルコト

三 家庭用電氣器具其ノ他ノ屋内電氣機械器具ノミニ供給スル場合

(イ) 絶縁抵抗ハ電線相互間及全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ機械器具ヲ除キタルトキ最大供給電流ノ二萬分ノ一ヲ超過セシメザルコト

(ロ) 電線ニ家庭用電氣器具瞬時溫水器ノ如ク大地ヨリ絶縁セズシテ使用スルモノ其ノ他ノ屋内電氣機械器具ヲ接続シタルトキ其ノ絶縁抵抗ハ全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ一萬分ノ一ヲ超過セシメザルコト

興行場ノ舞臺、奈落、音樂室及映寫室ニ施設シタル低壓電線ノ絶縁抵抗ハ前項各號ノ數値ノ二倍以上ナルコトヲ要ス

前二項ノ絶縁抵抗ハ興行場ニ於テハ毎年二回以上、其ノ他ノ場所ニ於テハ毎年一回以上試験シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス但シ興行場、病院又ハ濕氣若ハ塵埃ノ充チ易キ箇所ヲ除クノ外線間ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

第三節 隧道、坑道其ノ他之ニ類  
スル場所ノ工事

第百三十三條 鐵道又ハ軌道ノ専用隧道内ノ電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 低壓電線ニハ一・六耗ノ第二種絶縁軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ軌條面上ニ米以上ノ高サニ保持スルコト

二 高壓電線ハ左記(イ)又ハ(ロ)ニ依ルコト

(イ) 鎧裝電纜ヲ使用スルコト但シ他動的損傷ヲ防止スル装置ヲ施ストキハ鉛被電纜ヲ使用スルコトヲ得

(ロ) 四耗ノ第三種絶縁硬銅線若ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ軌條面上ニ三米以上ノ高サニ保持スルコト

特殊ノ事由アル場合ハ逡信大臣ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第百三十四條 人ノ常ニ通行スル隧道内ノ低壓電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 金屬管工事又ハ電纜工事ニ依リ施設スル場合ヲ

除クノ外電線ニハ一・六耗ノ第二種絶縁軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スルモノヲ使用シ碍子引工事ニ依リ路面上ニ二・五米以上ノ高サニ施設スルコト

二 電線ニハ隧道引込口ニ於テ開閉器ヲ裝置スルコト

第百三十五條 鑛山其ノ他ノ坑道内ノ電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 低壓電線ニハ電纜ヲ使用スル場合ヲ除クノ外

一・六耗ノ第四種絶縁軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用シ碍子ヲ以テ之ヲ支持シ且岩石又ハ木材ト接觸セザル様施設スルコト但シ電車ノ専用坑道内ニ施設シ軌條面上ノ高サヲ二・五米以上ニ保持スル饋電線ニハ第二種絶縁電線、大地ニ對スル電壓五十五ヴオルト以下ノ電線ニハ第三種絶縁電線ヲ使用スルコトヲ得

二 低壓電線ヲ他動的損傷ヲ受クル虞アル場所ニ施設スルトキハ鎧裝電纜ヲ使用スル場合ヲ除クノ外之ニ適當ナル防護装置ヲ施スコト

三 高壓電線ニハ鎧裝電纜ヲ使用スルコト

四 坑道ノ引込口ニ近キ場所ニ於テ開閉器ヲ設置スルコト

電氣工作物規程

特殊ノ事由アル場合ハ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

特別高壓電線ヲ施設セントスル場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

**第百三十六條** 石炭坑ニ於テ爆發ヲ生ズル程度ニ瓦斯又ハ炭塵ノ發生スル虞アル場所ノ電氣工作物ハ第百二十八條<sup>第一號ヲ除ク</sup>ノ規定ニ準ジ危險ノ虞オキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス

**第百三十七條** 金屬管工事ニ用フル金屬管及電纜ノ被覆ニ用フル金屬體ハ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス

**第百三十八條** 電球線又ハ移動シテ使用スル低壓電線ニハ左ニ掲グルモノヲ使用スルコトヲ要ス

一 電球線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但シ長サ路面ニ達セザル電球線ニシテ移動セザルモノニ在リテハ第三種甲可撓紐線、長サ路面上ニ二米以下ニ達セザルモノニ在リテハ一耗以上ノ第四種絶緣軟銅撓線ヲ使用スルコトヲ得

二 移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但シ著シク外傷ヲ受ケル虞アル場合ハ之ヲ可撓金屬管ニ藏メ又ハ之ニ強靱ナル外裝ヲ施ス場合ヲ除クノ外之ト同等以上ノ效力ヲ有スル

第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事

特殊ノ電線ヲ使用スルコト

**第百三十九條** 電線ト弱電流電線、水管其ノ他ノ金屬體トガ接近シ又ハ並行スル場合ハ左ノ距離ヲ保持シテ施設スルコトヲ要ス

一 低壓電線ニ在リテハ十五種以上但シ電線ヲ充分ナル長サノ碍管内ニ藏ムル場合、電線ヲ厚サ一耗以上ノ金屬管ヲ用フル金屬管工事ニ依リ施設スル場合又ハ鎧裝電纜ヲ用フル電纜工事ニ依リ施設スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二 高壓電線ニ在リテハ鎧裝電纜ヲ用フル場合ハ三十種以上、其ノ他ノ場合ハ六十種以上

**第百四十條** 電線路ハ左ノ絶緣抵抗又ハ絶緣耐力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

一 低壓電線路ノ絶緣部分ト大地トノ間ノ絶緣抵抗ハ回線ノ全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニ於テ使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ千分ノ一ヲ超過セシメザル様保持スルコト

二 高壓電線路ト大地トノ間ノ絶緣耐力ハ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ヲ以テ試験シ十分間以上之ニ耐フルコト但シ多心電纜ノ場合ニ在リテハ其ノ心線相互間ノ絶緣耐力ヲモ試験スルモノトス

第四節 臨時工事

第四百十一條 第四百十二條乃至第四百十四條ノ規定ニ依リ施設シタル電氣工作物ハ施設後一月ヲ限り使用スルコトヲ得但シ第四百十三條ノ規定ニ依ル工事ニシテ第二種絶緣電線ヲ使用スベキ場合ニ第三種絶緣電線、第三種絶緣電線ヲ使用スベキ場合ニ第四種絶緣電線ヲ使用スルトキハ施設後四月ヲ限り使用スルコトヲ得

短時日ヲ限り使用スル目的ヲ以テ臨時ニ施設スル電氣工作物ニ關シテハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ本令ニ規定スル施設制限ヲ輕減スルコトヲ得

第四百十二條 屋内ノ乾燥シタル展開場所ニ臨時施設スル使用電壓二百五十ヴオルト以下ノ電線ハ電線相互間及電線ト造營材トノ間ヲ離隔セズシテ之ヲ施設スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電線ニハ第三種絶緣電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スル電線ヲ使用シ特ニ電線ヲ損傷スル虞ナク且電球ト造花、飾幕其ノ他燃焼シ易キ物ニ接觸セザル様施設スルコトヲ要ス

第四百十三條 使用電壓百五十ヴオルト以下ノ電線ヲ軒下其ノ他家屋ノ外面ニ沿ヒ臨時施設スル場合ニ於

テハ左記各號ニ依ルコトヲ要ス

一 電線ニハ一・六耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用シ碍子引工事ニ依リ施設スル場合ハ電線相互間及電線ト造營材トノ間ヲ左ノ區別ニ依リ離隔スルコト

電線ノ種類	電線相互間ノ距離	電線ト造營材トノ距離
(イ)第二種絶緣電線	六徑以上	三徑以上
(ロ)第三種絶緣電線	三徑以上	六耗以上

第四種絶緣電線ヲ雨露ニ曝露セズ且外物ノ爲損傷スル虞ナキ様適當ニ施設スル場合ハ電線相互間及電線ト造營材トノ間ヲ離隔セズシテ施設スルコトヲ得

二 工事上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外電線ヲ造營材ノ側面又ハ下面ニ取付ケ且支持點間ノ距離ヲ一米以下ト爲スコト但シ二耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用シ且電線ト造營材トガ接觸ノ虞ナキ様充分離隔スル場合ニ限り電線支持點間ノ距離ヲ一米以上ト爲スコトヲ得

三 開閉器、自動遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ屋内ニ裝置シ又ハ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

四 家屋ノ外面ニ於ケル電氣使用ヲ目的トシテ施設スル電路ハ工事上已ムヲ得ザルモノヲ除クノ外一

キロワット以下毎分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路毎ニ各極ニ開閉器及自動遮斷器ヲ裝置スルコト

五 前號ノ開閉器及自動遮斷器ハ専用ノモノトシ屋内電路用ノモノト兼用セザルコト

六 電球承口其ノ他ノ承口ニハ陶器又ハ絶縁性耐火質物ヲ以テ製作シタル防水型ノモノヲ使用スルコト

**第四百四十四條** 樹木、裝飾塔、線門其ノ他之ニ類スルモノニ使用電壓百五十ヴオルト以下ノ電線ヲ臨時施設スル場合ニ於テハ第四種絶縁電線ヲ使用シ電線相互間及電線ト之ヲ取付ケタルモノトノ間ヲ離隔セズシテ施設スルコトヲ得但シ樹木ノ如キ動搖ノ爲電線ヲ損傷スル虞アルモノニ取付ケル場合ニ於テハ其ノ損傷ヲ防止スル爲適當ノ施設ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ電線ノ絶縁抵抗ハ第百二條第二項ノ規定ニ適合セシムルコトヲ要ス

**第四百四十五條** 臨時工事ヲ施設シタルトキハ其ノ使用開始前ニ電線ノ絶縁抵抗ヲ測定シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス  
前項ノ記録書類ノ保存期間ハ第七條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ一年間トス

## 第四章 電氣鐵道

### 第一節 通 則

**第四百四十六條** 電車線ニ使用スル電壓ハ直流低壓トス但シ専用敷地内ニ施設スル電氣鐵道ノ電車線ニ限り直流高壓ヲ使用スルコトヲ得  
特殊ノ設計ニ依ル場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第四百四十七條** 直流單線式電氣鐵道用架空電線路ガ架空弱電流電線路單線式電話線路ヲ除クト並行スル場合ニ於テハ誘導作用ニ因ル通信上ノ障害ヲ及ボサザル様電線相互間ノ距離ヲ四米以上離隔スルコトヲ要ス但シ弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ距離ヲ六十纏迄ニ短縮スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ施設スルモ猶既設架空弱電流電線路單線式電話線路ヲ除クニ對シ障害ヲ及ボス虞アルトキハ更ニ之ヲ除却スベキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第九十一條)

**第四百四十八條** 電氣鐵道用直流電線路及歸線ハ磁力觀測所ニ對シ觀測上ノ障害ヲ及ボサザル様離隔シ又ハ其ノ他ノ適當ナル防止方法ヲ施スコトヲ要ス

第二節 電車線路及第三軌條

**第四百十九條** 道路ニ施設スル電車線ハ市街地ニ在リテハ一軒以下毎、市街地外ニ在リテハ適當ノ長サニ之ヲ區劃シ且各區劃部分ニ對スル送電ヲ獨立ニ遮斷シ得ル施設ヲ爲スコトヲ要ス但シ市街地ニ在リテハ土地ノ狀況ニ依リ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザレコトヲ得

**第四百十條** 電車線ニハ高壓ニ在リテハ十耗、低壓ニ在リテハ八耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第四百十一條** 電車線路ノ支持物ニハ事業者名又ハ略稱、支持物番號及建設年月ヲ表示スルコトヲ要ス但シ電氣鐵道ノ專用敷地内ニ建設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

**第四百十二條** 道路ニ施設スル電車線支持物ノ徑間ハ四十米以下トス但シ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ此ノ制限ヲ六十米迄ニ延長スルコトヲ得

特殊ノ事由アル場合ハ所轄逓信局長ノ認可ヲ受ケテ

前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第四百十三條** 高壓電車線ハ「カテナリー」式ニ依リテ架設シ其ノ垂吊子ノ間隔ヲ四・五米以下ニ保持スルコトヲ要ス但シ隧道内、橋梁ノ下部其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

**第四百十四條** 電車線ノ軌條面上ノ高サハ五米以上トス但シ隧道内、橋梁ノ下部其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スルモノハ工事上已ムヲ得ザル場合ニ限リ三・五米迄ニ短縮スルコトヲ得

鑛山ノ坑道内ニ施設スル電車線ノ軌條面上ノ高サハ工事上已ムヲ得ザル場合ニ限リ前項ノ規定ニ依ラズ二・五米迄ニ短縮スルコトヲ得

土地ノ狀況其ノ他特殊ノ事由アル場合ニ於テハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ前二項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第四百十五條** 電車線及之ニ接続スル吊架用線ト架空弱電流電線トガ交叉シ又ハ接近スル部分ニ於テハ相互ノ電氣的接觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲電氣鐵道事業者ニ於テ適當ノ施設（細第九十三條）ヲ爲スコトヲ要ス

**第四百十六條** 饋電線ヨリ分岐シテ電車線ニ達スル電線ハ之ヲ吊架スル金屬線ヨリ碍子ヲ以テ絶緣シ且金

屬線ハ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス

電車線ノ張線ハ電車線間及電車線ヨリ六十種以内ニ在ル部分ヲ除クノ外第三種地線工事ニ依リ之ヲ接地スルコトヲ要ス但シ特殊ノ事由アル場合(細第九十四條)ハ此ノ限ニ在ラズ

市街地ニ於ケル電氣鐵道ノ専用敷地内又ハ市街地外ニ於テ電車線路ニ接近シテ弱電流電線ノ架設シアラザル場所ニ在リテハ其ノ架設セラルル迄前二項ノ施設ヲ省略スルコトヲ得

**第百五十七條** 第三軌條ハ地下鐵道、高架鐵道其ノ他人ノ容易ニ立入ラザル専用敷地内ノ鐵道ニ限り之ヲ施設スルコトヲ得

特殊ノ設計ニ依ル場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第百五十八條** 第三軌條ハ人ノ容易ニ接觸セザル様之ヲ防護スルコトヲ要ス

**第百五十九條** 饋電線ト第三軌條トノ接續線及第三軌條相互ヲ接續スル電線「ボンド」ヲ含マズニハ鎧裝電纜又ハ鉛被電纜ヲ使用スルコトヲ要ス

**第百六十條** 電車線路又ハ第三軌條ノ絶緣部分ノ絶緣抵抗ハ其ノ最大使用電壓ニ對スル漏洩電流ヲシテ軌

道ノ延長一杆ニ付電車線ニ在リテハ十ミリアムベア、第三軌條ニ在リテハ百ミリアムベアヲ超過セザル様保持スルコトヲ要ス

前項ノ絶緣抵抗ハ架空複線式電車線ニ在リテハ兩電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ニテ之ヲ測定スルモノトス

第一項ノ漏洩電流ガ軌道ノ延長一杆ニ付電車線ニ在リテハ二百五十ミリアムベア、第三軌條ニ在リテハ一アムベアヲ超過シ二十四時間ヲ過グルモ之ヲ除去スルコト能ハザルトキハ送電ヲ繼續スルコトヲ得ズ絶緣抵抗ハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外毎日送電前之ヲ測定シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス

第三節 歸線

**第百六十一條** 歸線 架空單線式若ハ第三軌條式電氣鐵道ノ軌條又ハ其ノ軌條ニ接續スル電線ヲ謂フ以下之ニ同シハ軌條間及軌條ノ外側三十種以内ニ敷設スル部分ヲ除クノ外總テ之ヲ大地ヨリ絶緣スルコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

**第百六十二條** 架空絶緣歸線ハ架空饋電線路ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

**第百六十三條** 歸線タル軌條ハ熔接繼目板ノ熔接ヲ含ムニ依ル

場合ヲ除クノ外適當ナル「ボンド」ヲ以テ電氣的接續ヲ爲スコトヲ要ス

特殊ノ事由アル場合ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

**第百六十四條** 直流式電氣鐵道ノ歸線ノ不絶緣部分ト金屬製地中管路トガ接近シ又ハ交叉スル場合ニ於テハ相互間ノ距離ヲ二米以上ト爲スコトヲ要ス但シ工事上已ムヲ得ズ特殊ノ施設(細第九十五條)ニ依ル場合又ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

歸線及金屬製管路ヲ同一鐵橋ニ敷設スル場合ハ歸線ト橋材トノ間ノ漏洩抵抗ヲ充分大ナラシムル様適當ニ施設スルコトヲ要ス

**第百六十五條** 直流式電氣鐵道ノ歸線ノ不絶緣部分ト金屬製地中管路トガ一杆以内ニ接近スルトキハ第百六十六條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外障害ヲ防止スル爲當該區間ノ歸線ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 歸線ハ隔日ニ其ノ極性ヲ轉換シ又ハ常ニ負極性ト爲スコト

二 軌條ノ繼目ノ抵抗ノ和ハ當該區間ノ軌條ノミノ抵抗ノ二割ヲ超過セシメズ且一ノ繼目ノ抵抗ハ當

該軌條ノ長さ五米ノ抵抗ニ相當スル値ヲ超過セシメザルコト

三 「ボンド」ヲ以テ電氣的接續ヲ爲ス軌條ニ在リテハ八耗ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル補助線ヲ敷設シ軌條ノ繼目二箇以下毎ニ八耗ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル接續線ヲ以テ之ヲ軌條ト接續スルコト但シ軌條ノ接續ガ大部分熔接ニ依リ其ノ他ノ部分ニ獨立シタル「ボンド」二箇以上ヲ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

四 歸線ノ不絶緣部分ニ其ノ一年間ノ平均電流通ズルトキ生ズル電位ノ差ハ當該區間内ノ孰レノ二點間ニ於テモ二ヴオルトヲ超過セシメザルコト(細第九十六條)

五 歸線ノ不絶緣部分ニ生ズル最大電位差ヲ自動的ニ記録スル装置ヲ施スコト

前項ノ當該區間トハ一變電所ノ饋電区域内ニ於テ當該地中管路ヨリ一杆以内ニ在ルノ連續シタル歸線ノ部分ヲ謂フ但シ歸線ト地中管路トガ百米以内ニ於テ二回以上接近スルトキハ其ノ接近部分ノ中間ニ於テ離隔距離ガ一杆ヲ超過スルコトアルモ其ノ全部ヲ一區間トス

地中管路ノ種類ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタルト



キ又ハ地中管路管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ第一項ノ施設ヲ省略スルコトヲ得  
 第一項第二號ノ抵抗ハ毎年一回以上之ヲ測定シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス  
 第一項各號ノ施設ハ金屬製地中管路ガ電氣鐵道敷設後ニ接近スル場合ト雖モ電氣鐵道事業者ニ於テ之ヲ爲スペシ

**第百六十六條** 専用敷地内ニ歸線ノ不絶縁部分ト土壤トノ間ヲ砂利<sup>厚サ三十</sup><sub>厘米以上</sub>枕木等ヲ以テ充分ニ離隔シテ敷設スル直流式電氣鐵道ノ軌道<sup>ハ</sup>金屬製地中管路トガ一杆以内ニ接近スルトキハ障害ヲ防止スル爲當該區間ノ歸線ハ前條第一項第一號、第二號、第五號及左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 軌條ノ接續ハ熔接<sup>繼目板ノ熔接ヲ含ム</sup>又ハ特殊ノ方法(細第九十七條)ニ依リ之ヲ爲スコト但シ軌條ノ繼目五箇以下毎ニ一回ノ割合ヲ以テ兩軌條ヲ八耗ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スルモノヲ以テ接續スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二 歸線ノ不絶縁部分ニ其ノ一年間ノ平均電流通ズルトキ生ズル電位ノ差ハ軌道ノ互長一杆ニ付二・五ヴオルトヲ超過セシメズ且當該區間内ノ孰レノ二點間ニ於テモ十五ヴオルトヲ超過セシメザルコ

ト(細第九十六條)

前項ニ於テ當該區間トハ一變電所ノ饋電区域内ニ於テ當該地中管路ヨリ二杆以内ノ距離ニ在ルーノ連續シタル歸線ノ部分ヲ謂フ

第一項ノ場合ニ於テハ前條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依リ施設スルモ猶障害ヲ及ボス虞アルトキハ更ニ適當ナル防止方法ヲ施スコトヲ要ス

**第百六十七條** 歸線ハ其ノ不絶縁部分及之ト大地トノ間ニ生ズル最大電位ノ差ニ依リ踏切其ノ他公衆ノ通行スル場所ニ於テ人畜ニ危險ヲ及ボス虞アルトキハ之ヲ防止スル爲適當ナル施設(細第九十八條)ヲ爲スコトヲ要ス

**第百六十八條** 地中管路管理者ノ承諾アリタルトキハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケテ歸線ト地中管路トノ電氣的接續ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ電氣的接續ヲ爲シタルトキハ三月毎ニ一回以上其ノ接續點ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス

第 四 節 電 車

**第百六十九條** 電車内ノ電路ト大地トノ間ニ於ケル絶

## 電氣工作物規程

緣抵抗ハ漏洩電流ヲシテ低壓ノ場合ハ規定電流ノ五千分ノ一、高壓ノ場合ハ規定電流ノ一萬分ノ一ヲ超過セシメザル様保持スルコトヲ要ス

前項ノ絶緣抵抗ハ毎月一回以上最大使用電壓ヲ以テ試験シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス

第百七十條 車輛内ニ於テ電流ノ通ズル部分ハ操業者ノ外人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ様施設スルコトヲ要ス

## 第二編 細則

### 第一章 總則

#### 第一節 機械及器具

第一條 低壓又ハ高壓用ノ器具ヲ取付クル盤ハ不可燃質物又ハ耐水性不易燃質ノ塗料ヲ施シタル堅緻ナル木材ヲ以テ製作シタルモノナルコトヲ要ス但シ低壓三十アムペア以下ノ需用者屋内配電盤ハ此ノ限ニ在ラズ

特別高壓用ノ器具ヲ取付クル盤ハ絶緣性不可燃質物ヲ以テ製作シタルモノナルコトヲ要ス

第二條 配電盤ニ取付クル器具及接續電線管内ニル電線及鎧裝電纜ヲ除クハ容易ニ點檢シ得ル様施設スルコトヲ要ス但シ低壓三十アムペア以下ノ需用者屋内配電盤ニシテ造營材ト三櫃以上ヲ離隔シテ施設シ且其ノ裏面ノ接續電線ニ第四種絶緣電線ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

盤ノ裏面ニ高壓若ハ特別高壓用器具又ハ接續電線ヲ施設スルトキハ取扱者ニ危險ヲ及ボサザル様盤ノ裏面ト對壁トノ間ニ充分ナル通路ヲ設クルコトヲ要ス

特別高壓用ノ器具及接續電線ヲ取付クル盤ノ前方ニ  
取扱者ノ爲適當ナル絶縁臺ヲ設置スルコトヲ要ス

**第 三 條** 開閉器、自動遮斷器、抵抗器其ノ他充電  
スル導體ニ接スル器具ハ不易燃質物ヲ以テ絶縁シタ  
ルモノナルコトヲ要ス

**第 四 條** 開閉器、自動遮斷器、抵抗器其ノ他之ニ  
類スル器具ニハ其ノ使用電流及電壓ヲ指示スルコト  
ヲ要ス但シ細則第十一條第一號ノ可熔片ハ此ノ限ニ  
在ラズ

**第 五 條** 本則第九條第一項ノ特殊ノモノトハ「ネ  
オン」管燈用變壓器ノ如キモノヲ謂フ

**第 六 條** 本則第十一條第一項ノ適當ニ施設ストハ  
左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 特別高壓側ニ開閉器及自動遮斷器ヲ設置スルコ  
ト

二 變壓器ノ二次電壓ガ高壓ノ場合ハ變壓器ヲ設置  
シタル場所ニ隣接シテ監視人ヲ常置スル詰所ヲ設  
置シ高壓側ノ檢漏器ヲ其ノ内ニ取付クルコト

三 變壓器ノ二次電壓ガ高壓ノ場合ハ高壓側ニ地上  
ヨリ容易ニ開閉シ得ル油入開閉器ヲ設備スルコト

**第 七 條** 本則第十二條第三項ノ適當ニ施設シタル  
場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 需用者ノ構内ニ設置スル架空線用變壓器ニシテ  
人ノ接觸ヲ防止スルニ充分ナル藩籬ヲ設クル場合

二 地中線用變壓器ヲ變壓器塔上ニ施設スル場合ニ  
シテ變壓器及其ノ高壓側ノ充電部分ヲ地表上三米  
以上ノ高サニ保持シ且變壓器ノ外函竝ニ電纜及附  
屬物ヲ藏メタル金屬體ヲ第三種地線工事ニ依リ接  
地スル場合

**第 八 條** 本則第十三條ノ特殊ノ場合トハ左ノ如キ  
場合ヲ謂フ

一 電氣爐又ハ之ニ類スルモノニ供給スル爲使用ス  
ル場合

二 發電所、變電所、開閉所等ニ於テ所内用トシテ  
使用スル場合

本則第十三條但書ノ適當ニ施設ストハ使用電壓一萬  
ヴオルト以上ノ變壓器ニ在リテハ變壓器内部ノ故障  
ニ因リ自動的ニ變壓器ヲ電路ヨリ遮斷シ得ル保安裝  
置ヲ設備スル如キヲ謂フ

**第 九 條** 本則第十四條第一項但書ノ適當ノ施設ヲ  
爲シタル場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 鐵臺又ハ外函ノ周圍ニ作業者ノ絶縁臺ヲ設置シ  
タル場合

二 高壓用柱上變壓器ヲ人ノ觸ルル虞ナキ様設置シ

タル場合  
三 低壓用ノ機械器具ヲ乾燥シタル木製ノ床其ノ他  
之ニ類スル絶縁性ノ物ノ上ヨリ取扱フ様施設シタ  
ル場合

第十條 本則第十七條第一項ノ非包裝可熔片ハ左  
ノ試験 使用場所ニ取  
付前ノ試験ニ適合スルモノトス

一 低壓ニ使用スル定格電流二百アマペア以下ノ非  
包裝可熔片ハ之ヲ水平ニ取付ケテ 板狀可熔片ハ板  
面ヲ水平ト爲ス  
ト試験シ五分間以上定格電流ノ一・四五倍ノ電流  
ニ耐ヘ一分間以内ニテ二倍ノ電流ニ依リ熔斷スル  
コト

二 高壓ニ使用スル非包裝可熔片ハ二分間以内ニ定  
格電流ノ二倍ノ電流ニ依リ熔斷スルコト

第十一條 本則第十七條第二項ノ特殊ノモノトハ左  
ノ如キモノヲ謂フ

- 一 紐線吊内ニ裝置スル定格電流五アマペア以下ノ  
非包裝可熔片
- 二 硬キ金屬製ニシテ其ノ兩端ヲ端片ニ代用シ得ル  
板狀可熔片
- 三 硬キ金屬製ニシテ左記ノ長サ以上ノ非包裝可熔  
片

定格電流	長サ(端子間)
十アマペア未満	十種

- 二十アマペア未満 十二種
- 三十アマペア未満 十五種

第二節 電線、電路及附屬設備

第十二條 第一種絶縁電線ハ電線ヲ良質且強靱ナル  
撚綿絲其ノ他之ト同等以上ノ物質ヲ以テ一回緊密ニ  
編組シ且絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表  
面ヲ平滑ナラシメタルモノニシテ其ノ被覆物ノ厚サ  
一・七五耗以上ノモノトス

第十三條 第二種絶縁電線ハ電線ヲ良質且強靱ナル  
撚綿絲其ノ他之ト同等以上ノ物質ヲ以テ二回緊密ニ  
編組シ且絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表  
面ヲ平滑ナラシメタルモノニシテ其ノ被覆物ノ厚サ  
一・五耗以上ノモノトス

第十四條 第一種及第二種絶縁電線ハ左ノ各號ノ試  
験ニ適合スルモノトス

- 一 供試線ヲ白色艶紙上ニ載セ攝氏六十度ノ空氣中  
ニ三十分間放置スルモ紙面上ニ油狀ノ斑點ヲ印セ  
ザルコト
- 二 供試線ヲ攝氏零下十五度ノ生寒劑中ニ三十分間  
浸漬スルモ混和物ハ其ノ表面ニ罅裂ヲ生ゼザルコ  
ト

電氣工作物規程

三 五耗以下ノ單線ニ在リテハ攝氏十度乃至三十度ノ溫度ニ於テ之ヲ其ノ仕上リ外徑ノ三倍ノ直徑ヲ有スル圓嚮上ニ緊密ニ十回以上纏捲スルモ其ノ編組被覆物ニ異狀ナク混和物ハ粉末狀ヲ呈セズ且離脱セザルコト

**第十五條** 第三種絶縁電線ハ電線ヲ純「ゴム」二十「パーセント」以上ヲ含有スル品質均一ナル「ゴム」混合物ヲ以テ左表ノ厚サ以上ニ被覆シ更ニ〇・五耗以上ノ厚サニ燃縮絲又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ緊密ニ編組シタル後完全ニ硫化ヲ施シ且絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノトス但シ導體ガ燃線又ハ三・二耗以上ノ單線ナル場合ニ於テハ「ゴム」混合物ノ上ヲ左表ノ厚サ以上ノ「ゴム」引綿「テープ」ヲ以テ重複纏捲シタル後完全ニ硫化ヲ施シ其ノ上ニ編組ヲ施スモノトス  
第三種絶縁電線ハ一巻ノ儘十二時間浸水シ直流百ヴオルト以上ノ電壓ヲ以テ一分間充電ノ後試験シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ左表ニ示ス値以上ノ絶縁抵抗ヲ有スルモノトス  
第三種絶縁電線ハ一巻ノ儘十二時間浸水シタル後左表ニ示ス交流電壓ヲ以テ絶縁耐力ヲ試験シ一分間以上之ニ耐フルモノトス

第一章 總 則

第三種絶縁電線 (單線ノ部)

導體ノ直徑 (耗)	「ゴム」混合物ノ厚サ * (耗)	「テープ」ノ厚サ (耗)	絶縁抵抗 15°C メガオー ム / 軒	試験電壓 (ヴォルト)
12.0	2.0	0.35	250	2500
10.0	1.8	〃	〃	〃
9.0	1.7	〃	〃	〃
8.0	1.6	〃	〃	〃
7.0	1.5	0.25	〃	〃
6.5	1.4	〃	〃	〃
6.0	1.4	〃	300	2000
5.5	1.3	〃	〃	〃
5.0	1.3	〃	〃	〃
4.5	1.2	〃	〃	〃
4.0	1.2	〃	〃	〃
3.5	1.1	〃	400	1500
3.2	1.1	〃	〃	〃
2.9	1.1	〃	〃	〃
2.6	1.1	〃	〃	〃
2.3	1.1	〃	〃	〃
2.0	1.1	〃	〃	〃
1.8	1.1	〃	〃	〃
1.6	1.1	〃	〃	〃
1.4	1.1	〃	〃	〃
1.2	1.0	〃	〃	〃
1.0	1.0	〃	〃	〃

\* 「ゴム」混合物ノ厚サノ公差ハ標準ノ厚サノ十「パーセント」トス

第三種絶縁電線(撚線ノ部)

導 體 公稱切 斷面積 (平方耗)	構 造 (耗)	「ゴム」混 合物ノ厚 サ * (耗)	「テープ」 ノ厚サ (耗)	絶縁抵抗 15°C メガオー ム/軒	試 驗 電 壓 (ヴォ ルト)
1000	127/3.2	4.0	0.5	160	3500
850	127/2.9	3.8	〃	〃	〃
725	91/3.2	3.6	〃	〃	〃
600	91/2.9	3.5	〃	〃	〃
500	61/3.2	3.3	〃	〃	〃
400	61/2.9	3.2	〃	〃	〃
325	61/2.6	3.1	〃	〃	〃
250	61/2.3	2.8	〃	〃	3000
200	37/2.6	2.6	0.35	〃	〃
150	37/2.3	2.4	〃	〃	〃
125	19/2.9	2.2	〃	〃	〃
100	19/2.6	2.1	〃	250	2500
80	19/2.3	1.9	〃	〃	〃
60	19/2.0	1.8	〃	〃	〃
50	19/1.8	1.7	〃	〃	〃
38	7/2.6	1.5	〃	300	2000
30	7/2.3	1.5	0.25	〃	〃
22	7/2.0	1.4	〃	〃	〃
14	7/1.6	1.2	〃	〃	〃
8	7/1.2	1.1	〃	400	1500
5.5	7/1.0	1.1	〃	〃	〃
3.5	7/0.8	1.1	〃	〃	〃
2.0	7/0.6	1.1	〃	〃	〃
1.4	7/0.5	1.0	〃	〃	〃
0.9	7/0.4	1.0	〃	〃	〃

\* 「ゴム」混合物ノ厚サノ公差ハ標準ノ厚サノ十  
「パーセント」トス

第一項ノ「ゴム」混合物ハ左ノ各號ニ依ル化學的及  
物理的性質ヲ有スルモノトス

一 「アセトン」ニテ浸出シタルトキ其ノ浸出量十  
「パーセント」以下ニシテ遊離硫黄一「パーセン  
ト」以下ナルコト

二 供試線ヨリ「ゴム」混合物ヲ約百耗抽出シ其ノ  
中央ニ五十耗ノ長サヲ印シ之ヲ二倍ノ長サニ伸長  
シ其ノ儘一分間支持シタル後放置シ十分間經過後  
ニ於テ永久伸長率二十五「パーセント」以下ナル  
コト

第十六條 第四種絶縁電線 六百ヴォルト以下ハ電線  
ニ使用スルモノ

ヲ純「ゴム」三十「パーセント」以上ヲ含有スル品  
質均一ナル白黒二層ノ「ゴム」混合物ヲ以テ左表ノ  
厚サ以上ニ被覆シ更ニ左表ノ厚サ以上ノ「ゴム」引  
綿「テープ」ヲ重複纏捲シタル後完全ニ硫化ヲ施シ  
更ニ〇・五耗以上ノ厚サニ撚綿絲又ハ之ト同等以上  
ノ物質ヲ以テ緊密ニ編組シ且絶縁性耐水質混和物ヲ  
充分ニ滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノトス  
第四種絶縁電線ハ一卷ノ儘十二時間浸水シ直流百  
ヴォルト以上ノ電壓ヲ以テ一分間充電ノ後試験シ攝  
氏十五度ノ溫度ニ於テ左表ニ示ス値以上ノ絶縁抵抗  
ヲ有スルモノトス

第四種絶縁電線 (單線ノ部)

導體ノ直 徑 (耗)	「ゴム」混 合物ノ厚 サ * (耗)	「テープ」 ノ厚サ (耗)	絶縁抵抗 15°C メガオー ム / 料	試験電壓 (ヴォル ト)
12.0	2.0	0.35	500	2500
10.0	1.8	〃	〃	〃
9.0	1.7	〃	〃	〃
8.0	1.6	〃	〃	〃
7.0	1.5	0.25	〃	〃
6.5	1.4	〃	〃	〃
6.0	1.4	〃	600	2000
5.5	1.3	〃	〃	〃
5.0	1.3	〃	〃	〃
4.5	1.2	〃	〃	〃
4.0	1.2	〃	〃	〃
3.5	1.1	〃	800	1500
3.2	1.1	〃	〃	〃
2.9	1.1	〃	〃	〃
2.6	1.1	〃	〃	〃
2.3	1.1	〃	〃	〃
2.0	1.1	〃	〃	〃
1.8	1.1	〃	〃	〃
1.6	1.1	〃	〃	〃
1.4	1.1	〃	〃	〃
1.2	1.0	〃	〃	〃
1.0	1.0	〃	〃	〃

\* 「ゴム」混合物ノ厚サノ公差ハ標準ノ厚サノ十  
「パーセント」トス

第四種絶縁電線 (撚線ノ部)

導 體		「ゴム」混 合物ノ厚 サ * (耗)	「テープ」 ノ厚サ (耗)	絶縁抵抗 15°C メガオー ム / 料	試 験 電 壓 (ヴォ ルト)
公稱切 斷面積 (平方耗)	構 造 (耗)				
1000	127/3.2	4.0	0.5	400	3500
850	127/2.9	3.8	〃	〃	〃
725	91/3.2	3.6	〃	〃	〃
600	91/2.9	3.5	〃	〃	〃
500	61/3.2	3.3	〃	〃	〃
400	61/2.9	3.2	〃	〃	〃
325	61/2.6	3.1	〃	〃	〃
250	61/2.3	2.8	〃	〃	3000
200	37/2.6	2.6	0.35	〃	〃
150	37/2.3	2.4	〃	〃	〃
125	19/2.9	2.2	〃	〃	〃
100	19/2.6	2.1	〃	500	2500
80	19/2.3	1.9	〃	〃	〃
60	19/2.0	1.8	〃	〃	〃
50	19/1.8	1.7	〃	〃	〃
38	7/2.6	1.5	〃	600	2000
30	7/2.3	1.5	0.25	〃	〃
22	7/2.0	1.4	〃	〃	〃
14	7/1.6	1.2	〃	〃	〃
8	7/1.2	1.1	〃	800	1500
5.5	7/1.0	1.1	〃	〃	〃
3.5	7/0.8	1.1	〃	〃	〃
2.0	7/0.6	1.1	〃	〃	〃
1.4	7/0.5	1.0	〃	〃	〃
0.9	7/0.4	1.0	〃	〃	〃

\* 「ゴム」混合物ノ厚サノ公差ハ標準ノ厚サノ十  
「パーセント」トス

第四種絶縁電線ハ一卷ノ儘十二時間浸水シタル後左表ニ示ス交流電壓ヲ以テ絶縁耐カヲ試験シ一分間以上之ニ耐フルモノトス (表ハ前頁ニ示ス)

第一項ノ「ゴム」混合物ハ左ノ各號ニ依ル化學的及物理的性質ヲ有スルモノトス

一 「アセトン」ニテ浸出シタルトキ其ノ浸出量六「パーセント」以下ニシテ遊離硫黄一「パーセント」以下ナルコト

二 供試線ヨリ「ゴム」混合物ヲ約百耗抽出シ其ノ中央ニ五十耗ノ長サヲ印シ之ヲ二倍ノ長サニ伸長シ其ノ儘一分間支持シタル後放置シ十分間經過後ニ於テ永久伸長率二十「パーセント」以下ナルコト

**第十七條** 第一種可撓紐線ハ錫鍍シタル〇・一八耗ノ軟銅線三十五本以上又ハ〇・二三耗ノ軟銅線八十四本以上ヨリ成ル導體ヲ細キ綿絲又ハ紙帶ニテ纏捲シ更ニ純「ゴム」三十「パーセント」以上ヲ含有シ且一・五以上ノ比重ヲ有スル品質均一ナル「ゴム」混合物ヲ以テ導體ノ太サニ從ヒ左表ノ厚サ以上ニ被覆シ更ニ紙帶ヲ重複纏捲シ完全ニ硫化ヲ施シ其ノ上ヲ綿絲、「カタン」絲、絹絲又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ緊密ニ編組シタルモノトス

導 體 構 造 (耗)	切 斷 面 積 (平方耗)	「ゴム」混合物 ノ 最 小 厚 サ (耗)
133/0.23	5.5	1.00
84/0.23	3.5	1.00
79/0.18	2.0	0.80
55/0.18	1.4	0.80
35/0.18	0.9	0.65

第一種可撓紐線ハ左ノ各號ノ試験ニ適合スルモノトス

一 一卷ノ儘浸水セザル状態ニ於テ兩導體間ノ絶縁耐カヲ交流三千ヴオルトノ電壓ヲ以テ試験シ一分間以上之ニ耐フルコト

二 長サ一米ノ供試線ヲ二十四時間浸水シタル後交流千ヴオルトノ電壓ヲ以テ試験シ一分間以上之ニ耐フルコト

**第十八條** 第二種可撓紐線ハ前條ニ規定シタル構造ヲ有スル線心ニ更ニ「ゴム」引綿「テープ」ヲ纏捲シ(此ノ場合ハ「ゴム」被覆上ノ紙帶ヲ省略スルコトヲ得)又ハ綿絲ヲ以テ下打編組ヲ施シタルモノニ條ヲ綿絲其ノ他ノ軟性纖維質物ト共ニ撚合セ圓嚮形ニ仕上ゲ之ニ綿絲、「カタン」絲、絹絲又ハ之ト同



等以上ノ物質ヲ以テ緊密ニ上打編組ヲ施シタルモノ  
ニシテ前條第二項ノ絶縁耐力試験ニ適合スルモノト  
ス

**第十九條** 第三種甲可撓紐線ハ第一種可撓紐線<sup>綿絲ノ編組ヲ施シタルモノ</sup>ノ編組被覆ニ絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ  
滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノトス

**第二十條** 第三種乙可撓紐線ハ第二種可撓紐線<sup>綿絲ノ編組ヲ施シタルモノ</sup>ノ編組被覆ニ絶縁性耐水質混和物ヲ充分ニ  
滲透シ其ノ表面ヲ平滑ナラシメタルモノトス

**第二十一條** 第四種可撓紐線ハ錫鍍シタル〇・一六耗  
ノ軟銅線二十本ヨリ成ル導體ヲ細キ綿絲ニテ纏捲シ  
更ニ純「ゴム」三十「パーセント」以上ヲ含有シ且  
一・五以上ノ比重ヲ有スル品質均一ナル「ゴム」混  
合物ヲ以テ〇・五耗以上ノ厚サニ被覆シ完全ニ硫化  
ヲ施シタル線心二條ヲ撚合セタル後純「ゴム」二十  
五「パーセント」以上ヲ含有シ且一・五以上ノ比重  
ヲ有スル「ゴム」混合物ヲ以テ線心二條ノ間隙ヲ充  
分ニ填充シ且〇・五耗以上ノ厚サニ被覆シテ圓壘形  
ニ仕上ゲ完全ニ硫化ヲ施シタル後之ニ綿絲、「カタ  
ン」絲、絹絲又ハ之ト同等以上ノモノヲ以テ緊密ニ  
上打編組ヲ施シタルモノトス

第四種可撓紐線ハ外部ノ「ゴム」被覆ト線心及線心

相互間ヲ容易ニ離別シ得ルモノトス

第四種可撓紐線ハ細則第十七條第二項ノ絶縁耐力試  
験ニ適合スルモノトス

**第二十二條** 細則第十七條、第十八條及前條ノ「ゴム」  
混合物ハ供試線ヨリ「ゴム」混合物ヲ約百耗抽出シ  
其ノ中央ニ五十耗ノ長サヲ印シ之ヲ二倍ノ長サニ伸  
長シ其ノ儘一分間支持シタル後放置シ十分間經過後  
ニ於テ永久伸長率二十「パーセント」以下ナルモノ  
トス

**第二十三條** 本則第二十條ニ依ル絶縁銅線及可撓紐線  
ノ安全電流ハ左表ヲ以テ標準トス

絶縁銅線及可撓紐線安全電流表

太サ (耗)	單 線		撚 線			
	安全電流(アムペア)		公稱切 斷面積 (平方 耗)	撚 線 構 成 (耗)	安全電流(アムペア)	
第一種及 第二種 絶縁銅線	第三種及 第四種 絶縁銅線	第一種及 第二種 絶縁銅線			第三種及 第四種 絶縁銅線	
12.0	300	210	1000	127/3.2	1540	960
10.0	230	165	850	127/2.9	1340	840
9.0	200	145	725	91/3.2	1210	770
8.0	170	120	600	91/2.9	1050	670
7.0	140	100	600	91/2.9	1050	670
6.5	130	90	500	61/3.2	900	580
6.0	115	80	500	61/3.2	900	580

電氣工作物規程

5.5	105	75	400	61/2.9	790	510
5.0	90	65	325	61/2.6	670	440
4.5	80	55	250	61/2.3	570	370
4.0	65	50	200	37/2.6	470	320
3.5	55	40	150	37/2.3	400	270
3.2	50	35	125	19/2.9	340	240
2.9	45	32	100	19/2.6	290	200
2.6	40	30	80	19/2.3	250	170
2.3	35	25	60	19/2.0	210	145
2.0	30	20	50	19/1.8	175	120
1.8	25	18	38	7/2.6	145	100
1.6	21	15	30	7/2.3	120	85
1.4	18	12	22	7/2.0	100	75
1.2	15	10	14	7/1.6	75	55
1.0	12	8	8	7/1.2	50	35
可撓紐線			5.5	7/1.0	40	30
太サ (平方 尺)			3.5	7/0.8	30	20
心線構成			2.0	7/0.6	22	15
安全電流 (アムペア)						
5.5	133/0.23	30				
3.5	84/0.23	20				
2.0	79/0.18	15				
1.4	55/0.18	12				
0.9	35/0.18	8				

備 考

- 一 「ゴム」絶縁銅線ヲ碍子引工事ニ用フルトキハ其ノ安全電流ハ前表ノ數値ノ二割以内ヲ限リ増加スルコトヲ得
- 二 第四種絶縁銅線ヲ同一線樋又ハ管内ニ四本以上施設スル場合ハ其ノ安全電流ハ前表ノ數値ヲ適當ニ減少スルコト

第 一 章 總 則

三 特ニ周圍温度高キ場所ニ施設スル電線ニ在リテハ其ノ安全電流ハ前表ノ數値ヲ適當ニ減少スルコト

第二十四條 電線ニ接続點ヲ設クルトキハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

- 一 電線ノ電氣抵抗ヲ増加セシメザルコト
- 二 電線ノ強サヲ二割以上減少セシメザルコト
- 三 接続管又ハ特殊ノ方法ニテ接続スル場合ヲ除クノ外接續部分ヲ鑢着スルコト

第二十五條 本則第二十三條ノ檢漏器ハ漏電ノ程度ヲ常ニ自動的ニ表示スルモノナルコトヲ要ス但シ千ヴオルト以下ノ電路ニ於テ一時間ニ六回以上漏電ヲ檢スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

本則第二十三條ノ必要ナル箇所トハ左ノ如キ箇所ヲ謂フ

- 一 發電所又ハ變電所ノ引出用母線
  - 二 本則第十一條ノ特別高壓變壓器設置箇所ノ高壓側電路
  - 三 他ヨリ供給ヲ受クル受電點
- 前項第三號ノ受電點ガ之ニ供給スル發電所、變電所等ニ隣接スルトキ又ハ受電シタル電氣ヲ受電點ニ隣接スル場所ノ變壓器若ハ電動發電機ニ依リ變成スルトキ又ハ受電シタル電氣ヲ受電點ニ隣接スル場所ニ

於テ使用スルトキハ該受電點ノ檢漏器ハ之ヲ省略スルコトヲ得

**第二十六條** 本則第二十四條第一項ノ必要ナル箇所トハ左ノ如キ箇所ヲ謂フ

- 一 發電所又ハ變電所ノ架空電線引込口若ハ引出口又ハ母線
  - 二 本則第十一條ノ特別高壓變壓器ノ特別高壓側及高壓側但シ一萬ヴオルト未滿ノモノニ限リ特別高壓側ノ避雷器ヲ省略スルコトヲ得
  - 三 架空電線ト電纜トノ接続箇所
  - 四 高壓架空電線路ニ依リ供給スル百キロワツト以上ノ需用場所ノ引込口又ハ母線
  - 五 特別高壓架空電線路ニ依リ供給スル需用場所ノ引込口又ハ母線
  - 六 雷災多キ地方ニ在リテハ前各號以外ノ場所ト雖モ避雷器ヲ必要トスル箇所
- 前項第一號乃至第五號ノ箇所ニ直接接続スル架空電線若ハ電纜短キ場合其ノ他特殊ノ事由アル場合ハ避雷器ノ設置ヲ省略スルコトヲ得

**第二十七條** 本則第二十六條第一項ノ保安裝置ヲ二箇以上ノ變壓器ニ共通ニ使用スル爲メ架空共同地線ヲ設クルトキハ左ノ各號ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

- 一 架空共同地線ニハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル金屬線ヲ使用スルコト但シ各變壓器ニ地線工事ヲ施ス場合ハ四耗ノ金屬線ヲ使用スルコトヲ得
- 二 地線工事ハ變壓器ヨリ二百米以内ノ地域ニ於テ二箇所以上ニ施設シ其ノ合成電氣抵抗ハ其ノオーム數ニ其ノ地線ニ接続スル變壓器ノ總容量ノ四割ニ相當スル一次電流ノアムペア數ヲ乘ジタル積ガ百五十以下ナル様保持スルコト但シ此ノアムペア數ハ其ノ地線ニ接続シタル變壓器中最大容量ノモノノ一次側ニ於ケル自動遮斷器ノ動作電流非包裝  
ニ在リテハ其ノ  
可熔片  
定格電流ノ二倍以上タルコト
- 三 低壓配電線ノ一線ヲ架空共同地線ニ兼用スルモノニ在リテハ該架空共同地線ハ一軒ヲ直徑トスル地域外ニ亙ラザルコト

本則第二十六條第一項ノ保安裝置ヲ二箇以上ノ變壓器ニ共通ニ使用スル爲メ地中共同地線ヲ設クルトキハ前項第二號及第三號ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

**第二十八條** 本則第二十六條第二項及第二十七條第二項ノ特殊ノ場合トハ電氣爐又ハ電氣汽罐ノ如ク常ニ電路ノ一部ヲ大地ヨリ絶緣セズシテ使用スル負荷ニ專用ノ變壓器ヲ以テ供給スル如キ場合ヲ謂フ

第二十九條 本則第二十七條第一項ノ特殊ノ場合トハ  
電氣汽罐又ハ直流單線式電氣鐵道用廻轉變流機ノ如  
ク常ニ電路ノ一部ヲ大地ヨリ絶縁セズシテ使用スル  
負荷ニ専用ノ變壓器ヲ以テ供給スル如キ場合ヲ謂フ

第三十條 本則第二十八條第三號ノ大地ヨリ絶縁セ  
ザル場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 直流單線式電氣鐵道ノ歸線又ハ試驗用變壓器等  
ノ如ク電路ノ一部ヲ常ニ大地ヨリ絶縁セズシテ使  
用スル場合

二 溫水器、電氣爐、電氣汽罐、電解槽等ノ如ク大  
地ヨリ絶縁スルコト困難ナルモノヲ危險ノ虞ナキ様  
施設スル場合

第三十一條 本則第三十條第一項ノ接地線ニハ第一種  
及第三種地線工事ニ在リテハ二・六耗以上ノ銅線、  
第二種地線工事ニ在リテハ變壓器容量ニ從ヒ左ノ太  
サヲ有スル銅線<sup>特別高壓ノ</sup>ヲ使用スルコトヲ要ス  
變壓器容量<sup>場合ハ燃線</sup> 接地線ノ太サ

	特別高壓ノ場合		高壓ノ場合
	特別高壓ノ場合	高壓ノ場合	高壓ノ場合
二十キロヴォルト アムペア未満	四耗以上	二・六耗以上	
二十キロヴォルト アムペア以上	五耗以上	五耗以上	

第一種及第二種地線工事ニ用フル接地線ヲ人ノ觸ル

ル虞アル場所ニ施設スル場合ニ於テハ地板ヲ地下一・五米以上ノ深サニ埋設シ地板ヨリ地上六十種ニ至ル部分ニハ第四種絶縁電線ヲ用ヒ竹又ハ木ノ如キ不導體ノ樋ヲ以テ之ヲ覆ヒ接地線ト樋トノ間ニ絶縁性混和物ヲ填充シ且人ノ接觸又ハ他動的損傷ヲ防止スル爲地上二・五米ノ高サ迄木樋ヲ以テ保護スルコトヲ要ス

前項ノ接地線ヲ人ノ觸ルル虞アル場所ニ於テ鐵柱ノ如キ金屬體ニ沿ヒテ施設スル場合ハ前項ノ規定ニ依ルノ外地板ヲ地中ニ於テ該金屬體ヨリ一米以上離隔シテ埋設シ且接地線全部ニ第四種絶縁電線又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノヲ用ヒテ該金屬體ヨリ絶縁スルコトヲ要ス

第三種地線工事ニ依リ接地スベキ金屬體ト大地トノ接觸良好ニシテ其ノ電氣抵抗ガ百オーム以下ナルトキハ接地線ヲ省略スルコトヲ得

第二項ノ接地線ヲ施設シタル支持物ニハ避雷用地線ヲ取付クルコトヲ得ズ

第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

第一節 通 則

第三十二條 本則第三十四條第一項、第四十七條第一項、第五十五條第一項、第五十六條第一項、第六十四條第一項、第六十五條及第六十八條第一項ノ冰雪多キ地方トハ左ニ掲グル地方ヲ謂フ  
 北海道、青森縣、秋田縣、山形縣、岩手縣、宮城縣、福島縣、新潟縣、長野縣、富山縣、石川縣、福井縣、岐阜縣（北部）、滋賀縣（北部）、京都府（北部）、兵庫縣（北部）、鳥取縣、島根縣及土地高峻ニシテ特ニ寒氣嚴シキ地方竝ニ栃木縣、群馬縣、埼玉縣、茨城縣、東京府、神奈川縣、山梨縣等ノ如ク電線ニ冰雪ノ附着シ易キ地方

第三十三條

電線ノ抗張力ハ左記ヲ以テ標準トス

電線ノ種類	抗張力(一平方耗ニ付)
硬銅線	三十五瓩
鋼心「アルミニウム」線	別表ニ依ル

第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

鋼心「アルミニウム」燃線抗張力表

公稱切斷面積 (サークユ ラ—ミル)	「アルミニウム」 切斷面積 (平方耗)	燃線構成 燃線數/素線直徑(耗)		抗張力 (瓩)
		「アルミニウム」	鋼心	
795 000	402.3	54/3.08	7/3.08	11260
715 000	361.6	54/2.92	7/2.92	10110
666 600	337.3	54/2.82	7/2.82	9430
636 000	323.1	54/2.76	7/2.76	9030
605 000	306.9	54/2.69	7/2.69	8580
556 500	282.6	26/3.72	7/2.89	8330
556 500	282.1	30/3.46	7/3.46	10810
500 000	253.5	30/3.28	7/3.28	9720
477 000	241.7	26/3.44	7/2.68	7570
477 000	241.3	30/3.20	7/3.20	9250
397 500	201.3	26/3.14	7/2.44	6290
397 500	202.3	30/2.93	7/2.93	7750
336 400	170.5	26/2.89	7/2.25	5340
336 400	170.5	30/2.69	7/2.69	6540
300 000	152.2	26/2.73	7/2.12	4750
300 000	152.0	30/2.54	7/2.54	5830
266 800	134.9	6/5.35	7/1.79	3780
266 800	134.9	26/2.57	7/2.00	4220
0000	107.7	6/4.78	1/4.78	3410
000	84.72	6/4.24	1/4.24	2680
00	67.69	6/3.79	1/3.79	2140
0	53.52	6/3.37	1/3.37	1690

備考 抗張力ノ計算式次ノ如シ  $T=100 A_s+15 A_a$

但シ  $T$  ハ抗張力(瓩ヲ單位トス)

$A_s$  ハ鋼心ノ切斷面積(平方耗ヲ單位トス)

$A_a$  ハ「アルミニウム」ノ切斷面積(平方耗ヲ單位トス)

硅銅線	五十六疋
「アルミニウム」線	十六疋
鐵線	三十五疋
鋼線 特殊ノモノヲ除ク	五十六疋

絶縁硬銅線ノ抗張力ハ心線ノ切斷面積一平方疋ニ付三十五疋ヲ以テ標準トス

**第三十四條** 鐵柱及鐵塔ノ部材ニ日本標準規格第二十號ニ依ル構造用壓延鋼材ヲ使用スル場合ハ其ノ許容應力ハ左記ヲ以テ標準トス

一 應張力及彎曲應力 有效切斷面積一平方疋ニ付千二百五十疋

二 應壓力 左記ノ公式ニ依ル

$$P = 1250 - 4 \frac{l}{r}$$

$P$  ハ全切斷面積ニ對スル應壓力（一平方疋ニ付疋ヲ單位トス）

$l$  ハ部材ノ長さ（疋ヲ單位トス）

$r$  ハ使用斷面ノ最小環動半徑（疋ヲ單位トス）

三 應剪力 「ボルト」及「リベット」ニ對シ一平方疋ニ付千疋

四 支壓力 「ボルト」及「リベット」ニ對シ一平

方疋ニ付二千疋

抗壓材ニ在リテハ其ノ長さト最小環動半徑トノ比ハ

次ノ制限ニ依ルモノトス

最大使用電壓六萬ヴォルト以上ニシテ電線ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ百二十平方疋以上、鋼心「アルミニウム」線ニ在リテハ百五十平方疋以上ノ場合

一	主脚材	百五十以下
	其ノ他ノ抗壓材	二百以下
二	前號以外ノ場合	主脚材 二百以下 其ノ他ノ抗壓材 二百五十以下

**第三十五條** 鐵柱及鐵塔ニ用フル鐵材ハ亞鉛鍍セルモノ又ハ適當ナル防蝕塗料ヲ施シタルモノニシテ其ノ厚サハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

最大使用電壓六萬ヴォルト以上ニシテ電線ノ切斷面積硬銅線ニ在リテハ百二十平方疋以上、鋼心「アルミニウム」線ニ在リテハ百五十平方疋以上ノ場合

一	主脚材	六疋以上
	其ノ他ノ部材	三疋以上
二	前號以外ノ場合	主脚材 五疋以上 其ノ他ノ部材 三疋以上

**第三十六條** 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニ用フ  
ル支線ニハ地中ノ部分及地表上三十種ニ至ル部分ニ  
亞鉛鍍セル鐵棒ヲ使用シ之ヲ容易ニ腐蝕シ難キ根柢  
ニ堅牢ニ取付クルコトヲ要ス

**第三十七條** 木柱ノ彎曲ニ對スル破壊強度ハ左記ヲ以  
テ標準トス

木材ノ種類	破壊強度(一平方種ニ付)
杉	四百疋
檜	五百疋

木柱ノ強度計算ニ於テ杉及檜ノ直徑增加率ハ百分ノ  
一ヲ以テ標準トス

**第三十八條** 木柱ノ強度ハ左ニ示ス表又ハ公式ニ依リ  
計算スルモノトス

$S$  ハ徑間(米ヲ單位トス)但シ兩側ノ徑間相等シ  
カラザル場合ニ於テハ兩徑間ノ各二分ノ一ヲ加ヘ  
タルモノトス

$e$  ハ電線又ハ地線等ノ徑(耗ヲ單位トス)但シ乙  
種風壓荷重ノ場合ハ冰雪ノ附着シタル値ヲ採ルモ  
ノトス

$h_1$  ハ電線又ハ地線等ノ支持點ノ地表上ノ高サ(米  
ヲ單位トス)

$H$  ハ木柱地表上ノ高サ(米ヲ單位トス)

$D$  ハ木柱ノ末口(種ヲ單位トス)

$D_0$  ハ木柱地表面ニ於ケル徑(種ヲ單位トス)

$$D_0 = D + H$$

$P$  ハ木柱材料ノ破壊強度(一平方種ニ付種ヲ單位  
トス)(細第三十七條)

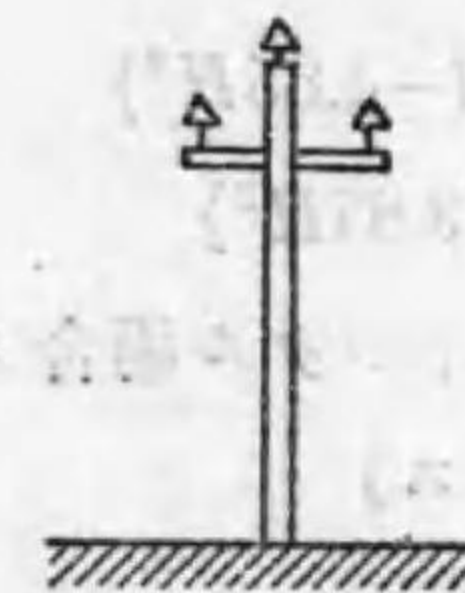
$F$  ハ木柱ノ安全係數

$K$  ハ係數

甲種風壓荷重ノ場合  $K=1$

乙種又ハ丙種風壓荷重ノ場合  $K=0.5$

一 支線ヲ有セザル單柱



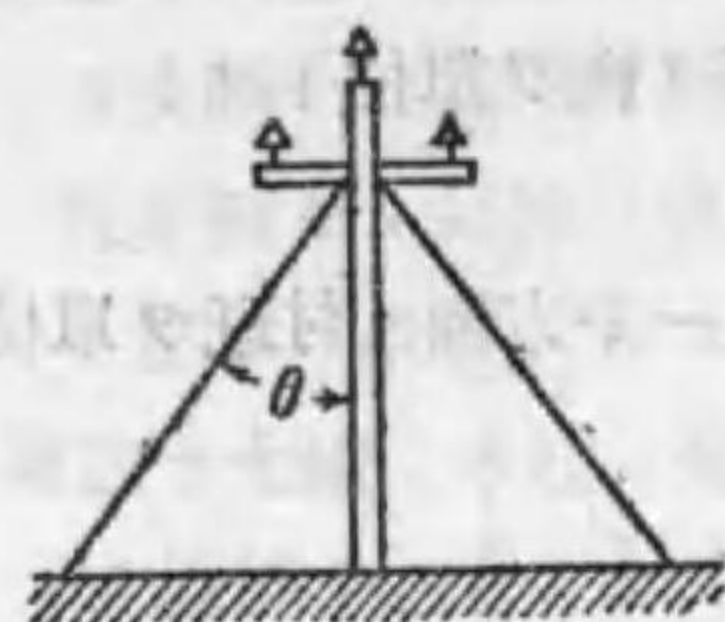
(イ) 表ニ依ル場合ハ第一表ヨリ  
得タル數値ト第二表ヨリ得タ  
ル數値トノ和ガ第三表ヨリ得  
タル數値ヲ超過セザルコト

(ロ) 公式ニヨル場合ハ左記ニ依  
ルコト

$$P/F \geq K \{ 612D_0H^2 - 408H^3 + 102S(\sum eh_1) \} \div D_0^3$$

二 支線ヲ用ヒテ強度ノ一部ヲ分擔セシムル單柱

(イ) 表ニ依ル場合ハ第一表ヨリ得タル數値ノ二  
分ノ一ト第二表ヨリ得タル數値ノ二分ノ一トノ  
和ガ第三表ヨリ得タル數値ヲ超過セザルコト



(ロ) 公式=依ル場合ハ左

記=依ルコト

$$P/F \geq K \{ 306 D_0 H^2 - 204 H^3 + 51 S (\sum e h_1) \} \div D_0^3$$

本號ノ支線ハ左ノ公式  
=依リ計算スルモノトス

$$A = 0.01 K \{ 0.86 S (\sum e) + 5.14 D_0 H - 3.43 H^2 \} \operatorname{cosec} \theta$$

$\theta = 45^\circ$  ナルトキ

$$A = 0.01 K \{ 1.21 S (\sum e) + 7.27 D_0 H - 4.85 H^2 \}$$

$$n = 0.001 K \{ S (\sum e) + 5.80 D_0 H - 3.85 H^2 \}$$

A ハ鐵線ヲ用ヒ其ノ安全係數ヲ三トシタル場合ノ

支線ノ切斷面積 (平方耗ヲ單位トス)

$\theta$  ハ支線ガ電柱ト爲ス角度

n ハ  $\theta$  ガ四十五度ニシテ四耗ノ鐵線ヲ支線トシテ  
用ヒタル場合ノ線條數

三 支線ヲ有セザル H 柱及 A 柱

(イ) 表=依ル場合ハ第一表ヨリ得タル數値ト第

二表ヨリ得タル數値ノ二分ノ一トノ和ガ第三表

ヨリ得タル數値ヲ超過セザルコト

第

$S(\sum e h_1)$ $D_0$	$S(\sum e h_1)$					
	500	1000	2000	3000	4000	5000
20	6.4	12.8	25.5	38.3	51.0	63.8
21	5.5	11.0	22.0	33.0	44.1	55.1
22	4.8	9.6	19.2	28.7	38.3	47.9
23	4.2	8.4	16.8	25.1	33.5	41.9
24	3.7	7.4	14.8	22.1	29.5	36.9
25	3.3	6.5	13.1	19.6	26.1	32.6
26	2.9	5.8	11.6	17.4	23.2	29.0
27	2.6	5.2	10.4	15.5	20.7	25.9
28	2.3	4.6	9.3	13.9	18.6	23.2
29	2.1	4.2	8.4	12.5	16.7	20.9
30	1.9	3.8	7.6	11.3	15.1	18.9
31	1.7	3.4	6.8	10.3	13.7	17.1
32	1.6	3.1	6.2	9.3	12.5	15.6
33	1.4	2.8	5.7	8.5	11.4	14.2
34	1.3	2.6	5.2	7.8	10.4	13.0
35	1.2	2.4	4.8	7.1	9.5	11.9
36	1.1	2.2	4.4	6.6	8.7	10.9
37	1.0	2.0	4.0	6.0	8.1	10.1
38	0.9	1.9	3.7	5.6	7.4	9.3
39	0.9	1.7	3.4	5.2	6.9	8.6
40	0.8	1.6	3.2	4.8	6.4	8.0

(例)  $D_0 = 30$   $S(\sum e h_1) = 18200$  =對スル數ハ S  
一トノ和 68.8 トス



ロ) 公式=依ル場合ハ左  
記=依ルコト

$$P/F \geq K\{306D_0H^2 - 204H^3 + 51S(\sum eh_1)\} \div D_0^3$$

本號ノ支線ハ左ノ公式  
=依リ計算スルモノトス

$$e) + 5.14D_0H$$

θ

$$e) + 7.27D_0H - 4.85H^2$$

$$+ 5.80D_0H - 3.85H^2$$

全係數ヲ三トシタル場合ノ

耗ヲ單位トス)

角度

テ四耗ノ鐵線ヲ支線トシテ

數

柱及 A 柱

第一表ヨリ得タル數値ト第

直ノ二分ノ一トノ和ガ第三表

超過セザルコト

第一表

$D_0 \backslash H$	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0	8.5	9.0	9.5	10.0	10.5	11.0	11.5	12.0	12.5	13.0	13.5	14.0	14.5	15.0
20	44.1	50.6	57.5	64.5	71.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21	40.4	46.5	52.9	59.5	66.2	73.2	80.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22	37.2	42.9	48.8	55.0	61.3	67.8	74.5	81.3	88.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23	34.4	39.7	45.2	50.9	56.9	63.0	69.3	75.7	82.2	88.7	95.4	—	—	—	—	—	—	—	—
24	31.9	36.8	41.9	47.3	52.9	58.7	64.6	70.6	76.7	83.0	89.3	95.6	102.0	—	—	—	—	—	—
25	29.6	34.2	39.0	44.1	49.3	54.7	60.3	66.0	71.8	77.7	83.7	89.8	95.9	102.0	108.1	—	—	—	—
26	27.6	31.9	36.4	41.1	46.1	51.2	56.4	61.8	67.3	72.9	78.6	84.4	90.3	96.1	102.0	107.9	113.8	—	—
27	25.7	29.8	34.0	38.5	43.1	47.9	52.9	58.0	63.2	68.6	74.0	79.5	85.1	90.7	96.3	102.0	107.7	113.3	118.9
28	24.1	27.9	31.9	36.1	40.4	45.0	49.7	54.5	59.5	64.5	69.7	75.0	80.3	85.7	91.1	96.5	102.0	107.5	112.9
29	22.6	26.2	29.9	33.9	38.0	42.3	46.7	51.3	56.0	60.9	65.8	70.8	75.9	81.0	86.2	91.5	96.7	102.0	107.3
30	21.2	24.6	28.1	31.9	35.8	39.9	44.1	48.4	52.9	57.5	62.2	66.9	71.8	76.7	81.7	86.8	91.8	96.9	102.0
31	20.0	23.1	26.5	30.0	33.7	37.6	41.6	45.7	50.0	54.4	58.8	63.4	68.0	72.8	77.5	82.4	87.2	92.1	97.0
32	18.8	21.8	25.0	28.4	31.9	35.5	39.3	43.3	47.3	51.5	55.7	60.1	64.5	69.1	73.6	78.3	83.0	87.7	92.5
33	17.8	20.6	23.6	26.8	30.2	33.6	37.2	41.0	44.8	48.8	52.9	57.1	61.3	65.6	70.0	74.5	79.0	83.5	88.1
34	16.8	19.5	22.4	25.4	28.6	31.9	35.3	38.9	42.6	46.4	50.2	54.2	58.3	62.4	66.7	70.9	75.3	79.7	84.3
35	15.9	18.5	21.2	24.1	27.1	30.3	33.5	36.9	40.4	44.1	47.8	51.6	55.5	59.5	63.5	67.6	71.8	76.0	80.3
36	15.1	17.5	20.1	22.9	25.7	28.7	31.9	35.1	38.5	41.9	45.5	49.2	52.9	56.7	60.6	64.5	68.6	72.6	76.8
37	14.4	16.7	19.1	21.7	24.5	27.1	30.3	33.4	36.6	40.0	43.4	46.9	50.5	54.1	57.9	61.9	65.5	69.7	73.4
38	13.7	15.9	18.2	20.7	23.3	26.1	28.9	31.9	35.0	38.2	41.4	44.8	48.2	51.7	55.3	59.0	62.5	66.4	70.3
39	13.0	15.1	17.4	19.7	22.2	24.8	27.6	30.4	33.4	36.4	39.5	42.8	46.1	49.4	52.9	56.4	60.0	63.6	69.3
40	12.4	14.4	16.6	18.8	21.2	23.7	26.3	29.0	31.9	34.8	37.8	40.9	44.1	47.3	50.6	54.0	57.5	61.0	64.5

(例)  $D_0=30, H=10$  =對スル數ハ 52.9 トス (T・規・120-121 間)

(ロ) 公式ニヨル場合ハ左

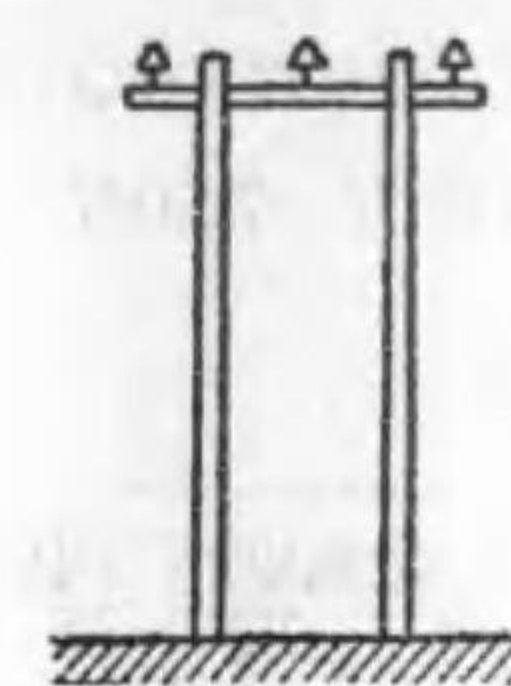
$$P/F \geq K \{612D_0H^2 - 40 + 51S(\sum eh_1)\} \div D_0$$

第二表

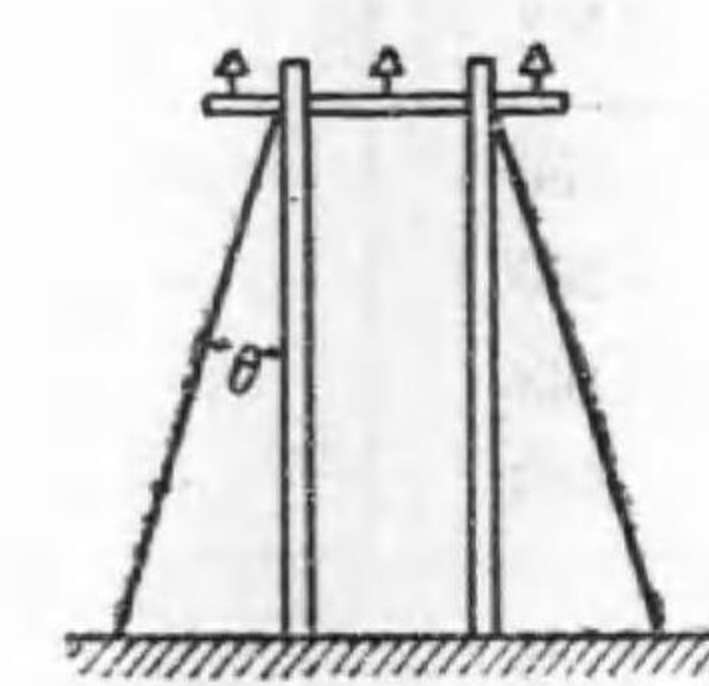
$D_0$	$S(\sum eh_1)$														
	500	1000	2000	3000	4000	5000	6000	7000	8000	9000	10000	20000	30000	40000	50000
20	6.4	12.8	25.5	38.3	51.0	63.8	76.5	89.3	102.0	114.8	127.5	255.0	382.5	510.0	637.5
21	5.5	11.0	22.0	33.0	44.1	55.1	66.1	77.1	88.1	99.1	110.1	220.3	330.4	440.6	550.7
22	4.8	9.6	19.2	28.7	38.3	47.9	57.5	67.1	76.6	86.2	95.8	191.6	287.4	383.2	479.0
23	4.2	8.4	16.8	25.1	33.5	41.9	50.3	58.7	67.1	75.4	83.8	167.7	251.5	335.3	419.2
24	3.7	7.4	14.8	22.1	29.5	36.9	44.3	51.6	59.0	66.4	73.8	147.6	221.4	295.1	368.9
25	3.3	6.5	13.1	19.6	26.1	32.6	39.2	45.7	52.2	58.8	65.3	130.6	195.8	261.1	326.4
26	2.9	5.8	11.6	17.4	23.2	29.0	34.8	40.6	46.4	52.2	58.0	116.0	174.1	232.1	290.2
27	2.6	5.2	10.4	15.5	20.7	25.9	31.1	36.3	41.5	46.6	51.8	103.6	155.5	207.3	259.1
28	2.3	4.6	9.3	13.9	18.6	23.2	27.9	32.5	37.2	41.8	46.5	92.9	139.4	185.9	232.3
29	2.1	4.2	8.4	12.5	16.7	20.9	25.1	29.3	33.5	37.6	41.8	83.6	125.5	167.3	209.1
30	1.9	3.8	7.6	11.3	15.1	18.9	22.7	26.4	30.2	34.0	37.8	75.6	113.3	151.1	188.9
31	1.7	3.4	6.8	10.3	13.7	17.1	20.5	24.0	27.4	30.8	34.2	68.5	102.7	137.0	171.2
32	1.6	3.1	6.2	9.3	12.5	15.6	18.7	21.8	24.9	28.0	31.1	62.3	93.4	124.5	155.6
33	1.4	2.8	5.7	8.5	11.4	14.2	17.0	19.9	22.7	25.0	28.4	56.8	85.1	113.5	141.9
34	1.3	2.6	5.2	7.8	10.4	13.0	15.6	18.2	20.8	23.4	26.0	51.9	77.9	103.8	129.8
35	1.2	2.4	4.8	7.1	9.5	11.9	14.3	16.7	19.0	21.4	23.8	47.6	71.4	95.2	119.0
36	1.1	2.2	4.4	6.6	8.7	10.9	13.1	15.3	17.5	19.7	21.9	43.7	65.6	87.4	109.3
37	1.0	2.0	4.0	6.0	8.1	10.1	12.1	14.1	16.1	18.1	20.1	40.3	60.4	80.5	100.7
38	0.9	1.9	3.7	5.6	7.4	9.3	11.2	13.0	14.9	16.7	18.6	37.2	55.8	74.4	92.9
39	0.9	1.7	3.4	5.2	6.9	8.6	10.3	12.0	13.8	15.5	17.2	34.4	51.6	68.8	86.0
40	0.8	1.6	3.2	4.8	6.4	8.0	9.6	11.2	12.8	14.3	15.9	31.9	47.8	63.8	79.7

(例)  $D_0=30$   $S(\sum eh_1)=18200$  対スル数ハ  $S(\sum eh_1)$  ノ 10000 ノ欄ト 8000 ノ欄ト 2000 ノ欄ノ十分ノ

一トノ和 68.8 トス



四 支線ヲ用ヒテ強度ノ一節及 A 柱



(イ) ヨリト第四分リ得コト  
(ロ) =依ルコト

$$P/F \geq K \{306D_0H^2 - 20 + 25.5S(\sum eh_1)\} \div D_0$$

二 表

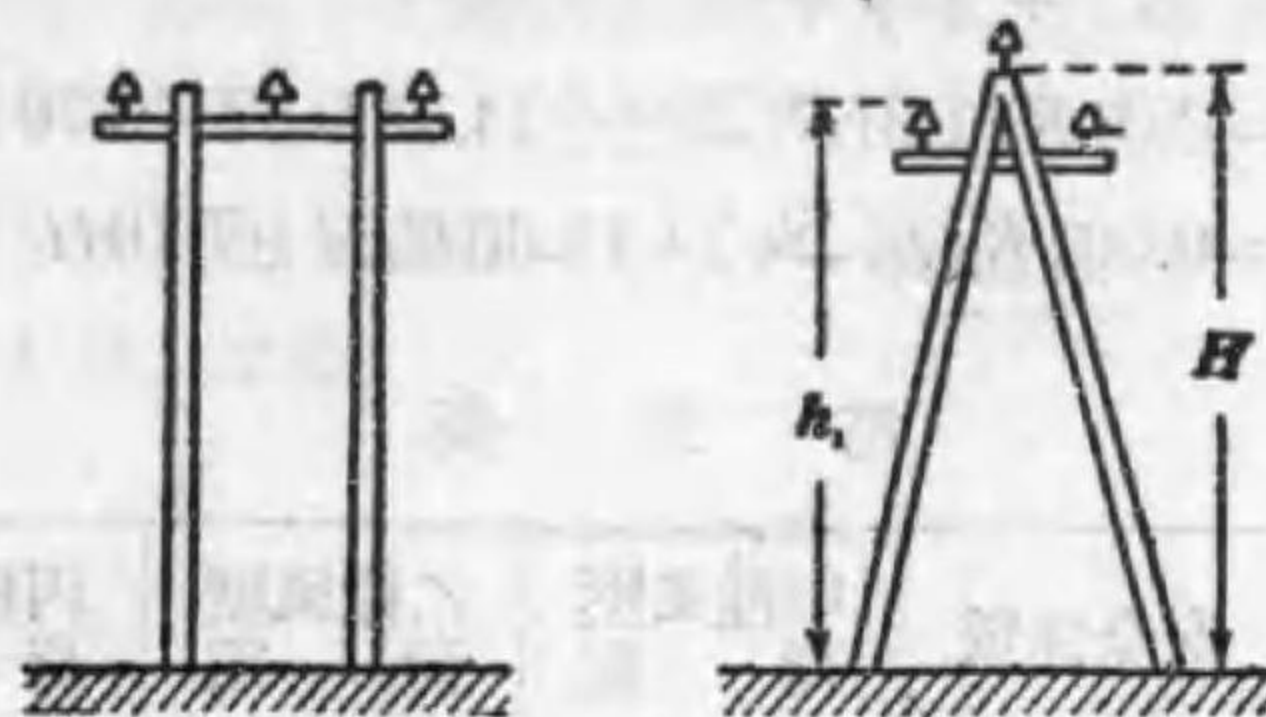
3000	7000	8000	9000	10000	20000	30000	40000	50000
76.5	89.3	102.0	114.8	127.5	255.0	382.5	510.0	637.5
66.1	77.1	88.1	99.1	110.1	220.3	330.4	440.6	550.7
57.5	67.1	76.6	86.2	95.8	191.6	287.4	383.2	479.0
50.3	58.7	67.1	75.4	83.8	167.7	251.5	335.3	419.2
44.3	51.6	59.0	66.4	73.8	147.6	221.4	295.1	368.9
39.2	45.7	52.2	58.8	65.3	130.6	195.8	261.1	326.4
34.8	40.6	46.4	52.2	58.0	116.0	174.1	232.1	290.2
31.1	36.3	41.5	46.6	51.8	103.6	155.5	207.3	259.1
27.9	32.5	37.2	41.8	46.5	92.9	139.4	185.9	232.3
25.1	29.3	33.5	37.6	41.8	83.6	125.5	167.3	209.1
22.7	26.4	30.2	34.0	37.8	75.6	113.3	151.1	188.9
20.5	24.0	27.4	30.8	34.2	68.5	102.7	137.0	171.2
18.7	21.8	24.9	28.0	31.1	62.3	93.4	124.5	155.6
17.0	19.9	22.7	25.0	28.4	56.8	85.1	113.5	141.9
15.6	18.2	20.8	23.4	26.0	51.9	77.9	103.8	129.8
14.3	16.7	19.0	21.4	23.8	47.6	71.4	95.2	119.0
13.1	15.3	17.5	19.7	21.9	43.7	65.6	87.4	109.3
12.1	14.1	16.1	18.1	20.1	40.3	60.4	80.5	100.7
11.2	13.0	14.9	16.7	18.6	37.2	55.8	74.4	92.9
10.3	12.0	13.8	15.5	17.2	34.4	51.6	68.8	86.0
9.6	11.2	12.8	14.3	15.9	31.9	47.8	63.8	79.7

(Σeh<sub>1</sub>)ノ10000ノ欄ト8000ノ欄ト2000ノ欄ノ十分ノ

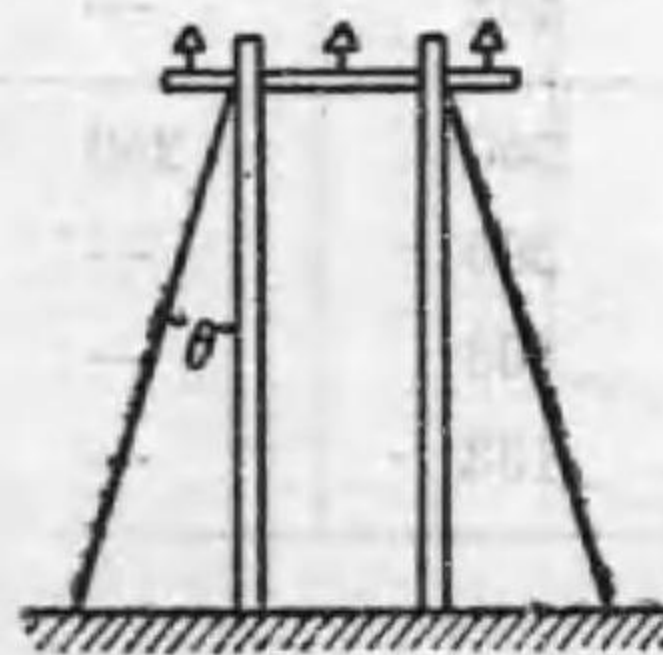
第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

(ロ) 公式ニヨル場合ハ左記ニ依ルコト

$$P/F \geq K \{612D_0H^2 - 408H^3 + 51S(\Sigma eh_1)\} \div D_0^3$$



四 支線ヲ用ヒテ強度ノ一部ヲ分擔セシムル H 柱及 A 柱



(イ) 表ニ依ル場合ハ第一表ヨリ得タル數値ノ二分ノ一ト第二表ヨリ得タル數値ノ四分ノ一トノ和ガ第三表ヨリ得タル數値ヲ超過セザルコト

(ロ) 公式ニ依ル場合ハ左記

ニ依ルコト

$$P/F \geq K \{306D_0H^2 - 204H^3 + 25.5S(\Sigma eh_1)\} \div D_0^3$$

電氣工作物規程

本號ノ支線ハ左ノ公式ニ依リ計算スルモノトス

$$A = 0.01K\{0.86S(\sum e) + 10.28D_0H - 6.86H^2\} \operatorname{cosec} \theta$$

$\theta = 45^\circ$  ナルトキ

$$A = 0.01K\{1.21S(\sum e) + 14.54D_0H - 9.70H^2\}$$

$$n = 0.001K\{S(\sum e) + 11.60D_0H - 7.70H^2\}$$

第三表

	安全係數	甲種風壓荷重	乙種風壓荷重	丙種風壓荷重
杉	4	100	200	200
	5	80	160	—
	6	67	133	—
材	7.5	54	108	—
	4	125	250	250
檜	5	100	200	—
	6	84	168	—
	7.5	67	133	—

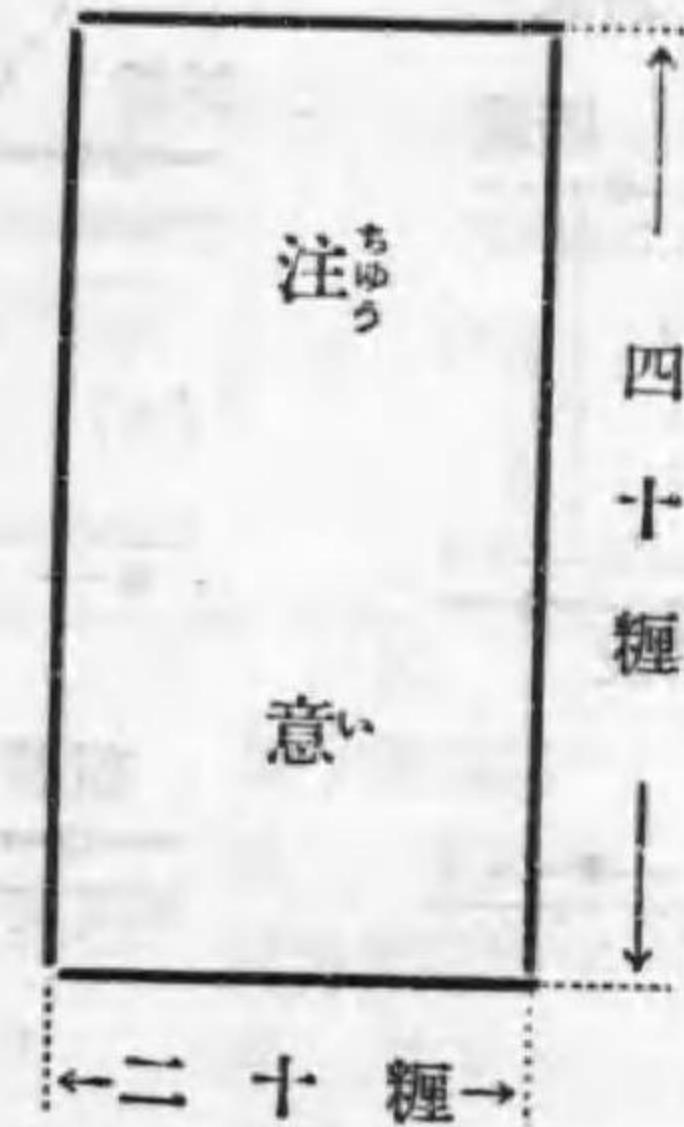
第三十九條 本則第三十六條第二項ノ適當ナル表示ト

ハ左ノ如キモノヲ謂フ

- 一 高壓架空電線路ニ在リテハ碍子ノ表面ノ見易キ部分幅約二種又ハ腕木ノ表面ヲ赤色ト爲スモノ

第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

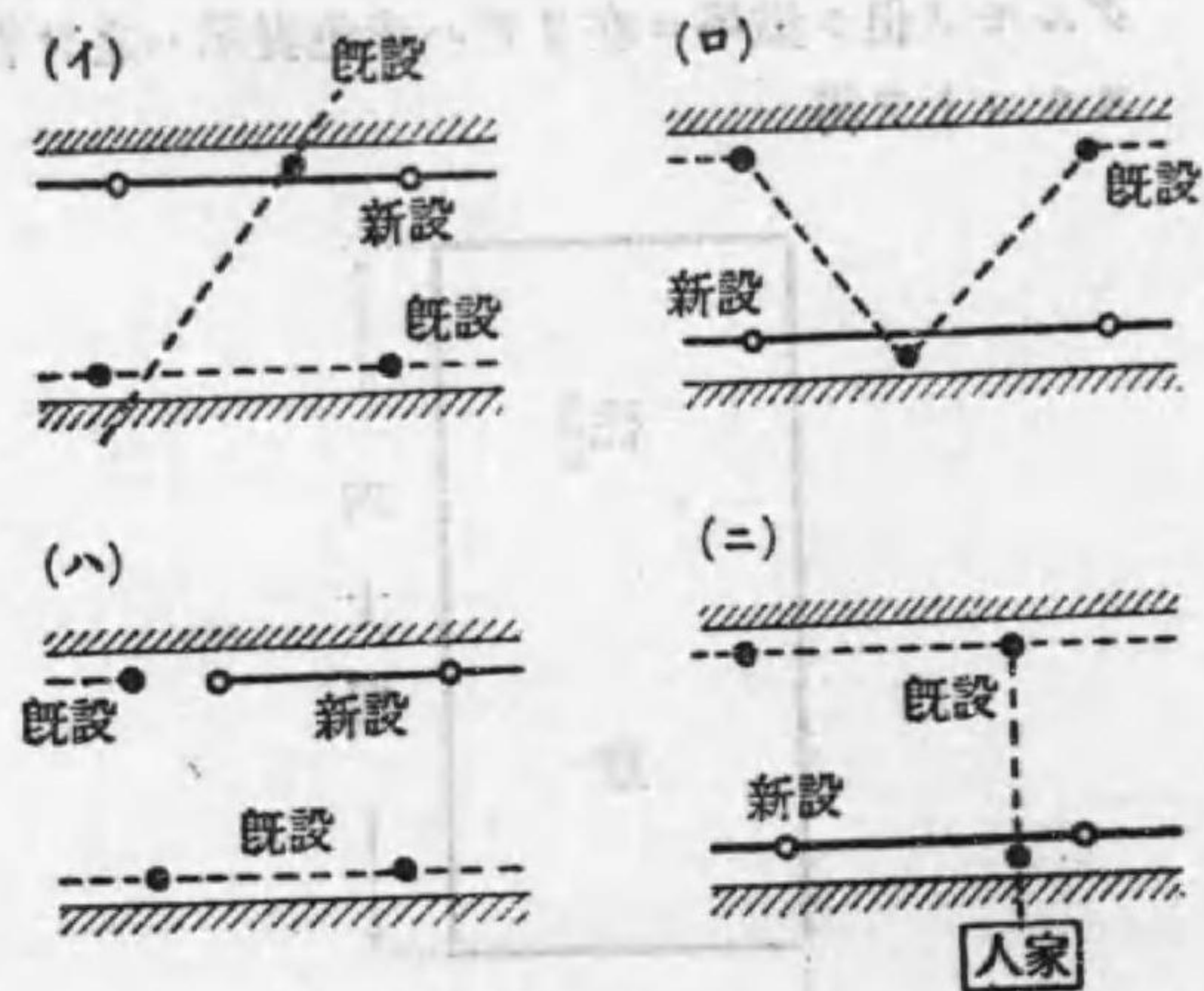
二 特別高壓架空電線路ニ在リテハ建築物、道路交通頻繁ナラザル又ハ架空弱電流電線路ヨリ約三百米以内ニ在ル支持物ノ外部ヲ地表上ニ・五米ノ高サニ於テ縱幅三十種以上赤色ト爲シ且五十米以内ニ在ル支持物ニ左ノ注意札又ハ之ニ類スル標札ヲ掲グルモノ但シ鐵塔ニ在リテハ赤色表示ハ之ヲ省略スルコトヲ得



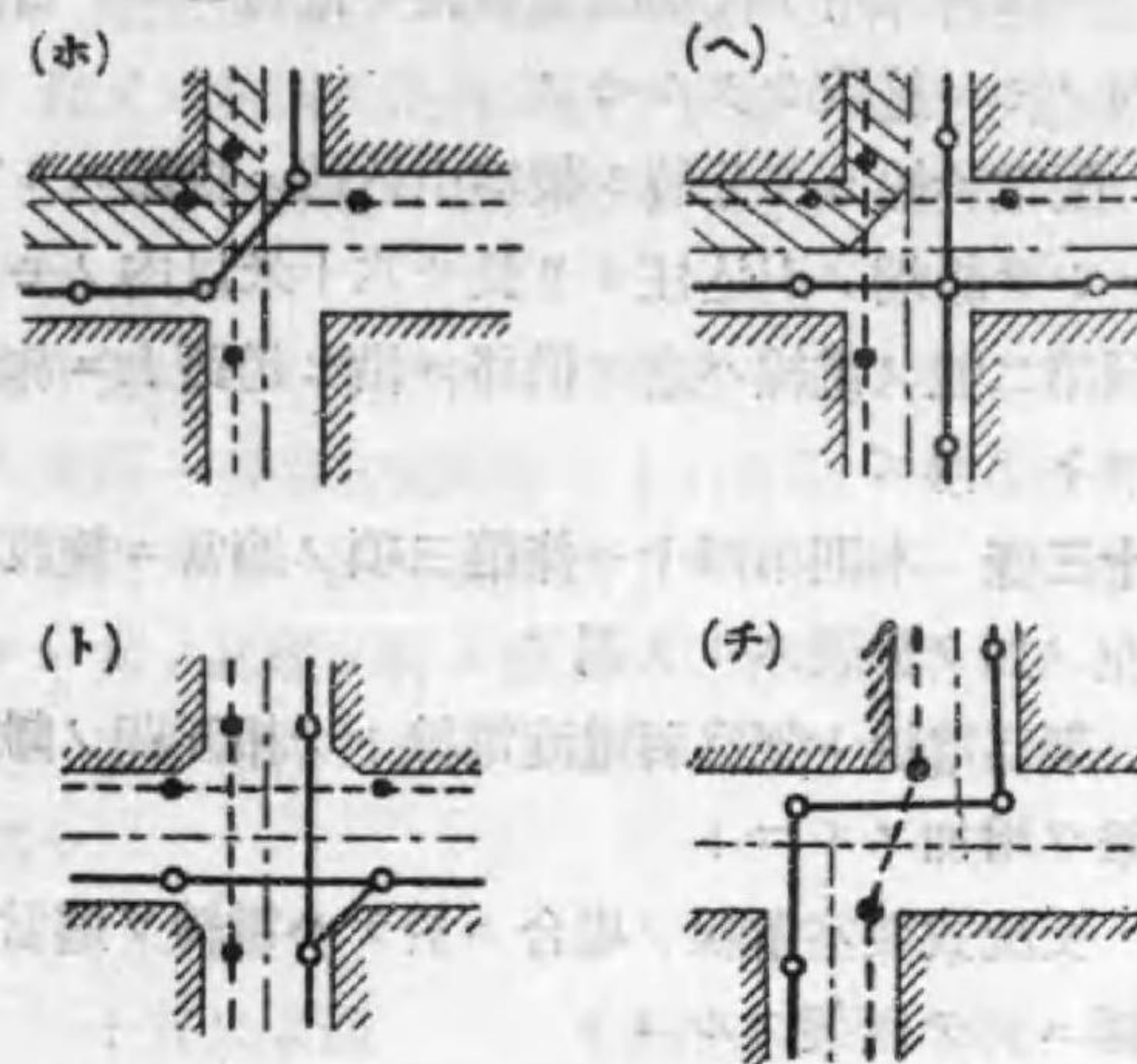
第四十條 架空電線路ニ用フル架空地線ハ高壓電線路ニ在リテハ四耗、特別高壓電線路ニ在リテハ五耗ノ硬銅線若ハ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル裸線ヲ使用スルコトヲ要ス

第二節 低壓及高壓架空電線路

第四十一條 本則第四十條第一項但書ノ工事上若ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ザルトキトハ左圖ノ如キ場合ヲ謂フ



本則第四十條第一項第二號ノ道路ノ兩側ニ跨ラズトハ道路ニ沿ヒ建設スル電線路ノ中心線ガ當該道路ノ中心線ト交叉セザル様施設スルヲ謂フ  
道路ノ交叉點ニ於テ電線路ト弱電流電線路及道路中心線トノ關係ハ左圖ニ準ズルモノトス



凡 例	
—○—	架空電線路
○	同 支持物
-●-	弱電流電線路
●	同 支持物
- - -	道路中心線

第四十二條 本則第四十條第一項、第四十二條第一項但書及第四十三條第二項ノ架空引込線ニ隣接スル部分トハ左ノ如キモノヲ謂フ

- 一 一構内専用ノ低壓配電線路ノ電線ニシテ當該構内ノミニ施設シタルモノ
  - 二 配電幹線ヨリ分岐シ架空引込線ニ接続スル電線ニシテ終端ノ引込柱ヨリ長サ六十米以内ノモノ
- 前項第二號ノ電線ハ之ヲ道路ニ沿ヒ道路上ニ施設スルコトヲ得ズ

**第四十三條** 本則第四十一條第三項ノ適當ニ施設ストハ左ノ如ク施設スルヲ謂フ

- 一 架空電線ト架空弱電流電線トノ相互間ノ離隔距離ヲ増加スルコト
- 二 交流式架空電線ノ場合ニ於テハ電線ヲ適當ノ距離ニ於テ懸架スルコト
- 三 電線ト弱電流電線ト交叉シ又ハ接近スル場合ニ在リテハ其ノ交叉又ハ接近部分ニ於テ電線相互間ニ四耗ノ硬銅線若ハ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル金屬線二條以上ヲ施設シ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

**第四十四條** 本則第四十四條第一項但書ノ危險ノ虞ナキ様取付ケタル電線トハ左ノ如キモノヲ謂フ

- 一 工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テ低壓引込線又ハ之ニ隣接スル部分(細第四十二條)ノ電線ヲ分岐スル爲之ヲ高壓用腕木ニ堅牢ニ取付ケタルモノ

- 二 配電變壓器ノ高壓側導線ニ二・六耗以上ノ第三種又ハ第四種絶緣銅線ヲ使用シ且低壓電線ト接觸ノ虞ナキ様之ヲ支持物又ハ腕木ニ堅牢ニ取付ケタルモノ

**第四十五條** 本則第四十六條第一項及第二項、第五十五條第一項第三號及第五十六條第一項第五號ノ堅牢ニ建設ストハ鐵柱及鐵筋「コンクリート」柱ニ在リテハ其ノ基礎ヲ特ニ堅固ニシ木柱ニ在リテハ地盤ガ特ニ堅キ場合ヲ除クノ外其ノ根入ヲ左ノ如ク爲スヲ謂フ

木柱全長	根入
十五米未滿	木柱全長ノ六分ノ一以上
十五米以上	二・五米以上

水田其ノ他地盤軟弱ナル箇所ニ於テハ堅牢ナル根柵ヲ施スコトヲ要ス

**第四十六條** 本則第四十八條第一項ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

- 一 交叉箇所ニ在リテハ電車線ト交叉ノ場合ヲ除クノ外高壓電線ヲ低壓電線ノ上部ト爲スコト
- 二 工事上已ムヲ得ズ前號ニ依リ難キ場合又ハ低壓電線ガ高壓電線ノ上部ニ於テ並行シ又ハ接近シテ相互間ノ水平距離二・五米以下ナル場合ハ該低壓

電線ニ五耗ノ硬銅撚線若ハ四耗ノ第三種絶縁硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ水平距離一・二米以上ニシテ垂直距離其ノ一・五倍以下ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

三 前號ノ場合ニ於テ低壓電線路支持物ノ強度ハ本則第四十六條第一項ニ準ジ計算シタルモノナルコト但シ木柱ニ在リテハ末口十二種以上ト爲スコト

**第四十七條** 本則第五十條但書、第五十四條第二號及第五十五條第一項第五號ノ適當ノ施設トハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 架空電線ガ架空弱電流電線ノ下部ニ於テ四十五度以下ノ角度ヲ以テ交叉シ又ハ相互間ノ水平距離

二・五米以下ナルトキハ架空電線ノ上部ニ保護網ヲ施設スルコト但シ水平距離一・二米以上ニシテ垂直距離其ノ一・五倍以下ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二 架空電線ガ架空弱電流電線ノ下部ニ於テ四十五度ヲ超ユル角度ヲ以テ交叉スルトキハ架空電線ノ上部ニ保護線ヲ施設スルコト

三 保護網又ハ保護線ト架空電線又ハ架空弱電流電線トノ垂直距離ハ六十種以上ト爲スコト但シ保護

網又ハ保護線ト架空電線トノ距離ハ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テハ三十種迄ニ、保護網又ハ保護線ト架空弱電流電線トノ垂直距離ハ弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得テ三十種迄ニ短縮スルコトヲ得前項ノ裝置ハ弱電流電線ニ第四種絶縁電線若ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スル場合ハ之ヲ省略スルコトヲ得

**第四十八條** 前條第一號ノ保護網ハ第三種地線工事ニ依リ接地シタル鐵線又ハ硬銅線製ノ網狀裝置トシ且左ノ各號ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

一 縦線ノ太サ四耗以上 縦線相互ノ間隔 一・五米以下

二 横線ノ太サ二・六耗以上 横線相互ノ間隔 一・五米以下

三 保護網ガ架空電線ノ外部ニ張出スル幅員ハ保護網ト電線トノ垂直距離ノ二分ノ一以上但シ三十種以上トス

前項ノ保護網ハ之ヲ運轉頻繁ナル蒸汽鐵道線路上ニ架設スル場合ニ於テハ硬銅線其ノ他容易ニ腐蝕シ難キ金屬線ヲ以テ構成スルコトヲ要ス

**第四十九條** 細則第四十七條第二號ノ保護線ハ第三種地線工事ニ依リ接地シタル二條以上ノ鐵線又ハ硬銅

## 電氣工作物規程

線トシ且左ノ各號ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

- 一 保護線ノ太サ四耗以上
  - 二 保護線相互ノ間隔七十五種以下
  - 三 保護線ガ架空電線ノ外部ニ張出スル幅員ハ保護線ト電線トノ垂直距離ノ二分ノ一以上 但シ三十種以上トス
- 前項ノ保護線ヲ運轉頻繁ナル蒸汽鐵道線路上ニ架設スル場合ニ於テハ之ニ硬銅線其ノ他容易ニ腐蝕シ難キ金屬線ヲ使用スルコトヲ要ス

**第五十條** 本則第五十五條第一項第五號及第五十六條第一項第八號ノ適當ノ施設トハ裸電線ノ兩外線直下部ニ於テ電線ト弱電流電線トノ間ニ第三種地線工事ニ依リ接地シタル五耗以上ノ鐵撚線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル金屬線ヲ弱電流電線ト六十種以上ノ距離ヲ保持シテ架設スルヲ謂フ

前項ノ金屬線ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

- 一 弱電流電線ニ第四種絕緣電線若ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用シタル場合
- 二 裸電線ト弱電流電線トノ垂直距離十米以上ナル場合

## 第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

- 三 弱電流電線ノ上部ニ於テ交叉スル二條以上ノ低壓又ハ高壓被覆電線本則第四十二條ニ適合スルモノヲ裸電線ノ下部ニ添架シタル場合
- 前項ノ金屬線ヲ運轉頻繁ナル蒸汽鐵道線路上ニ架設スル場合ニ於テハ之ニ硬銅線其ノ他容易ニ腐蝕シ難キ金屬線ヲ使用スルコトヲ要ス

**第五十一條** 本則第五十六條第一項第三號ノ特殊ノ場合トハ同一母線ニ接續スル同極性ノ架空饋電線ヲ同一腕木上ニ架設スル如キ場合ヲ謂フ

### 第三節 特別高壓架空電線路

**第五十二條** 特別高壓架空電線路ハ既設架空電話線路「ケーブル」ニ對シ常時靜電誘導作用ニ因リ通信上ノ線路ヲ除クニ對シ常時靜電誘導作用ニ因リ通信上ノ障害ヲ及ボサザル爲其ノ使用電壓ニ從ヒ左ノ各號ノ一ニ適合スル様離隔スルコトヲ要ス

- 一 最大使用電壓一萬五千ヴォルトヲ超過スル場合

(イ) 最大使用電壓六萬ヴォルト以下ノ場合ニ在リテハ電話線路ノ互長每十二杆ニ付左ノ公式ニ依リ計算シタル誘導電流ガニマイクロアムペアヲ超過セザル範圍内ニ、最大使用電壓六萬ヴォルトヲ超過スル場合ニ在リテハ電話線路ノ互長每四十杆ニ付左ノ公式ニ依リ計算シタル誘導電



流ガ三マイクロアムペアヲ超過セザル範圍内ニ  
電線路ト電話線路トノ間ノ距離及接近部分ノ互  
長ヲ保持スルコト

$$i_T = V_K D_1 \times 10^{-3} \left\{ 0.33n + 26 \sum \frac{l_i}{b_1 b_2} \right\}$$

$i_T$  ハ受話器ニ通ズル誘導電流 (マイクロアム  
ペアヲ單位トス)

$V_K$  ハ電線路ノ最大使用電壓 (千ヴォルトヲ單  
位トス)

$D_1$  ハ電線路ノ線間距離 (米ヲ單位トス)

$b_1, b_2, b_3$  ハ電線ト電話線トノ間ノ距離 (米ヲ單  
位トス)

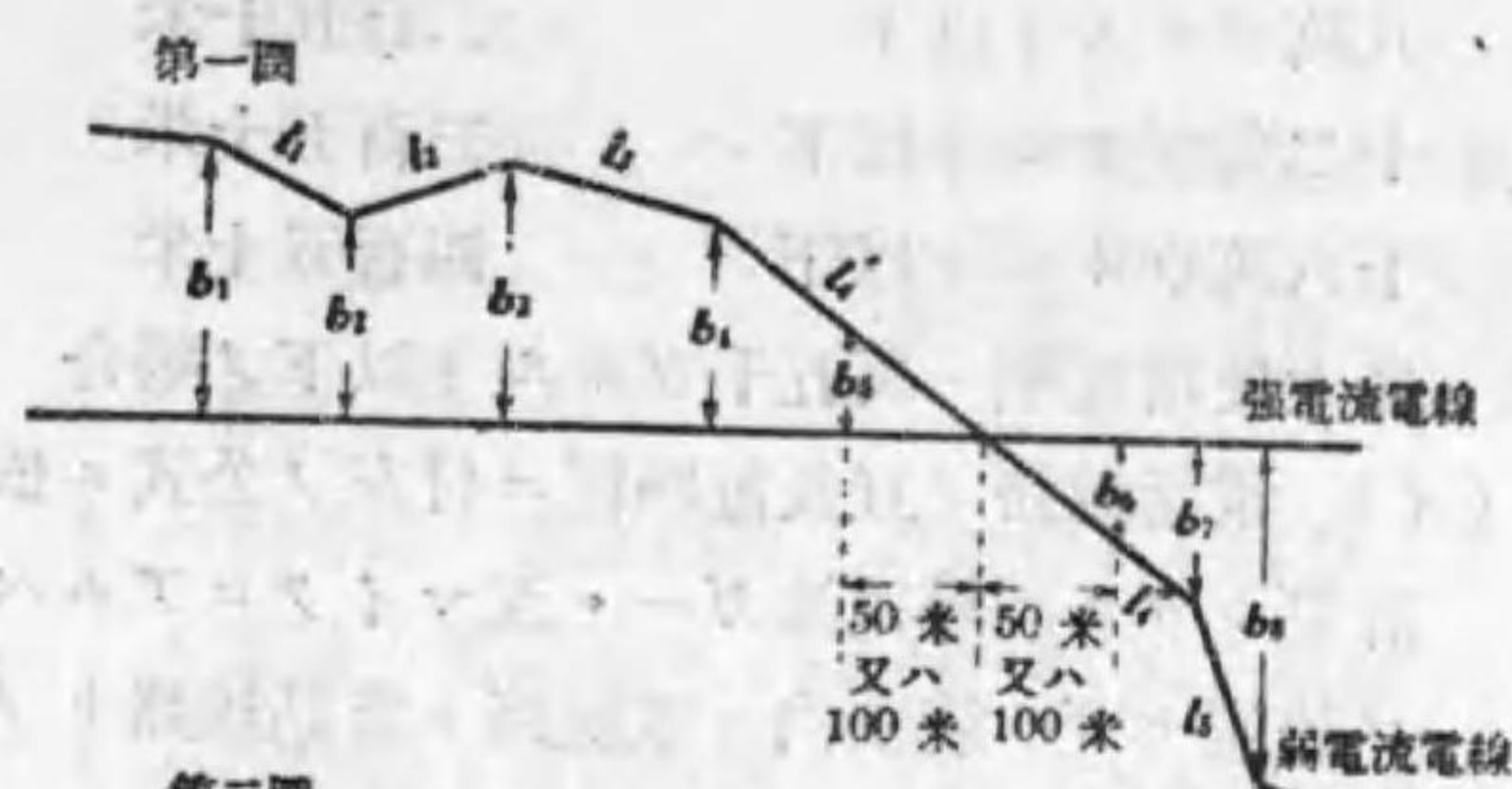
$l_1$  ハ  $b_1 b_2$  間、 $l_2$  ハ  $b_2 b_3$  間、 $l_3$  ハ  $b_3 b_4$  間ノ  
電線路ト電話  
線路トガ交叉

スルトキハ最大使用電壓六萬ヴォルト以下ノ場合ニ  
在リテハ交叉點ノ前後各五十米、最大使用電壓六萬  
ヴォルトヲ超過スル場合ニ在リテハ交叉點ノ  
前後各百米ノ部分ハ此ノ計算ニ加ヘザルコト

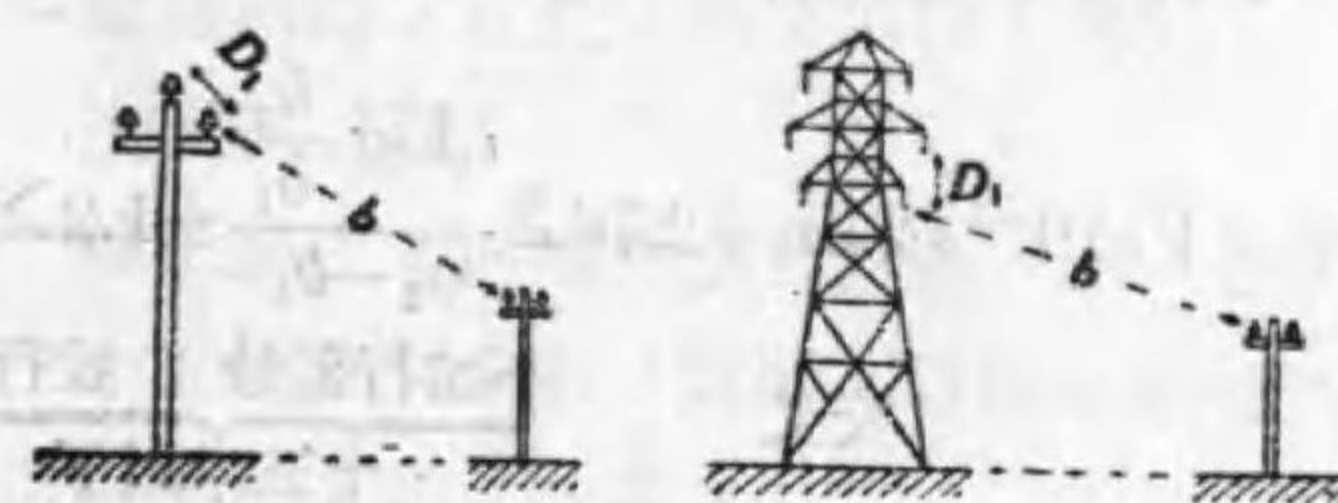
$n$  ハ交叉點ノ數

(ロ) 前記公式ノ適用方法左ノ如シ

$$\sum \frac{l_i}{b_1 b_2} = \frac{l_1}{b_1 b_2} + \frac{l_2}{b_2 b_3} + \frac{l_3}{b_3 b_4} + \frac{l_4'}{b_4 b_5} \\ + \frac{l_4''}{b_6 b_7} + \frac{l_5}{b_7 b_8} + \dots$$



第一圖



第二圖

ハ 最大使用電壓ノ區別ニ從ヒ既設架空電話線路  
ト左記ノ距離以上離隔シタル電線路ノ部分ハ本  
計算ニ於テ之ヲ省略スルコトヲ得

最大使用電壓	電線ト電話線トノ間ノ距離
二萬五千ヴォルト以下	六十米
三萬五千ヴォルト以下	百米
五萬ヴォルト以下	百五十米
六萬ヴォルト以下	百八十米
七萬ヴォルト以下	二百米

電氣工作物規程

八萬ヴォルト以下	二百五十米
十二萬ヴォルト以下	三百五十米
十六萬ヴォルト以下	四百五十米

二 最大使用電壓一萬五千ヴォルト以下ノ場合

(イ) 電話線路ノ互長毎四軒ニ付左ノ公式ニ依リ計算シタル誘導電流ガ一・五マイクロアムペアヲ超過セザル範圍内ニ電線路ト電話線路トノ間ノ距離及接近部分ノ互長ヲ保持スルコト

$$i_T = V_K 10^{-3} \left( 2.5n + 2.76 \sum_{\text{交叉}} \frac{l_1 \log \frac{b_2}{b_1}}{b_2 - b_1} + 1.2 \sum_{\substack{\text{不並行部分} \\ \text{十五米以下}}} \frac{l}{b} \right)$$

$$+ 18 \sum_{\substack{\text{不並行部分} \\ \text{十五米以上}}} \frac{l_1}{b_1 b_2} + 18 \sum_{\text{並行部分}} \frac{l}{b^2}$$

$i_T$  ハ受話器ニ通ズル誘導電流 (マイクロアムペアヲ單位トス)

$V_K$  ハ電線路ノ最大使用電壓 (千ヴォルトヲ單位トス)

$b_1, b_2, b_3$  ハ電線路ト電話線路トガ並行セザル部分ニ於ケル電線ト電話線トノ間ノ距離 (米

第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

ヲ單位トス)

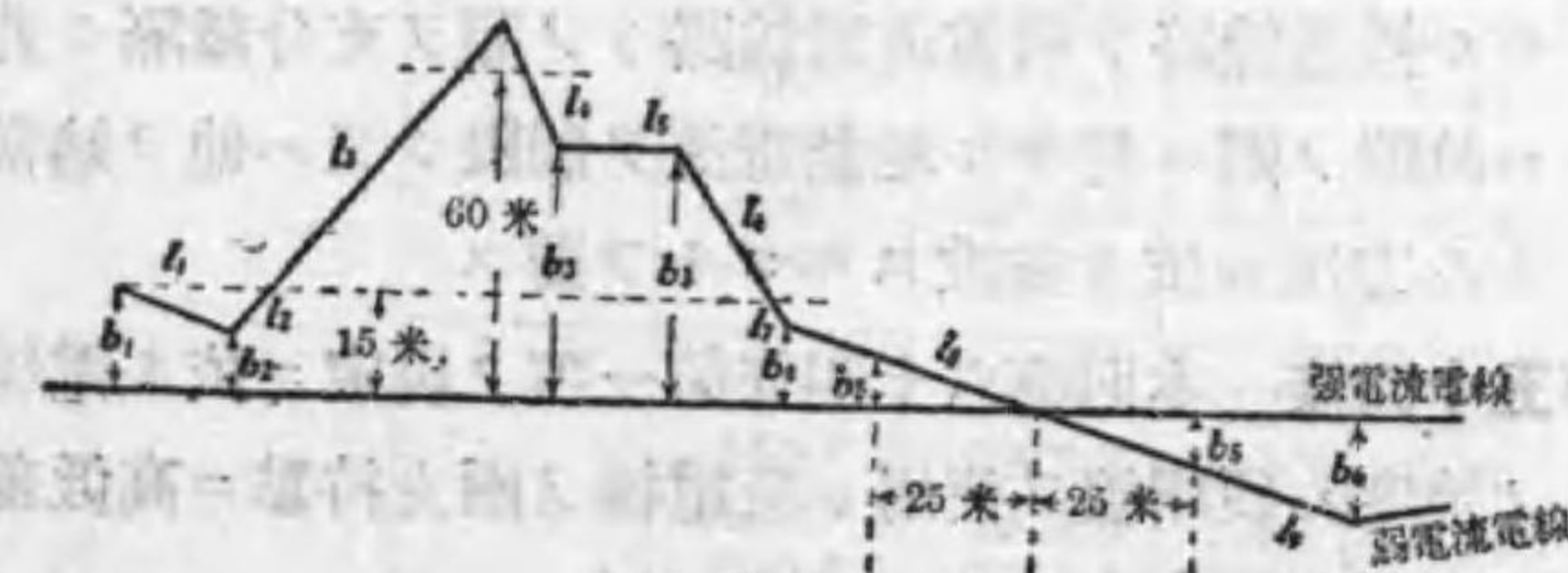
$l_1$  ハ  $b_1, b_2$  間、 $l_2$  ハ  $b_2, b_3$  間ノ電話線路ノ互長 (米ヲ單位トス) 電線路ト電話線路トガ交叉スルトキハ交叉點ノ前後各二十五米ノ部分ハ此ノ計算ニ加ヘザルコト

$b$  ハ電線路ト電話線路トガ並行スル部分ニ於ケル電線ト電話線トノ間ノ距離 (米ヲ單位トス)

$l$  ハ電線路ト電話線路トガ並行スル部分ニ於ケル電話線路ノ互長 (米ヲ單位トス)

$n$  ハ交叉點ノ數

(ロ) 前記公式ノ適用方法ハ左圖ニ示ス如ク電線ヨリ十五米及六十米ノ箇所ニ電線ニ並行スル二線ヲ引キ左ノ如ク計算ス



$$\sum \frac{l_1 \log \frac{b_2}{b_1}}{b_2 - b_1} = \frac{l_1 \log \frac{b_1}{b_2}}{b_1 - b_2} + \frac{l_2 \log \frac{15}{b_2}}{15 - b_2} + \frac{l_3 \log \frac{15}{b_4}}{15 - b_4}$$

電氣工作物規程

$$\begin{aligned}
 & + \frac{l_8 \log \frac{b_4}{b_5}}{b_4 - b_5} + \frac{l_9 \log \frac{b_6}{b_5}}{b_6 - b_5} \\
 \sum \frac{l_i}{b_1 b_2} &= \frac{l_3}{15 \times 60} + \frac{l_4}{60 \times b_3} + \frac{l_6}{b_3 \times 15} \\
 \sum \frac{l}{b^2} &= \frac{l_5}{b_3^2} \\
 n &= 1
 \end{aligned}$$

(ハ) 既設架空電話線路ト六十米以上離隔スル特別高壓架空電線路ノ部分ハ本計算ニ於テ之ヲ省略スルコトヲ得

**第五十三條** 中性點ヲ接地シタル特別高壓架空電線路ハ故障ノ際ニ於ケル地絡電流ノ電磁誘導作用ニ因リ既設架空弱電流電線路ニ對シ通信上ノ障害ヲ及ボサザル様電線路ト弱電流電線路トノ間ヲ充分離隔シ若ハ故障ノ際ニ於ケル地絡電流ヲ制限シ又ハ他ノ適當ナル方法ニ依リ施設スルコトヲ要ス

**第五十四條** 本則第六十四條第一項ノ規定ニ依ル電線ノ弛度ハ硬銅線ヲ使用シ且電線ノ兩支持點ニ高低差ナキ場合ハ左表ニ依ルモノトス

**第五十五條** 本則第六十五條ノ堅牢ニ建設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 木柱根入ハ地盤ガ特ニ堅キ場合ヲ除クノ外左記

(二) 氷雪多キ地

安全係數	電線		40	60	80	100
	稱呼	燃線構成				
2.0	5.0	7/2.0	0.14	0.53	1.41	2.63
	5.5 "	7/2.3	0.13	0.41	1.06	2.09
	6.0 "	7/2.6	0.12	0.34	0.85	1.64
	6.5 "	7/2.9	0.12	0.32	0.71	1.40
	7.0 "	7/3.2	0.11	0.29	0.63	1.20
	8.0 "	7/3.5	0.11	0.27	0.54	0.98
2.0	22	19/2.9	0.14	0.49	1.30	2.47
	30 "	19/3.2	0.13	0.36	0.89	1.76
	38 "	19/3.5	0.12	0.30	0.66	1.27
	45 "	19/4.0	0.11	0.28	0.59	1.09
	55 "	19/4.5	0.11	0.27	0.53	0.95
	70 "	19/4.5	0.11	0.26	0.50	0.87
	90 "	19/4.5	0.11	0.25	0.47	0.79
	110 "	19/4.5	0.11	0.25	0.45	0.75
	125 "	19/4.5	0.11	0.25	0.45	0.74
	150 "	19/4.5	0.10	0.24	0.43	0.71
2.5	180 "	19/4.5	0.10	0.24	0.43	0.70
	240 "	19/4.5	0.10	0.24	0.42	0.68
	300 "	19/4.5	0.10	0.23	0.42	0.67
	125 "	19/2.9	0.13	0.32	0.60	1.01
	150 "	19/3.2	0.13	0.31	0.58	0.96

$$\frac{l_1 \log \frac{b_6}{b_5}}{b_6 - b_5} + \frac{l_6}{60 \times b_3} + \frac{l_6}{b_3 \times 15}$$

各ト六十米以上離隔スル特別  
部分ハ本計算ニ於テ之ヲ省略

電シタル特別高壓架空電線路  
各電流ノ電磁誘導作用ニ因リ  
ニ對シ通信上ノ障害ヲ及ボサ  
電線路トノ間ヲ充分離隔シ若  
各電流ヲ制限シ又ハ他ノ適當  
レコトヲ要ス

四條第一項ノ規定ニ依ル電線  
且電線ノ兩支持點ニ高低差  
ニトス

五條ノ堅牢ニ建設ストハ左ノ  
謂フ  
時ニ堅キ場合ヲ除クノ外左記

硬銅線弛度表

(一) 氷雪多カラザル地方 (最低溫度、無荷重)

安全係數	電線		間 (米)													
	稱呼	燃線構成	40	60	80	100	120	140	160	180	200	220	240	260	280	300
2.0	5.0	—	0.11	0.28	0.59	1.11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5.5	—	0.11	0.27	0.55	1.00	1.65	2.51	—	—	—	—	—	—	—	—
	6.0	—	0.11	0.26	0.53	0.92	1.51	2.27	3.16	—	—	—	—	—	—	—
	6.5	—	0.11	0.26	0.51	0.88	1.41	2.11	2.95	3.97	—	—	—	—	—	—
	7.0	—	0.11	0.25	0.49	0.83	1.32	1.95	2.74	3.66	4.70	—	—	—	—	—
	8.0	—	0.11	0.25	0.47	0.78	1.21	1.77	2.46	3.27	4.22	5.27	6.44	—	—	—
2.0	22	7/2.0	0.12	0.30	0.64	1.21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30	7/2.3	0.11	0.28	0.57	1.04	1.72	2.60	—	—	—	—	—	—	—	—
	38	7/2.6	0.11	0.27	0.53	0.93	1.51	2.27	3.17	4.26	—	—	—	—	—	—
	45	7/2.9	0.11	0.26	0.50	0.85	1.37	2.04	2.85	3.82	4.92	6.15	—	—	—	—
	55	7/3.2	0.11	0.25	0.48	0.81	1.27	1.86	2.61	3.48	4.49	5.62	6.86	8.21	9.69	11.29
	70	7/3.5	0.10	0.25	0.46	0.78	1.21	1.75	2.43	3.23	4.17	5.21	6.36	7.62	9.00	10.46
	90	7/4.0	0.10	0.25	0.45	0.74	1.13	1.62	2.23	2.95	3.78	4.72	5.76	6.91	8.14	9.47
	110	7/4.5	0.10	0.24	0.45	0.72	1.08	1.53	2.08	2.74	3.50	4.36	5.31	6.36	7.50	8.72
	125	19/2.9	0.10	0.24	0.44	0.71	1.07	1.52	2.04	2.67	3.41	4.24	5.16	6.14	7.27	8.46
	150	19/3.2	0.10	0.24	0.43	0.70	1.04	1.45	1.96	2.56	3.25	4.02	4.88	5.84	6.88	7.99
2.5	180	19/3.5	0.10	0.24	0.42	0.69	1.01	1.42	1.90	2.48	3.13	3.89	4.68	5.59	6.58	7.64
	240	19/4.0	0.10	0.23	0.42	0.68	0.99	1.37	1.83	2.42	2.98	3.69	4.44	5.28	6.21	7.19
	300	19/4.5	0.10	0.23	0.42	0.67	0.97	1.35	1.78	2.31	2.89	3.57	4.28	5.08	5.95	6.90
	125	19/2.9	0.13	0.31	0.58	0.96	1.46	2.07	2.84	3.67	4.68	5.73	6.94	8.21	9.61	11.14
	150	19/3.2	0.13	0.31	0.56	0.93	1.40	1.96	2.67	3.47	4.38	5.39	6.50	7.72	9.02	10.48
2.5	180	19/3.5	0.13	0.30	0.56	0.91	1.36	1.91	2.58	3.35	4.22	5.20	6.26	7.43	8.69	10.00
	240	19/4.0	0.13	0.30	0.55	0.88	1.31	1.82	2.44	3.15	3.96	4.87	5.85	6.94	8.11	9.41
	300	19/4.5	0.13	0.30	0.53	0.86	1.28	1.76	2.36	3.05	3.80	4.65	5.59	6.62	7.74	8.97

(工・規・136-137 間)

(二) 氷雪多キ地方 (最低温度、無荷重)

安全係數	電線		間 (米)													
	稱呼	燃線構成	40	60	80	100	120	140	160	180	200	220	240	260	280	300
2.0	5.0 #	—	0.14	0.53	1.41	2.63	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5.5 #	—	0.13	0.41	1.06	2.09	3.36	4.84	—	—	—	—	—	—	—	—
	6.0 #	—	0.12	0.34	0.85	1.64	2.72	4.00	5.53	—	—	—	—	—	—	—
	6.5 #	—	0.12	0.32	0.71	1.40	2.35	3.50	4.88	6.43	—	—	—	—	—	—
	7.0 #	—	0.11	0.29	0.63	1.20	2.01	3.01	4.25	5.63	7.17	—	—	—	—	—
	8.0 #	—	0.11	0.27	0.54	0.98	1.60	2.45	3.41	4.55	5.86	7.28	8.85	—	—	—
2.0	22 #	7/2.0	0.14	0.49	1.30	2.47	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30 #	7/2.3	0.13	0.36	0.89	1.76	2.88	4.25	—	—	—	—	—	—	—	—
	38 #	7/2.6	0.12	0.30	0.66	1.27	2.09	3.19	4.44	5.88	—	—	—	—	—	—
	45 #	7/2.9	0.11	0.28	0.59	1.09	1.82	2.76	3.86	5.15	6.59	8.18	—	—	—	—
	55 #	7/3.2	0.11	0.27	0.53	0.95	1.56	2.34	3.30	4.42	5.68	7.08	8.62	10.30	12.10	14.05
	70 #	7/3.5	0.11	0.26	0.50	0.87	1.40	2.07	2.91	3.90	5.04	6.30	7.68	9.20	10.82	12.60
	90 #	7/4.0	0.11	0.25	0.47	0.79	1.23	1.80	2.50	3.33	4.29	5.37	6.56	7.86	9.26	10.78
	110 #	7/4.5	0.11	0.25	0.45	0.75	1.14	1.64	2.25	2.98	3.83	4.79	5.83	7.00	8.25	9.61
	125 #	19/2.9	0.11	0.25	0.45	0.74	1.12	1.60	2.16	2.86	3.66	4.56	5.56	6.66	7.86	9.15
	150 #	19/3.2	0.10	0.24	0.43	0.71	1.07	1.50	2.04	2.68	3.41	4.24	5.17	6.16	7.29	8.48
2.5	180 #	19/3.5	0.10	0.24	0.43	0.70	1.04	1.45	1.96	2.56	3.24	4.03	4.88	5.83	6.87	7.99
	240 #	19/4.0	0.10	0.24	0.42	0.68	1.01	1.40	1.87	2.42	3.07	3.80	4.59	5.46	6.43	7.46
	300 #	19/4.5	0.10	0.23	0.42	0.67	0.98	1.36	1.81	2.35	2.95	3.65	4.39	5.21	6.10	7.09
	125 #	19/2.9	0.13	0.32	0.60	1.01	1.55	2.21	3.06	4.00	5.02	6.18	7.47	8.87	10.40	12.07
	150 #	19/3.2	0.13	0.31	0.58	0.96	1.46	2.07	2.80	3.67	4.62	5.71	6.89	8.17	9.53	11.12
2.5	180 #	19/3.5	0.13	0.31	0.56	0.92	1.40	1.97	2.66	3.47	4.38	5.39	6.50	7.71	9.02	10.48
	240 #	19/4.0	0.13	0.30	0.55	0.89	1.34	1.86	2.51	3.24	4.09	5.02	6.05	7.12	8.39	9.74
	300 #	19/4.5	0.13	0.30	0.54	0.87	1.30	1.80	2.41	3.10	3.94	4.77	5.74	6.80	7.94	9.22

=依ルコト

木柱全長 根

十五米未満 木柱全長

十五米以上 二・五米

水田其ノ他地盤軟弱ナル箇所 =

柵ヲ施スコト

二 電線路ノ直線部分 五度以内ノ

柱ニハ左記ノ支線ヲ電線路ト直 有スル部分

ノ両側ニ施設シ又ハ之ト同等以

支柱ヲ設クルコト但シニ萬五千

線路ハ此ノ限ニ在ラズ

徑 間 支

五十米以下ナル場合 四柱間

以上ノ

五十米ヲ超過スル場合 三柱間

以上ノ

三 電線路ノ直線部分 五度以内ノ

柱ニハ左記ノ支線ヲ電線路ノ方 有スル部分

=設クルコト

徑 間 支

五十米以下ナル場合 十二柱間

以上ノ

五十米ヲ超過スル場合 九柱間

以上ノ

方 (最低温度、無荷重)

徑		間 (米)							
120	140	160	180	200	220	240	260	280	300
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3.36	4.84	—	—	—	—	—	—	—	—
2.72	4.00	5.53	—	—	—	—	—	—	—
2.35	3.50	4.88	6.43	—	—	—	—	—	—
2.01	3.01	4.25	5.63	7.17	—	—	—	—	—
1.60	2.45	3.41	4.55	5.86	7.28	8.85	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2.88	4.25	—	—	—	—	—	—	—	—
2.09	3.19	4.44	5.88	—	—	—	—	—	—
1.82	2.76	3.86	5.15	6.59	8.18	—	—	—	—
1.56	2.34	3.30	4.42	5.68	7.08	8.62	10.30	12.10	14.05
1.40	2.07	2.91	3.90	5.04	6.30	7.68	9.20	10.82	12.60
1.23	1.80	2.50	3.33	4.29	5.37	6.56	7.86	9.26	10.78
1.14	1.64	2.25	2.98	3.83	4.79	5.83	7.00	8.25	9.61
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1.12	1.60	2.16	2.86	3.66	4.56	5.56	6.66	7.86	9.15
1.07	1.50	2.04	2.68	3.41	4.24	5.17	6.16	7.29	8.48
1.04	1.45	1.96	2.56	3.24	4.03	4.88	5.83	6.87	7.99
1.01	1.40	1.87	2.42	3.07	3.80	4.59	5.46	6.43	7.46
0.98	1.36	1.81	2.35	2.95	3.65	4.39	5.21	6.10	7.09
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1.55	2.21	3.06	4.00	5.02	6.18	7.47	8.87	10.40	12.07
1.46	2.07	2.80	3.67	4.62	5.71	6.89	8.17	9.53	11.12
1.40	1.97	2.66	3.47	4.38	5.39	6.50	7.71	9.02	10.48
1.34	1.86	2.51	3.24	4.09	5.02	6.05	7.12	8.39	9.74
1.30	1.80	2.41	3.10	3.94	4.77	5.74	6.80	7.94	9.22

第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

=依ルコト

木柱全長 根 入

十五米未満 木柱全長ノ六分ノ一以上

十五米以上 二・五米以上

水田其ノ他地盤軟弱ナル箇所ニ於テハ堅牢ナル根  
柵ヲ施スコト

二 電線路ノ直線部分 五度以内ノ角度ヲ 有スル部分ヲ含ムニ於ケル木

柱ニハ左記ノ支線ヲ電線路ト直角ノ方向ニ於テ其

ノ兩側ニ施設シ又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル

支柱ヲ設クルコト但シ二萬五千ヴォルト以下ノ電

線路ハ此ノ限ニ在ラズ

徑 間 支 線

五十米以下ナル場合 四柱間以下毎ニ四耗  
以上ノ鐵線三條以上

五十米ヲ超過スル場合 三柱間以下毎ニ四耗  
以上ノ鐵線五條以上

三 電線路ノ直線部分 五度以内ノ角度ヲ 有スル部分ヲ含ムニ於ケル木

柱ニハ左記ノ支線ヲ電線路ノ方向ニ於テ其ノ兩側

ニ設クルコト

徑 間 支 線

五十米以下ナル場合 十二柱間以下毎ニ四耗  
以上ノ鐵線五條以上

五十米ヲ超過スル場合 九柱間以下毎ニ四耗  
以上ノ鐵線七條以上

第五十六條 特別高壓架空電線路ニ用フル鐵柱、鐵塔

及鐵筋「コンクリート」柱ハ左ノ五種トス

一 標準型 標準鐵柱、標準鐵塔又ハ標準鐵筋電線路ノ「コンクリート」柱以下之ニ倣フ

直線部分ニ於テ標準徑間ヲ超過セザル箇所ニ使用

スルモノ

二 角度型 電線路中角度ヲ爲シ標準徑間ヲ超過セ

ザル箇所ニ使用スルモノ

三 耐張型 電線路中ニ保安ノ爲耐張用トシテ使用

スルモノ

四 引留型 電線路ノ終端等ニ於テ完全ナル引留ヲ

爲ス箇所ニ使用スルモノ

五 特殊型 電線路中川越、谷越等徑間大ナル箇所

共ノ他特殊ノ箇所ニ使用スルモノ

第五十七條 鐵柱、鐵塔及鐵筋「コンクリート」柱ニ

依ル特別高壓架空電線路中ニハ左記ニ依リ耐張型支

持物ヲ建設スルコトヲ要ス

電線路ノ支持物	耐張型支持物ノ種別	耐張型支持物ノ間隔
一 鐵塔	第二種耐張鐵塔	三杆以下
最大使用電壓六萬ヴ オルト以上ニシテ電 線ノ切斷面積硬銅線 ニ在リテハ百二十平 方耗以上、鋼心「アル ミニウム」線ニ在リ テハ百五十平方耗以 上ノ場合ニ限ル		

二 可撓鐵塔

第三種耐張鐵塔 一・五杆以下

三 鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱

第一種耐張鐵塔、第一種耐張鐵柱又ハ第一種耐張鐵筋「コンクリート」柱

四 可撓鐵柱

第二種耐張鐵塔、第二種耐張鐵柱又ハ第二種耐張鐵筋「コンクリート」柱 七百米以下

第五十八條 本則第六十八條第一項ノ適當ニ建設スト

ハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 二萬五千ヴオルトヲ超過スル電線路ノ木柱、鐵

柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニハ四耗以上ノ鐵

線五條以上ヨリ成ル支線ヲ電線路ト直角ノ方向ニ

施設クルコト但シ木柱ノ場合ニ在リテハ之ト同等以

上ノ強サヲ有スル支柱ヲ施設シ、鐵柱又ハ鐵筋

「コンクリート」柱ノ場合ニ在リテハ第一種耐張型

ノモノヲ用ヒテ本號ノ支線ヲ省略スルコトヲ得

二 腕木ニハ堅牢ナル金屬製ノモノヲ使用シ且之ヲ

第三種地線工事 = 依り接地スルコト

三 「ピン」碍子ヲ直接木柱ニ取付クル場合ニ於テハ「ピン」ヲ第三種地線工事ニ依り接地スルコト

第五十九條 本則第六十九條第一項ノ適當ニ施設スト

ハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 建造物ト接近シ又ハ其ノ上部ヲ架渉スル場合

(イ) 木柱、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニハ四耗以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ル支線ヲ支持物ト建造物トノ關係位置ニ從ヒ電線路ノ方向又ハ之ト直角ノ方向ニ設クルコト但シ木柱ノ場合ニ在リテハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル支柱ヲ施設シ鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ノ場合ニ在リテハ第一種耐張型ノモノヲ用ヒテ本號ノ支線ヲ省略スルコトヲ得

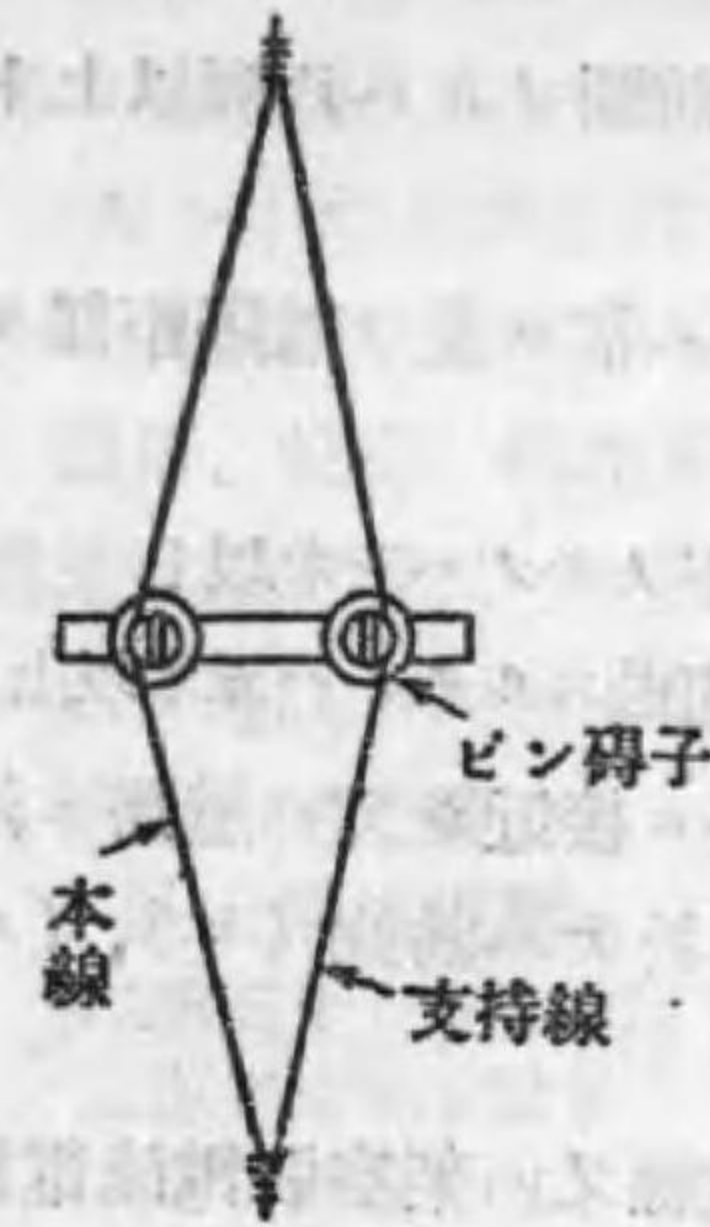
(ロ) 腕木ニハ堅牢ナル金屬製ノモノヲ使用シ且之ヲ第三種地線工事ニ依り接地スルコト

(ハ) 「ピン」碍子ヲ直接木柱ニ取付クル場合ニ於テハ「ピン」ヲ第三種地線工事ニ依り接地スルコト

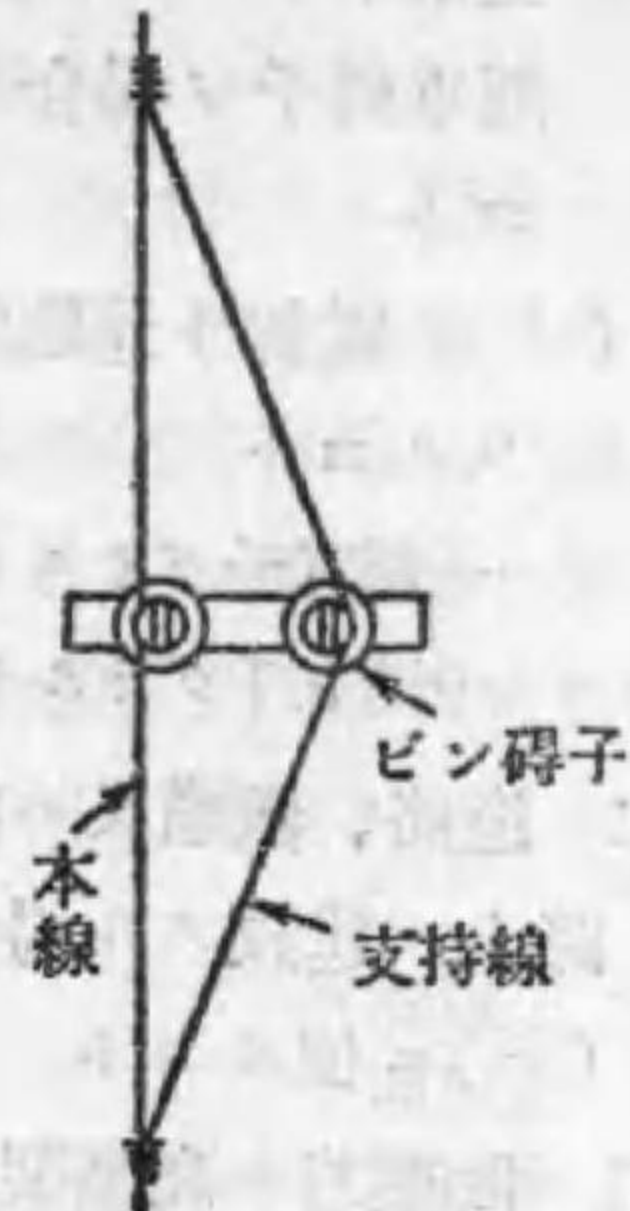
(ニ) 左圖ノ例ニ倣ヒ二箇以上又ハ二聯以上ノ碍子ヲ以テ電線ヲ支持スルコト

支持線ニハ本線ト同一ノ強サ及太サヲ有スル電

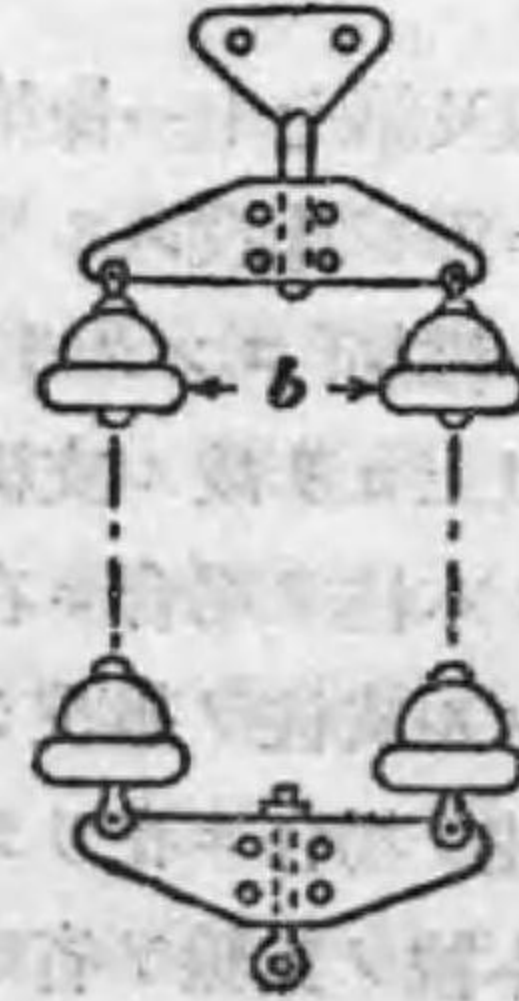
第一圖



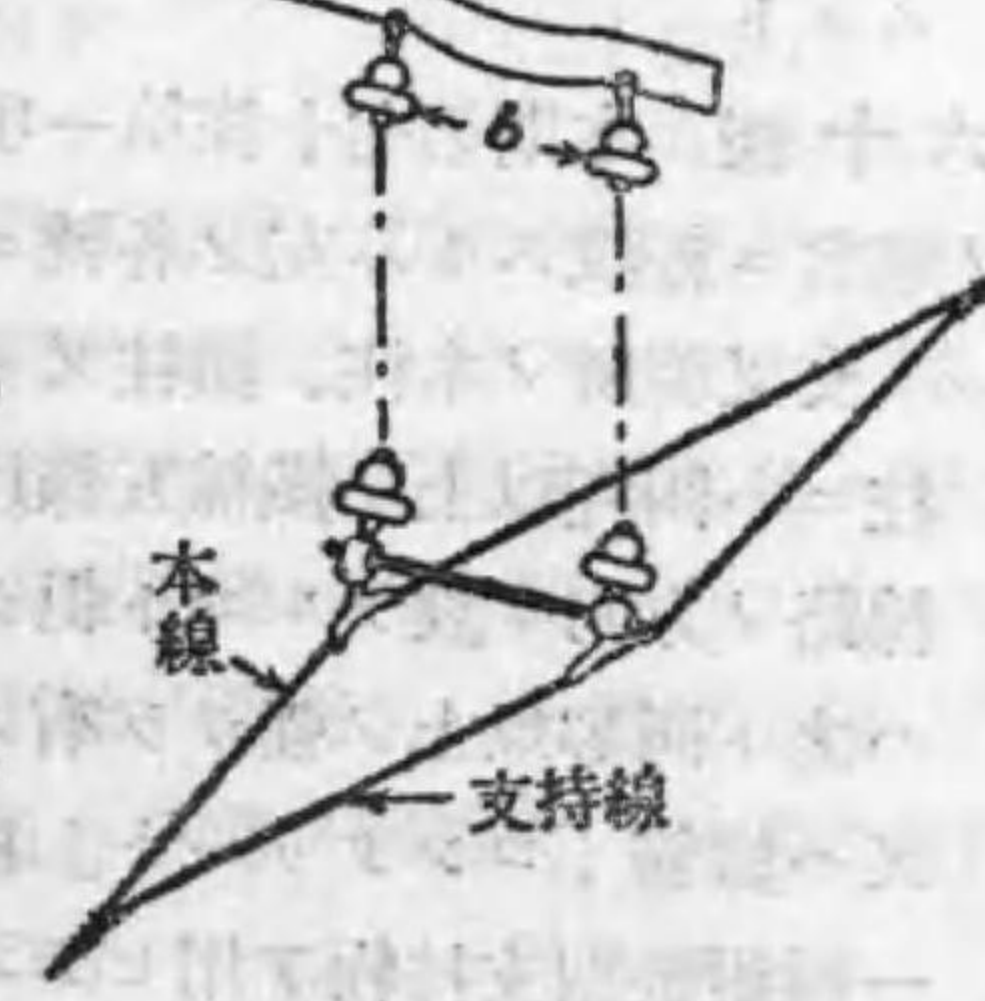
第二圖



第三圖



第四圖





電氣工作物規程

線ヲ使用シ且本線トノ接続ハ堅牢ニシテ電氣的完全ナラシムルコト

懸垂碍子ノ場合ニハ前圖ノbハ八種以上ト爲スコト

(ホ) 電線ト建造物トハ常ニ左ノ離隔距離ヲ保持スルコト

一萬五千ヴォルト以下ノモノハ三米以上

一萬五千ヴォルトヲ超過スルモノハ五米以上

二 道路、鐵道又ハ軌道ニ接近シ又ハ道路ニ沿ヒ道路上ニ建設スル場合ニ於テハ前號(ロ)、(ハ)及(ニ)ニ依ルコト

三 低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線ト接近スル場合ニ於テハ最小接近距離ヲ二米以上ト爲スコト

第六十條 本則第七十條第一項及第七十一條第一項ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 交叉箇所ノ木柱、鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ニハ四耗以上ノ鐵線五條以上ヨリ成ル支線ヲ電線路ノ方向ニ設クルコト但シ木柱ノ場合ニ在リテハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル支柱ヲ施設シ鐵柱又ハ鐵筋「コンクリート」柱ノ場合ニ在リテハ第一種耐張型支持物ヲ用ヒテ本號ノ支線ヲ省略スル

第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

コトヲ得

二 腕木ニハ堅牢ナル金屬製ノモノヲ使用シ且之ヲ

第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

三 「ピン」碍子ヲ直接木柱ニ取付クル場合ニ於テ

ハ「ピン」ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

四 鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱

電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ前條第一號(ニ)

ニ依リ施設スルコト但シ懸垂碍子ヲ使用スル場合

ニ於テハ同附圖ノbハ左ノ値ヲ保持スルコト

最大使用電壓	b
二萬五千ヴォルト以下	八種以上
五萬ヴォルト以下	十種以上
六萬ヴォルト以下	十三種以上
七萬ヴォルト以下	十五種以上
八萬ヴォルト以下	十八種以上
十二萬ヴォルト以下	二十三種以上
十六萬ヴォルト以下	二十五種以上

五 工事上已ムヲ得ズ前號ノ方法ニ依ラザル場合ハ

左記ニ依ル保護網ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

(イ) 保護網ト低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線トノ垂直距離ハ六十種以上ト爲スコト

(ロ) 保護網ガ下部ノ電線又ハ弱電流電線ノ外部ニ張出スル幅員ハ下部ノ電線又ハ弱電流電線トノ垂直距離ノ二分ノ一以上ト爲スコト

- (ハ) 保護網ガ特別高壓電線ノ外部ニ張出スル幅員ハ各特別高壓電線ト保護網トノ垂直距離ノ二分ノ一以上ト爲スコト但シ十米ヲ超過スルコトヲ要セス
- (ニ) 保護網ヲ構成スル金屬線相互ノ間隔ハ縦横各一・五米以下ト爲スコト
- (ホ) 特別高壓電線ト下部ノ電線又ハ弱電流電線トガ四十五度ヲ超ユル角度ヲ以テ交叉スル場合ニ限リ特別高壓電線ト同一方向ノ金屬線ハ兩外線及特別高壓電線ノ兩外線ノ直下部ニ施設スルモノヲ除クノ外之ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ特別高壓電線ノ直下部ニ施設スベキ金屬線ト保護網ノ兩外線トノ間隔ガ一・五米以下ナルトキハ直下部ニ施設スベキ金屬線ヲモ省略スルコトヲ得
- (ホ) 保護網ヲ構成スル金屬線ハ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スルモノニシテ左ノ制限ニ依ルコト

最大使用電壓	保護網ノ部分	金屬線	
八萬ヴォルト 未	滿	外線	五耗以上ノ撚線
		電線ノ直下部ニ施設スベキモノ	五耗以上ノ撚線
		其ノ他	四耗以上ノ線

八萬ヴォルト 以上	外線	八耗以上ノ撚線
	電線ノ直下部ニ施設スベキモノ	五耗以上ノ撚線
	其ノ他	五耗以上ノ撚線

(ハ) 保護網ハ第一種地線工事ニ依リ接地スルコト

六 低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線「ケル」線ト交叉スル箇所ニ於テハ特別高壓電線ノ兩外線ノ直下部ニ於テ電線相互間ニ第三種地線工事ニ依リ接地シタル五耗以上ノ鐵撚線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル撚線ヲ架設シ下部ノ電線又ハ弱電流電線ト六十種以上ノ距離ヲ保持シテ施設スルコト但シ左ノ場合ニ於テハ此ノ金屬線ヲ省略スルコトヲ得

(イ) 下部ノ電線又ハ弱電流電線ガ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノナルトキ

(ロ) 特別高壓電線ト下部ノ電線又ハ弱電流電線トノ垂直距離十米以上ナルトキ

(ハ) 第五號ノ保護網ヲ施設シタルトキ

前項第五號ノ保護網及第六號ノ金屬線ハ之ヲ運轉頻繁ナル蒸汽鐵道線路上ニ架設スル場合ニ於テハ硬銅

## 電氣工作物規程

線其ノ他容易ニ腐蝕シ難キ金屬線ヲ以テ構成スルコトヲ要ス

**第六十一條** 本則第七十三條第一項但書ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 特別高壓電線ニハ撚線ヲ使用シ之ヲ低壓又ハ高壓電線ノ上部ト爲スコト

二 添架シタル低壓又ハ高壓電線ニハ左ノ電線ヲ使用スルコト

(イ) 徑間五十米以下ナルトキハ四耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノ

(ロ) 徑間五十米ヲ超過スルトキハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノ

三 特別高壓電線ト添架電線トノ間隔ハ一・二米以上ト爲スコト

四 添架電線ニハ其ノ電路ノ中性點又ハ一電線ニ本則第二十七條第一項若ハ第二項ニ準ズル保安裝置又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノヲ設備スルコト但シ該電線ガ單線式電氣鐵道ノ場合ノ如ク大地ヨリ絶緣セラレザルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

## 第四節 保安通信設備

## 第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

**第六十二條** 本則第九十二條ノ特殊ノ場合トハ電話線ガ「ケーブル」線ナル場合又ハ第四種絶緣電線ト同等以上ノ效力ヲ有スル電話線ヲ二・六耗以上ノ鐵線ヲ以テ吊架スルガ如キ場合ヲ謂フ

**第六十三條** 本則第九十五條第二號ノ適當ニ施設ストハ電話線ト他ノ特別高壓架空電線トノ間ニ他ノ金屬線介在セザル場合ニ於テ電話線ニ五耗ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルヲ謂フ

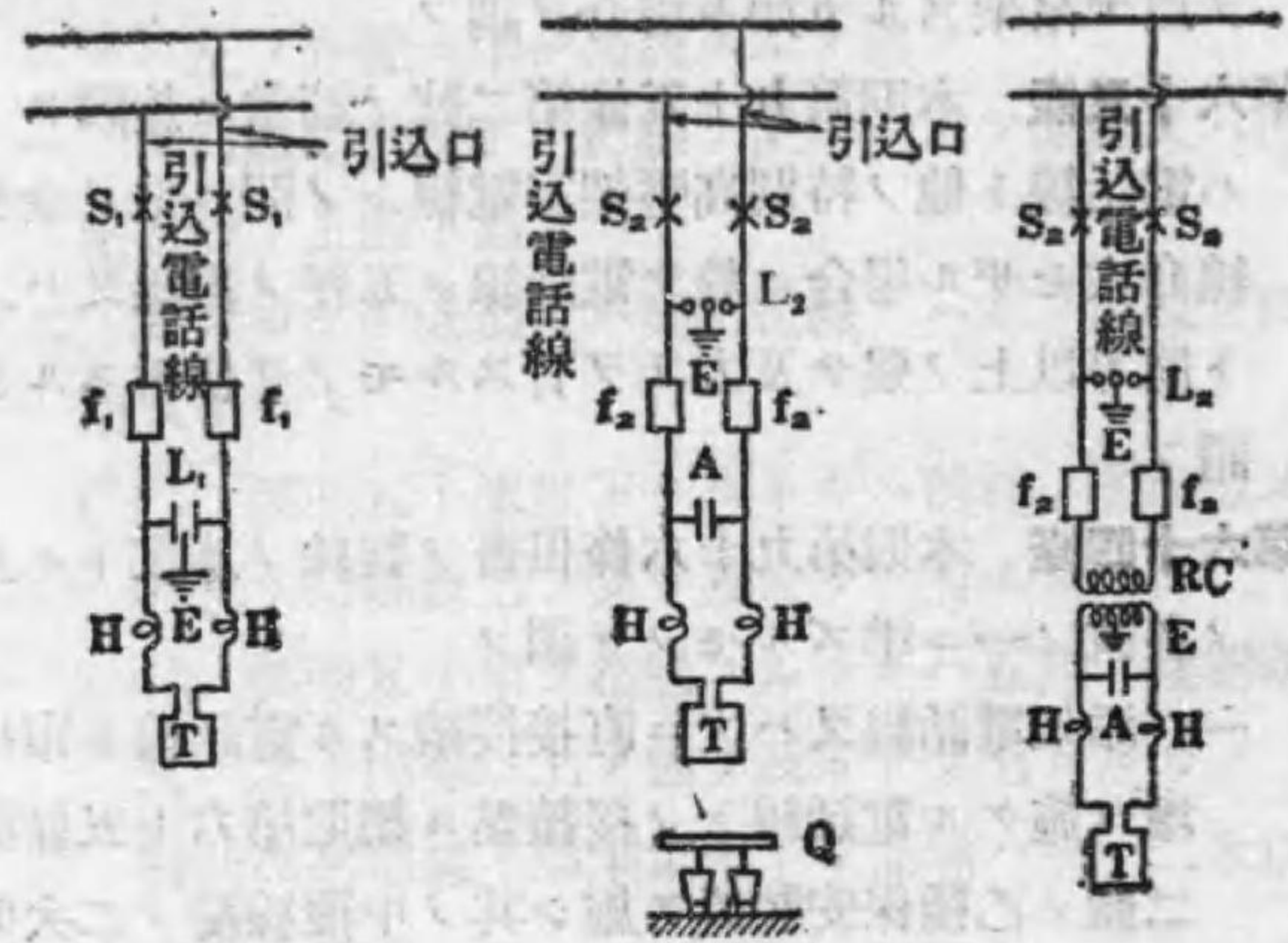
**第六十四條** 本則第九十六條但書ノ特殊ノ施設トハ左ノ各號ノ一ニ準ズルモノヲ謂フ

一 添架電話線又ハ之ニ直接接續スル電話線ト市街地ニ施ケル電話線トノ接續點ニ細則第六十五條第二號ノ乙種保安裝置ヲ施シ其ノ中繼線輪ノ二次側ニ電話線ヲ接續スルモノ

二 市街地ニ於ケル電話線ニ「ケーブル」線又ハ第三種絶緣電線ヲ使用スルモノ

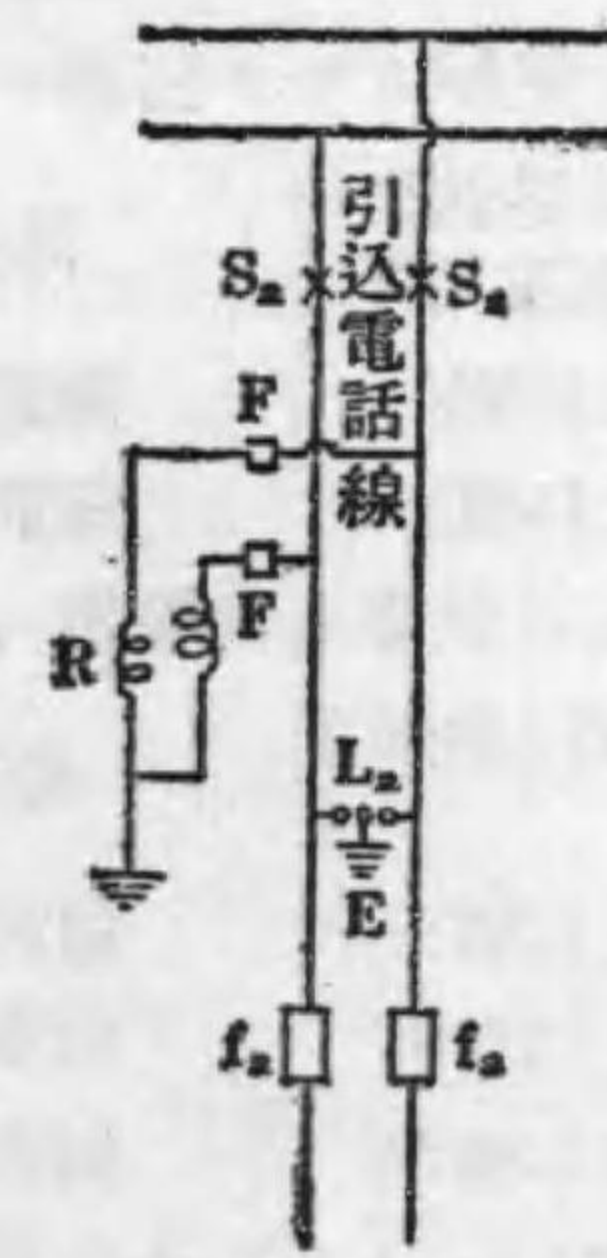
**第六十五條** 本則第九十八條第一項ノ適當ナル保安裝置トハ左ニ掲グル如キモノヲ謂フ

- 一 架空電線ガ低  
 壓又ハ高壓電線ナ  
 ル場合
- 二 架空電線ガ特別  
 高壓電線ナル場合
- 甲種保安装置 乙種保安装置



- T ハ電話機  
 H ハ二百五十ミリアムペア以下ニテ動作スル熱  
 線輪  
 L<sub>1</sub> ハ交流三百ゾルトニテ動作スル避雷器  
 E ハ接地  
 f<sub>1</sub> ハ五アムペア可熔遮断器  
 S<sub>1</sub> ハ引込用開閉器

- Q ハ交流三千ゾルトニ耐フル電話機使用者ノ  
 絶縁用踏臺  
 A ハ交流三百ゾルト以下ニテ動作スル放電間  
 隙  
 f<sub>2</sub> ハ一アムペア包装可熔遮断器  
 L<sub>2</sub> ハ交流千ゾルトニテ放電スル避雷器  
 S<sub>2</sub> ハ引込用高壓開閉器  
 RC ハ中繼線輪 一次二次線輪間ノ絶縁耐力ハ交流三  
 千ゾルトノ電壓ヲ以テ試験シ十分  
 間以上之ニ耐フ  
 ルモノナルコト
- 三 架空電線ガ三萬五千ゾルト以上ノ特別高壓電



線ナル場合ニ於テハ前號甲種又ハ乙種保安裝置ニ成ルベク排流線輪ヲモ併用スルコト  
多クノ發電所及變電所間ヲ  
 連絡スル一電話線路ニ對シテハ適當ノ位置ニ在ル二箇ノ電話機設置箇所ノミニ取付クルコト  
 F ハ包裝可熔遮斷器

R ハ排流線輪 各端子ト中點トノ間ニ交流二千ヴォルトノ電壓ヲ加ヘ一分間以上ニ耐フルモノナルコト

第六十六條 本則第九十八條第二項ノ適當ナル保安裝置トハ交流三千ヴォルトニ耐フル電話機使用者ノ絶縁用踏臺ノ如キモノヲ謂フ



第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事

第一節 屋外工事

第六十七條 本則第二百條第一項ノ適當ニ施設ストノ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 碍子引工事ニ依ルトキハ工事上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外造營材ノ側面又ハ下面ニ取付ケ電線支持點間ノ距離ヲ一米以下トシ且電線ノ種類及取付場所ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ電線相互間及電線ト造營材トヲ離隔スルコト

(イ) 雨露ニ曝露セザル場所ニ施設スル場合

電線ノ種類	電線相互間ノ距離	電線ト造營材トノ距離
第二種絶縁電線	六種以上	三種以上
第三種絶縁電線	三種以上	六種以上

(ロ) 雨露ニ曝露スル場所ニ施設スル場合

電線ノ種類	電線相互間ノ距離	電線ト造營材トノ距離
第二種絶縁電線	十五種以上	十種以上
第三種絶縁電線	十種以上	六種以上
第四種絶縁電線	六種以上	三種以上

使用電壓二百五十ヴォルト以下ノ電線ニ二耗ノ硬

### 電氣工作物規程

銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノ  
ヲ使用シ電線ト造營材トガ接觸ノ虞ナキ様充分離  
隔スル場合ニ限リ第一種絶縁電線ヲ使用シ且支持  
點間ノ距離ヲ一米以上ト爲スコトヲ得

二 金屬管工事ニ依ルトキハ本則第百二十條及細則  
第七十九條ニ準ジ施設シ且雨露ニ曝露スル場所ニ  
施設スル場合ハ水分ノ浸入セザル構造ト爲スコ  
ト

三 電纜工事ニ依ルトキハ電纜ノ被覆ニ用フル金屬  
體ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

四 開閉器、自動遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ屋  
内ニ裝置シ又ハ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

五 家屋ノ外面ニ於ケル電氣使用ヲ目的トシテ施設  
スル電路ハ工事上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外一  
キロワット以下毎ニ分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ  
於テ各分岐回路毎ニ各極ニ開閉器及自動遮斷器ヲ  
裝置スルコト

六 前號ノ開閉器及自動遮斷器ハ専用ノモノトシ屋  
内電路用ノモノト兼用セザルコト

七 電球承口其ノ他ノ承口ニハ陶器又ハ絶縁性耐火  
質物ヲ以テ製作シタル防水型ノモノヲ使用スルコ  
ト

### 第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事

第六十八條 本則第百三條ノ適當ニ施設ストハ左ノ各  
號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 展開シタル場所ニ電線ヲ施設スルトキハ工事上  
已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外造營材ノ側面又ハ下  
面ニ取付ケ電線支持點間ノ距離ヲ一米以下、電線  
相互間ノ距離ヲ六極以上、電線ト造營材トノ距離  
ヲ三極以上ト爲スコト

二 金屬管工事ニ依ルトキハ本則第百二十條及細則  
第七十九條ニ準ジ施設シ且雨露ニ曝露スル場所ニ  
施設スル場合ニハ水分ノ浸入セザル構造ト爲スコ  
ト

三 管極間ノ短小ナル接續線ニ第二項ニ適合セザル  
電線ヲ使用スルトキハ造營材ト接觸セザル様充分  
離隔シ且堅固ニ取付クルコト

四 電線又ハ管極ガ造營材又ハ函壁ヲ貫通スル部分  
ハ金屬管工事ニ依ル場合ヲ除クノ外之ヲ碍管内ニ  
藏ムルコト

五 管燈ハ人ノ容易ニ觸レザル様且造營材ト直接接  
觸セザル様施設スルコト

六 電線及管燈ハ他ノ電線、弱電流電線、水管又ハ  
瓦斯管ト十五極以上離隔スル場合ヲ除クノ外其ノ  
相互間ニ堅固ニ取付ケタル絶縁性ノ隔壁ヲ設クル

- コト
- 七 管燈用變壓器ノ一次側回路ニハ各極ニ専用ノ開閉器又ハ挿込型接續器ヲ裝置スルコト
- 八 管燈用變壓器ノ外函、變壓器ヲ藏ムル金屬函、「キャビネット」ノ金屬部分及金屬管ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト
- 九 「キャビネット」ハ堅牢ナル不可燃質物ヲ以テ製作シ又ハ不可燃質物ヲ内面全部ニ張りタルモノトシ且防水構造ノモノト爲スコト
- 本則第百三條ノ特殊ノ絶縁耐力ヲ有スル電線トハ一卷ノ儘十二時間浸水シタル後當該管燈専用變壓器二次無負荷電壓ノ一・五倍ノ交流電壓ヲ以テ絶縁耐力ヲ試験シ十分間以上之ニ耐フルモノヲ謂フ
- 第六十九條** 本則第百四條第一項ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
- 一 配電線路ヨリ分岐スル點ニ近ク専用ノ開閉器ヲ裝置スルコト但シ此ノ場合ニ於テハ單極ニ之ヲ裝置スルコトヲ得
  - 二 開閉器其ノ他之ニ類スル器具ニハ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト
  - 三 電線及電燈ヲ吊架スル金屬線ニハ四耗以上ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ

使用スルコト

- 四 電線ヲ吊架スル金屬線ニハ電線ヨリ六十種以内ノ箇所ニ碍子ヲ挿入スルコト但シ電線ノ支持ニ碍子ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二節 屋内工事

**第七十條** 本則第百六條第一項ノ特殊ノ工事方法トハ左ノ各號ニ準ズルモノヲ謂フ

- 一 直流五百ヴォルト交流二百五十ヴォルトヲ超過スル低壓屋内配線ヲ土間又ハ濕氣アル床上ヨリ人ノ觸ルル處アル場所ニ施設スル場合ハ電纜工事又ハ金屬管工事(細第七十九條)ニ依リ之ヲ施設スルコト
  - 二 高壓屋内配線ハ左記ニ依リ施設スルコト
    - (イ) 電纜工事
    - (ロ) 六百ヴォルト以下ノ交流屋内配線ハ金屬管工事(細第七十九條)
    - (ハ) 人ノ觸ルル處ナキ乾燥シタル展開場所ニ於テハ碍子引工事
- 前項第二號(ハ)ノ碍子引工事ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
- 一 電線ニハ二・六耗以上ノ第四種絶縁軟銅線又ハ

電氣工作物規程

之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト

二 電線支持點間ノ距離ヲ五米以下ト爲スコト但シ造營材ノ面ニ沿ヒテ施設スルトキハ此ノ距離ヲ一米以下ニ保持スルコト

三 電線相互間ノ距離及電線ト造營材トノ距離ハ左記ニ依ルコト但シ六百ヴォルトヲ超過スル電線ニ在リテハ其ノ上部ニアル造營材トハ常ニ十五纏以上離隔スルコト

最大使用電壓	支持點間ノ距離	電線相互間ノ距離	電線ト造營材トノ距離
六百ヴォルト以下ノモノ	一米以下	十纏以上	三纏以上
	一米超過	二十纏以上	六纏以上
六百ヴォルトヲ超過スルモノ	一米以下	十五纏以上	十纏以上
	一米超過	二十纏以上	十纏以上

四 電線ノ造營材ヲ貫通スル部分ハ之ヲ充分ナル長さノ高壓用碍管内ニ藏ムルコト

五 高壓電線ハ低壓電線ト三十纏以上ノ離隔距離ヲ保持シ且兩回路ハ容易ニ識別シ得ル様施設スルコト但シ電線ノ支持點間ノ距離ヲ一米以下ニ保持スルトキハ此ノ距離ヲ十五纏迄ニ短縮スルコトヲ得

六 電線ハ弱電流電線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬ハ體ト三十纏以上ノ距離ヲ保持シテ施設スルコト

第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事

七 電線ト大地トノ間ノ絶縁耐力ハ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ヲ以テ試験シ十分間以上之ニ耐フルモノタルコト

本則第百十條第二項、第百十一條、第百二十條、第百二十五條第二號、第百二十六條第三號、第百二十七條第一項、第百二十八條第三號及細則第八十八條第二號及第五號ノ規定ハ之ヲ第一項第二號ノ高壓屋内配線工事ニ準用ス

第一項第二號ニ依ル工事ノ絶縁耐力ニ付テハ金屬管工事ニ依リ施設スル場合ハ第二項第七號ノ規定ヲ、電纜工事ニ依リ施設スル場合ハ本則第八十七條第一項第二號ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 本則第百六條第二項ノ特殊ノ場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

一 電動機配電盤ノ表示燈又ハ電車線電壓ノ表示燈

二 電氣鐵道ノ車庫、驛舎、保線係員詰所其ノ他之

ニ類スル場所ニ施設スル低壓ノ直列式電燈

前項第二號ノ場合ニ於テハ左記各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 碍子引工事ニ依ルトキハ電線ニ一・六耗以上ノ

第四種絶縁軟銅線ヲ使用シ造營材ト三纏以上離隔スルコト



- 二 電球承口ハ無鍵ノモノヲ使用スルコト
- 三 電線及電燈器具ハ人ノ容易ニ觸レザル箇所ニ施設スルコト

第七十二條 本則第八條ノ技術上已ムヲ得ザルモノ

トハ左ニ掲グル如キモノヲ謂フ

- 一 電氣爐用電線
- 二 移動起重機用接觸電線及之ニ類スル接觸電線
- 三 電線ノ被覆絶縁物ヲ腐蝕スル場所ニ使用スル電線

第七十三條 本則第九條ノ特殊ノ場合トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

- 一 電燈吊管、電燈腕管其ノ他之ニ類スル短小ナル金屬管内ニ電線ヲ藏ムル場合
- 二 金屬管工事、金屬線樋工事又ハ電纜工事ニ依ル百五十ヴォルト以下ノ電氣信號専用電線ニシテ一・二耗以上ノ軟銅線ヲ使用スル場合

第七十四條 屋内ニ施設スル開閉器、自動遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ其ノ充電部分ガ露出セザル様之ヲ裝置スルコトヲ要ス但シ取扱者ノ外出入セザル場所ニ裝置スルモノハ此ノ限ニ在ラズ  
屋内ニ施設スル可熔片ハ耐火質物ノ函又ハ管内ニ裝置スルコトヲ要ス

第七十五條 本則第一百三條第三項ノ特殊ノ場合トハ中性點ヲ接地シタル多線式屋内配線ノ配電盤内ニ於テ電源側各極ニ開閉器ヲ裝置シ且之ヨリ二線式電路ノミヲ分岐スル場合ニ於テ三キロワット以下ノ分岐回路ニ限り其ノ中性線ニ接続スル電線ノ開閉器及自動遮斷器ヲ省略スル如キ場合ヲ謂フ

第七十六條 本則第二百一條及第一百五條第一項ノ點檢シ得ル掩蔽場所トハ點檢口ヲ有スル小屋裏、戸棚、押入ノ如ク容易ニ電氣工作物ニ接近シ又ハ全部ノ工作物ヲ檢視シ得ル掩蔽場所ヲ謂ヒ、本則第一百五條第一項及第一百八條ノ點檢シ能ハザル掩蔽場所トハ天井懐、壁内、「コンクリート」床内ノ如ク破壊的動作ヲ爲スニ非ザレバ電氣工作物ニ接近シ又ハ全部ノ工作物ヲ檢視シ能ハザル場所ヲ謂フ

第七十七條 屋内ニ使用スル導管ハ絶縁性耐火質物ヨリ成リ且其ノ端口ハ電線ノ被覆ヲ損傷セザル圓滑ノモノナルコトヲ要ス

第七十八條 木製線樋工事ニ用フル線樋ハ左ノ各號ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

- 一 乾燥シタル堅緻ノ木材ヲ以テ製作シタルモノナルコト
- 二 線樋ノ内外面ニ耐水質ノ塗料ヲ施シタルモノナ

- ルコト
- 三 電線ヲ押壓セザル様溝ノ大サヲ充分ナラシムルコト
- 第七十九條** 金屬管工事ニ用フル金屬管ハ左ノ各號ニ適合スルモノナルコトヲ要ス
- 一 管ハ鐵、眞鍮又ハ銅ノ如キ金屬ヲ以テ堅牢ニ製作シタルモノナルコト
  - 二 管ハ引拔、鍛接又ハ熔接シテ製作シタルモノナルコト但シ厚サ一耗未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラズ
  - 三 管ノ厚サハ左ノ制限ニ依ルコト
    - (イ) 「コンクリート」ニ埋込ムモノハ二耗以上
    - (ロ) (イ)以外ノモノハ一耗以上但シ接手ナキ短小ナルモノ及乾燥シタル展開場所ニ施設スルモノニ限リ〇・五耗以上ノモノナルコトヲ得
  - 四 管ノ内面、屈曲箇所及其ノ端口ハ平滑ニシテ敷線又ハ電線ノ引換ニ當リ其ノ被覆ヲ損傷セザルモノナルコト
  - 五 鐵製ノ管ハ酸化作用ヲ防止スル爲亞鉛鍍ヲ施シ又ハ「エナメル」等ニテ被覆スルコト
  - 六 管ノ接續ハ堅牢ナラシメ且厚サ一耗以上ノモノニ在リテハ「ネジ」接續其ノ他之ト同等以上ノ效

- カヲ有スル方法ニ依ルコト
- 七 濕氣アル場所若ハ壁内ニ施設シ又ハ「コンクリート」ニ埋込ム金屬管工事ニハ其ノ接手其ノ他ノ附屬品ニ適當ナル防濕装置ヲ施スコト
- 第八十條** 金屬線樋工事ニ用フル線樋ハ前條第一號、第四號及第五號ニ適合シ且其ノ厚サハ〇・五耗以上ノモノナルコトヲ要ス
- 第八十一條** 本則第百二十四條ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
- 一 電球線ト屋内配線トノ接續點ニ於テハ電球及附屬器具ノ重量ヲ屋内配線ニ支持セシメザルコト
  - 二 可撓紐線ト屋内配線トノ接續ハ鑼着其ノ他ノ方法ニ依リ完全ニ之ヲ爲ス場合ヲ除クノ外紐線吊、挿込型接續器其ノ他之ニ類スルモノヲ以テ之ヲ爲スコト
  - 三 可撓紐線相互ノ接續ハ適當ナル構造ヲ有スル紐線接續器ニ依リテ之ヲ爲スコト
  - 四 可撓紐線ト家庭用電氣器具トノ接續ハ人ノ容易ニ觸レザル様施設シタル端子金物ニ可撓紐線ヲ完全ニ捻止スル場合ヲ除クノ外挿込型接續器其ノ他之ニ類スルモノニ依リテ之ヲ爲スコト
- 第八十二條** 飾窓又ハ飾函内ニ可撓紐線ヲ取付クル場

合ハ左記ニ準ジ施設スルコトヲ要ス

- 一 第二種可撓紐線ヲ使用スルコト
- 二 可撓紐線ニハ分岐點ヲ設ケザルコト但シ適當ナル接續器具ヲ用フルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 三 可撓紐線ハ留革ノ類ヲ以テ適當ニ取付タルコト

**第八十三條** 本則第二百二十三條及第二百五條ノ濕氣アル場所トハ風呂場、床下、酒醬油等ノ醸造場若ハ貯藏場、料理店ノ庖廚、魚屋、八百屋等ノ水ヲ取扱フ土間若ハ洗場、又ハ蕎麥屋、饅頭屋等ノ釜場ノ如ク水蒸氣ヲ發散スル場所ノ如キヲ謂フ

**第八十四條** 本則第二百二十六條ノ塵埃アル場所トハ精米、紡績、撚絲、製紙、製粉、碎礦等ノ工場又ハ織絲、綿絲、綿「ネル」、帆布、「モスリン」、「セメント」、骸炭等ノ製造場ノ如キヲ謂フ

**第八十五條** 本則第二百二十六條ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

- 一 自動遮斷器ヲ藏ムル函ハ其ノ内部ニ塵埃ノ侵入セザル様装置シ且其ノ蓋ハ堅牢ナル絶緣性不可燃質物ヲ以テ製作シ又ハ不可燃質物ヲ函ノ内面全部ニ張りタルモノヲ使用スルコト
- 二 紐線吊ハ堅牢ナル絶緣性不可燃物ヲ以テ製作シタルモノニシテ震動ニ因リ其ノ蓋ノ弛緩セザル構

造ノモノナルコト

- 三 紐線吊内ニ可熔片ヲ装置セザルコト

**第八十六條** 本則第二百二十七條ノ腐蝕性瓦斯若ハ溶液ノ發散スル場所トハ酸類、「アルカリ」、鹽素酸「カリ」、晒粉、染料若ハ人造肥料ノ製造工場、銅、亞鉛等ノ精鍊所、電氣分銅所、電鍍工場、蓄電池室ノ如キヲ謂フ

**第八十七條** 本則第二百二十八條ノ爆發又ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生、製造又ハ貯藏スル場所トハ火藥類、「セルロイド」、燐寸、石油、「アルコール」、「エーテル」、燒酎類等ヲ製造若ハ貯藏スル場所、引火點攝氏四十度以下ノ物質ヲ發生、製造若ハ貯藏スル場所又ハ爆發性ノ瓦斯若ハ微粉ノ發生シ又ハ充滿スル虞アル場所ノ如キヲ謂フ

**第八十八條** 本則第二百二十八條ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

- 一 金屬線樋又ハ金屬管ハ厚サ一耗以上ノモノナルコト
- 二 電線及機械器具相互ノ接續ハ電氣的完全ナラシメ且震動ニ因リ弛緩セザル様堅固ニ取付クルコト
- 三 電燈ハ造管材ニ直接取付クル場合ヲ除ク外電燈吊管、電燈腕管ノ類ヲ以テ之ヲ施設スルコト

四 電球ニハ氣密ナル外球ヲ裝置シ且堅固ナル外装ヲ施スコト

五 電動機ハ火花ヲ發スル部分ヲ有セザルモノ又ハ火花ヲ發スル部分ニ特ニ適當ナル保安裝置ヲ施シタルモノヲ使用スルコト

六 發熱要素ノ露出シタル電熱器ヲ使用セザルコト

第八十九條 本則第三百十條ノ適當ニ施設ストハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 舞臺、奈落、音樂室、映寫室及道具類又ハ人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ニシテ碍子引工事ニ依ルモノニハ第四種絶緣電線ヲ使用シ且外物ノ接觸ニ因ル損傷ヲ防止スル様適當ノ裝置ヲ爲スコト

二 「ボーダーライト」ト屋内配線トノ接續線ニハ第二種可撓紐線ヲ使用シ且之ヲ皮革又ハ「ズツク」ノ類ヲ以テ外装スルコト但「ボーダーライト」ヲ移動セザル様裝置シタル場合ニ在リテハ電線ニ一・六耗以上ノ第四種絶緣軟銅撚線ヲ束ネタルモノヲ使用スルコトヲ得

三 第一號ノ場所ニ使用スル電球線ニハ奈落ニ在リテハ第三種乙可撓紐線其ノ他ノ場所ニ在リテハ第二種可撓紐線ヲ使用スルコト

四 第一號ノ場所ニ於テ移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但シ床上ヲ引摺リ又ハ外傷ヲ受クル虞アル場合ハ之ヲ可撓金屬管、「ゴム」管ニ藏メ若ハ皮革、「ズツク」ノ類ヲ以テ外装シ又ハ麻絲其ノ他強靱ナル物質ヲ以テ更ニ編組シタルモノヲ使用スルコト

五 舞臺、奈落、音樂室及映寫室ノ電路ニハ他ノ屋内配線ト獨立ニ之ヲ遮斷シ得ル様開閉器及自動遮斷器ヲ適當ナル箇所ニ裝置スルコト

六 電球、抵抗器其ノ他溫度過昇ノ虞アル器具類ハ可燃質物ト容易ニ接觸セザル様適當ニ施設スルコト

第九十條 本則第三百十一條ノ適當ノ構造及施設トハ左記ノ如キヲ謂フ

一 電熱器ハ左記ニ依ルコト

(イ) 交流一キロワット、直流五百ワットヲ超過スル電熱器又ハ之ニ接近シテ各極ニ適當ナル開閉器ヲ裝置スルコト但シ電熱器ニ接續スル電線又ハ可撓紐線ニ挿込型接續器ヲ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(ロ) 電熱器ト電線又ハ可撓紐線トノ接續部分ハ熱ノ爲電線又ハ可撓紐線ヲ損傷セザル構造ト爲

- スコト但シ接続部分ニ於テ温度過昇ノ虞アル場合ハ電熱器ニ接続スル電線又ハ可撓紐線ニハ耐熱構造ノモノヲ使用スルコト
- (ハ) 固定セル電熱器ハ周圍ノ可燃質物ト適當ニ離隔シ又ハ適當ナル耐熱裝置ヲ施スコト
- (ニ) 百五十ヴォルト以上ノ電熱器ノ金屬製外面ハ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト但シ使用電壓二百五十ヴォルト以下ニシテ中性點ヲ接地シタル電路ニ接続シテ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- (ホ) 前號(ニ)ノ接地線ヲ可撓紐線内ニ編込ム場合ニ於テハ其ノ部分ノ接地線ニハ一耗以上ノ軟銅線ヲ使用スルコトヲ得
- (ヘ) 保温電熱器座蒲團、炬燵、足温器等ニハ危險ナル程度ノ温度上昇ヲ爲サザル様自動的ニ温度ヲ制限シ又ハ電流ヲ遮斷スル裝置ヲ施スコト
- (ト) 電熱器ニハ其ノ使用電壓、ワット數(又ハ電流)及製造者名ヲ表示スルコト
- 二 電鈴、豆電球等ニ使用スル豆變壓器ハ左記ニ依ルコト
- (イ) 單捲變壓器ヲ使用セザルコト
- (ロ) 變壓器ハ一次電壓百五十ヴォルト以下、二

- 次電壓十ヴォルト以下、二次短絡電流三アムペア以下ノモノナルコト
- (ハ) 變壓器ハ其ノ一次側端子ノ充電部分ニ人ノ容易ニ觸レザル様施設スルコト
- (ニ) 變壓器ニハ其ノ一次側及二次側端子ヲ容易ニ識別シ得ル様適當ノ記號ヲ附スルコト
- (ホ) 變壓器ノ一次側ニハ適當ノ場所ニ自動遮斷器ヲ裝置スルコト
- (ヘ) 變壓器ニハ一次電壓、二次電壓、二次短絡電流及製造者名ヲ表示スルコト

## 第四章 電氣鐵道

### 第一節 通則

- 第九十一條** 本則第四十一條第三項及第四百十七條第二項ノ適當ニ施設ストハ左ノ如ク施設スルヲ謂フ
- 一 架空電線ト架空弱電流電線トノ離隔距離ヲ増加スルコト
  - 二 直流電源ノ電壓波形ヲ平滑ナラシムル裝置ヲ爲スコト
  - 三 歸線ノ不絶縁部分及大地ニ通ズル電流ヲ減少セシムルコト
  - 四 弱電流電線ノ地板ト電氣鐵道ノ歸線トノ距離ヲ増加スルコト

### 第二節 電車線路及第三軌條

- 第九十二條** 高壓電車線ガ道路ヲ横斷スル箇所ニ於テハ公衆ヲシテ注意ヲ爲サシムル様適當ナル施設ヲ爲スコトヲ要ス
- 第九十三條** 本則第五百十五條ノ適當ノ施設トハ左ノ各號ニ準ジ施設スルヲ謂フ
- 一 電車線及之ニ接續スル吊架用線ト弱電流電線ト

- ガ四十五度以下ノ角度ヲ以テ交叉シ又ハ水平距離低壓ニ在リテハ二・五米以下、高壓ニ在リテハ四米以下ニ於テ並行スルトキハ電車線又ハ吊架用線ノ上部ニ細則第四十八條ニ規定スル保護網ヲ設クルコト但シ水平距離低壓ニ在リテハ一・二米以上、高壓ニ在リテハ二米以上ニシテ垂直距離各其ノ一・五倍以下ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 電車線及之ニ接續スル吊架用線ト弱電流電線トガ四十五度ヲ超過スル角度ヲ以テ交叉スルトキハ電車線又ハ吊架用線ノ上部ニ細則第四十九條ニ規定スル保護線ヲ設クルコト
  - 三 保護網又ハ保護線ト電車線若ハ之ニ接續スル吊架用線又ハ弱電流電線トノ垂直距離ヲ低壓ニ在リテハ六十種以上、高壓ニ在リテハ一・二米以上ト爲スコト但シ保護網ト弱電流電線トノ垂直距離ハ弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ三十種迄ニ短縮スルコトヲ得
- 弱電流電線ニ第四種絶縁電線若ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルトキハ前項ノ裝置ヲ省略スルコトヲ得
- 第九十四條** 本則第五百十六條第二項ノ特殊ノ事由アル場合トハ架空單線式電氣鐵道ノ半徑小ナル軌道曲

線部分ニ於テ電車桿ノ離脱ニ因リ障害ヲ生ズル虞アル如キ場合ヲ謂フ  
 前項ノ場合ニ於テハ張線ノ不接地部分ノ長サヲ電車線ヨリ一・五米迄ニ増加スルコトヲ得

第三節 歸線

第九十五條 本則第百六十四條第一項ノ特殊ノ施設トハ歸線ノ不絶縁部分ト地中管路トノ間ニ不導體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中二米以上ヲ通過スルニ非ザレバ兩者間ヲ流通スルコト能ハザラシムル施設ヲ謂フ

前項ノ不導體ノ離隔物トハ「アスファルト」及砂ヨリ成ル厚サ六種以上ノ絶縁物ヲ「コンクリート」其ノ他ノ物質ヲ以テ機械的ニ堅牢ニ保護シ龜裂ヲ生ゼザル様施設シタル如キモノヲ謂フ

第九十六條 本則第百六十五條第一項第四號及第百六十六條第一項第二號ノ計算ハ左記ニ依ルモノトス

一 平均電流ハ車輛運轉ニ要スル直流側ニ於ケル一年間消費電力量「キロワツト時」ヲ八千七百六十ニテ除シタルモノヲ基礎トシテ計算シタルモノナルコト

二 歸線ノ電流ハ漏洩セザルモノトシテ計算スルコト

三 軌條ノ抵抗ハ左式ニ依リ計算シタルモノヲ標準トスルコト

$$R = \frac{1}{W}$$

R ハ繼目ノ抵抗ヲ含ミタル單軌道一杆ノ抵抗 (オームヲ單位トス)

W ハ軌條一米ノ重量 (珎ヲ單位トス)

第九十七條 本則第百六十六條第一項第一號ノ特殊ノ方法トハ左ノ如キ方法ヲ謂フ

一 「ボンド」ニ切斷面積百五十平方珎以上ノ銅撚線ヲ使用シ之ヲ熔接ニ依リ堅固ニ取付クルコト

二 獨立セル二箇以上ノ「ボンド」ヲ堅固ニ取付ケ前號ト同等以上ノ導電力ヲ有セシムルコト

第九十八條 本則第百六十七條ノ適當ナル施設トハ左ノ各號ノ一ニ準ジ施設スルヲ謂フ

一 車馬ノ通行スル踏切ニ敷設シタル軌條ハ他ノ部分ニ敷設シタル軌條ヨリ電氣的ニ絶縁シ軌條ト大地トノ間ニ電位差ヲ生ゼシメザル様施設スルコト

二 車馬ノ通行スル踏切ハ軌條間並ニ軌條ノ外側ニ二・五米ニ互リ堅固ナル基礎ヲ施シ且其ノ表面ニ相當ノ厚サヲ有スル「アスファルト」「コンクリート」ノ如キ絶縁性質物ヲ施スコト

### 電氣工作物規程

前項第一號ノ施設ヲ爲ス場合ニ於テ軌條ノ接續線ニハ第四種絶縁電線ヲ使用シ且之ヲ管又ハ種内ニ藏メテ施設スルコトヲ要ス

#### 附 則

本令ハ昭和七年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ施行シ又ハ施行中ノ電氣工作物ニシテ本令ニ抵觸スルモノハ左ノ區別ニ依リ改修スルコトヲ要ス

一 本則第二十六條第四項、第二十七條第四項、第五十二條、第六十八條第一項第四號、第六十九條第二項、第七十條第一項第四號、第八十八條、第八十九條、第一百一條、第一百三條、第一百四條、第一百六條第二項、第三項、第二百二十六條第一號、第二百二十八條第一號、第三百三十三條第一項第一號、第三百三十四條第一號、第三百三十八條第二號、第三百三十九條、第一百六十五條第一項第二號又ハ第一百六十六條第一項、細則第七十條又ハ第九十八條第二項ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ一年內

二 本則第十五條、第四十四條第一項第一號、第七十一條第一項、第七十五條第一項、第八十條第一項、第九十七條、第一百條第一項第八號、第一百三條第三項又ハ第一百六十四條第二項、細則第三十一條第一項、

### 第四章 電氣鐵道

第三項、第五十八條第三號、第五十九條第一號ノ(ハ)、第六十條第一項第三號、第四號、第五號、第六十一條第二號、第八十九條第五號又ハ第九十三條ノ規定ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ三年內  
三 前二號以外ノ規定ニ抵觸スルモノハ改築ノ際前項第一號及第二號ノ電氣工作物ハ其ノ改修期間内ト雖モ改築ヲ爲ス場合ニ於テハ本令ノ規定ニ依リ施設スルコトヲ要ス



電氣工作物規程

不許複製

定價 25 錢

大正九年十一月十日印刷  
大正九年十一月十五日發行  
昭和七年十一月廿五日改正第六十二版印刷  
昭和七年十二月一日改正第六十二版發行

編輯發行 株式會社 オーム 社  
兼印刷人 代表者 浪岡具雄

東京市神田區錦町三丁目十八番地

印刷所 オーム社印刷部

東京市神田區錦町三丁目十八番地

發行所 株式會社 オーム 社

東京市神田區錦町三ノ一八, 振替東京 20018

大阪出張所

大阪市北區堂ビル 404, 振替大阪 69205

獨逸電氣事業 經濟研究	配電盤用器具	補増 鐵塔と其設計	電氣傷害	百故障失策	水力學
東邦電力調査課 經濟學士 廣正著	大同電力技師 弘田龜之助著	岡工學士 大元政一 義明共著	久保進校 宮原哲三著	オーム社編 編輯部編	神戸高工教授 歌原定二著
菊判紙表紙 二〇〇頁 〇八〇六〇	菊判紙表紙 四〇五頁 〇二五九一〇	菊判紙表紙 二〇三頁 〇二二六六一〇	菊判紙表紙 一〇三頁 〇〇三三六〇	菊判紙表紙 三〇四頁 〇三三六六一〇	菊判紙表紙 三〇四頁 〇三三六六一〇
著者は新進の篤學者、獨逸電氣事業に關し、絶好の現世考書である。其の蘊奥を研究し、	各種の斷り論と實際を述べ、内外調整の著書に其の	計事は電氣の系統を詳しに論じて、其の重要なる點を	木柱は鐵塔の柱に於て、一般に鐵塔の柱に於て、	如何なる體積の電氣が、如何なる體積の電氣が、	如何なる體積の電氣が、如何なる體積の電氣が、

電氣理論 交流理論	電氣經濟講話	實業學 校學教員檢定 試驗問題 解答	電氣の 概念と 漏電の 豫防	電氣 實驗 大要	一 般 電氣 理論 考へ方 解き方
特許局技師 片岡木久吉著	遞信書記官 平澤要著	七尾セメント會 社技師 持木勇次郎著	工學博士 澁澤元治著	東京工大教授 尾木義一著	工學士 吉野辛一 吉松氏吉著
菊判紙表紙 五〇四頁 〇四五七〇〇	菊判紙表紙 上二卷 下二卷 各價 〇四三〇	菊判紙表紙 四六六頁 〇〇四二〇	菊判紙表紙 一〇二頁 〇〇六六〇	菊判紙表紙 四六六頁 〇〇三二〇	菊判紙表紙 四六六頁 〇〇三二〇
基礎的理論を網羅し、明瞭に説明する。其の要點を、	實業界の實情を、簡明に説明する。其の要點を、	電氣の概念を、簡明に説明する。其の要點を、	漏電の豫防を、簡明に説明する。其の要點を、	電氣の實驗を、簡明に説明する。其の要點を、	電氣理論の考へ方を、簡明に説明する。其の要點を、



短波長無線 電話	無線電信電話	交流理論 及其計算法	工業電熱	直流機の設計と 其の實際	回轉變流機との理論 と應用
工學士 中野孝吉 共著	工學士 中野孝吉 共著	工學士 池谷宗太 共著	京都電燈常務 石川芳次郎 著	神戶高等工業 清家正 著	明電舎技師 石山龍雄 著
送價二菊 〇三八判 二〇〇洋 一〇頁裝	送價五菊 〇五九判 三三七洋 〇〇頁裝	送價五菊 〇五八判 三〇〇洋 〇〇頁裝	送價四菊 〇五五判 三三五洋 三〇頁裝	送價三菊 〇三八判 二二〇洋 一〇頁裝	送價三菊 〇三〇判 二五〇洋 一〇頁裝
つや短波長無線の研究に於ては、その成果を秘して之を	無線電信の技術は、その進歩が著しく、その研究に於ては、その成果を秘して之を	交流理論の基礎は、その進歩が著しく、その研究に於ては、その成果を秘して之を	工業電熱の基礎は、その進歩が著しく、その研究に於ては、その成果を秘して之を	直流機の設計は、その進歩が著しく、その研究に於ては、その成果を秘して之を	回轉變流機の設計は、その進歩が著しく、その研究に於ては、その成果を秘して之を

電線及電纜	發電水力的利用	對稱座標法解説	和英獨 電氣術語大辭典	電氣 質疑應答集	電氣實務講話
北海帝國大教授 小野孝治 著	工學博士 木多勘一郎 著	工學博士 別宮貞俊 著	編輯部編	編輯部編	電氣協會編
送價一菊 〇一六判 一八六洋 〇〇頁裝	送價四六 〇五五判 三五五洋 三〇頁裝	送價二菊 〇二〇判 二〇一洋 一〇頁裝	送價六六 〇四六判 一〇四洋 二〇頁裝	送價二四 〇一〇判 〇二七洋 六〇頁裝	送價二菊 〇二六判 二三四洋 四〇頁裝
電線及電纜の技術は、その進歩が著しく、その研究に於ては、その成果を秘して之を	發電水力的利用の基礎は、その進歩が著しく、その研究に於ては、その成果を秘して之を	對稱座標法解説の基礎は、その進歩が著しく、その研究に於ては、その成果を秘して之を	和英獨電氣術語大辭典の基礎は、その進歩が著しく、その研究に於ては、その成果を秘して之を	電氣質疑應答集の基礎は、その進歩が著しく、その研究に於ては、その成果を秘して之を	電氣實務講話の基礎は、その進歩が著しく、その研究に於ては、その成果を秘して之を

初等配電法	廣田精一文抄	誘導電動機 應及其用	電氣サイン	整流器	蒸氣發電所
七尾セメント 持木勇次郎著	前神戸高工校長 廣田精一著	芝浦製作所技師 磯野達一郎著	東京電氣技師 小西彦磨 共著	東京工業大學 教授 勝著	大同電力技師 弘田龜之助著
送價二菊 〇一〇判 二八洋 〇〇頁裝	送特二菊 〇九判 二六洋 二〇頁裝	送價二菊 〇二八判 二五七洋 一〇頁裝	送特二菊 〇〇二判 〇〇六洋 〇〇頁裝	送特二菊 〇〇一判 〇〇三洋 〇〇頁裝	送價三菊 〇三五判 二二〇洋 一〇頁裝
主として選第三種受驗者として編 述せしむるもの取らざるが如き良 初學者の手に親しむるに失はざら ルに改訂電氣の取らざるが如き良 電氣教育の普及を期すに力をつく 著者評傳が萬筆小中の餘表を著 文津正傳が萬筆小中の餘表を著 序の電氣の普及を期すに力をつく 悉く電氣の普及を期すに力をつく 誘導電動機は總ての動力に使用し 一般電氣の普及を期すに力をつく 論を多し得る例を添ふ初學者の著 最近の電氣の普及を期すに力をつく 計に應ずるに力をつく	電氣サインの普及を期すに力をつく 小西彦磨の著書は電氣サインの普及 東京電氣技師の著書は電氣サインの 川口誠彌の著書は電氣サインの普及 福田博士の著書は電氣サインの普及 弘田龜之助の著書は電氣サインの普及	蒸氣發電所の普及を期すに力をつく 大同電力技師の著書は蒸氣發電所の 弘田龜之助の著書は蒸氣發電所の普及 弘田龜之助の著書は蒸氣發電所の普及	整流器の普及を期すに力をつく 東京工業大學の著書は整流器の普及 勝の著書は整流器の普及	材料強弱學の普及を期すに力をつく 岡田成賢の著書は材料強弱學の普及 古川隆松の著書は材料強弱學の普及	電氣事業の經濟の普及を期すに力をつく 元信省の著書は電氣事業の經濟の普及 三宅福馬の著書は電氣事業の經濟の普及

電氣用 初等 材料強弱學  
七尾セメント會社 持木勇次郎著  
送價五菊 〇四〇判 三〇七洋 〇〇頁裝

電氣事業の經濟  
元信省 三宅福馬著  
送價二四六判 〇一〇〇洋 八〇頁裝

電熱工學  
東京帝國大學 大松次郎著  
送價一四六判 〇二五〇洋 一〇頁裝

電工夜談  
藤井完次著  
送價二四六判 〇〇八七並 六〇頁裝

送電配電  
北海帝國大學 小串孝治著  
送價二菊 〇二四判 二二六洋 一〇頁裝

電氣事業の經濟の普及を期すに力をつく  
元信省の著書は電氣事業の經濟の普及  
三宅福馬の著書は電氣事業の經濟の普及

電熱工學の普及を期すに力をつく  
東京帝國大學の著書は電熱工學の普及  
大松次郎の著書は電熱工學の普及

電工夜談の普及を期すに力をつく  
藤井完次の著書は電工夜談の普及

送電配電の普及を期すに力をつく  
北海帝國大學の著書は送電配電の普及  
小串孝治の著書は送電配電の普及

材料強弱學の普及を期すに力をつく  
岡田成賢の著書は材料強弱學の普及  
古川隆松の著書は材料強弱學の普及



電氣界の燈明臺 技術家の羅針盤

# 電氣雜誌 OHM

大正三年十一月創刊 毎月一回一日發行

- ◎オームは電氣學術界の白眉でありまして、毎號 8000部を發行致して今や海外に迄盛んに雄飛しつつあります。是で如何に世間から歓迎せられて居るか知らると思ひます。
- ◎各欄電氣の専門大家が分擔執筆せられ、青年技術家の爲めには自由論壇として紙面を提供して居ります。又趣味と實益とに富んだ各種の懸賞問題を載せてあります。
- ◎一年數回講演會を開催致しまして、學界、業界に於ける新歸朝の名士を聘し、海外の最新知識を直接に讀者の耳に傳へて居ります。
- ◎選試受験者の爲めに、每次試験問題を掲げ、之に解答を附し、又模擬試験と紙上模擬試験とを行ふて受験上の利益を圖つて居ります。
- ◎本社印刷部では本社獨特の新式活字を用ひて鮮明に印刷し、殊に表紙には絢爛目を奪ふに足る美術印刷を施し、内容の豊富と相照應して其美を發揮して居ります

## オーム豫約特價

一冊 金五拾貳錢也 (郵稅共) 三冊 金壹圓五拾錢也 (郵稅共)  
六冊 金貳圓九拾錢也 (同) 十二冊 金五圓七拾錢也 (同)

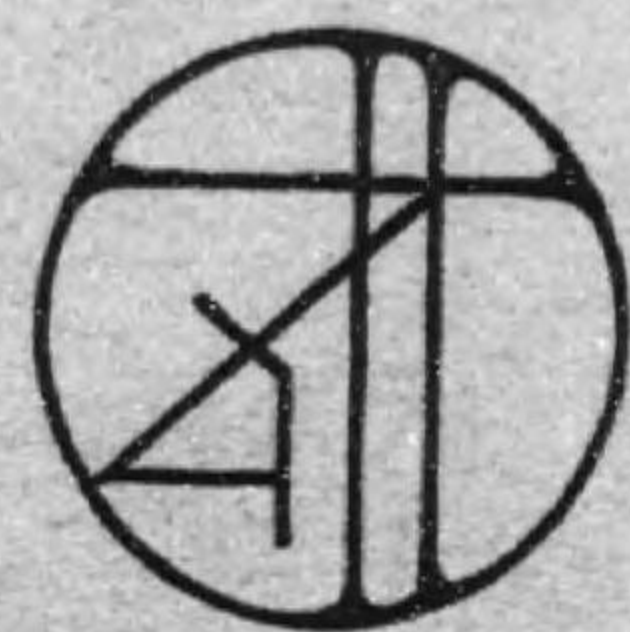
オーム綴込カバー

定價金五拾錢  
送料十二錢

東京 發行所 大阪  
神田區錦町3ノ18 株式會社 オーム社 北區堂ビル  
振替東京 20018 番 振替大阪 69205 番

特 219

488



終